



* 0048030000 *

0048030-000

263.7-181

良き日本人たることを統一原理
としたる家事教材の研究

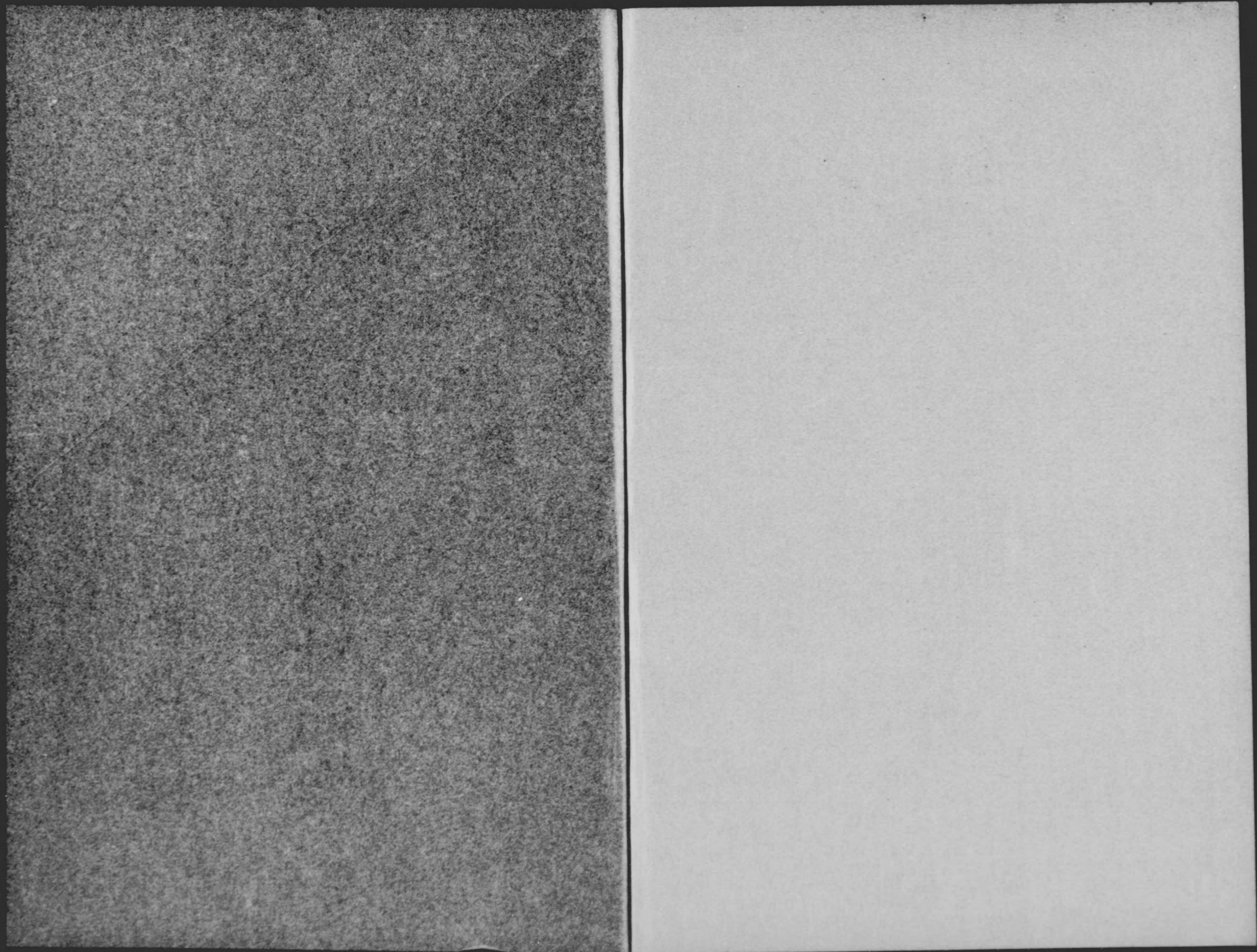
石沢吉磨・著

目黒書店

昭和9

AHH

272



石澤吉磨著

良き日本人たることを統一原理としたる



家事教材の研究



東京 目黒書店發行

2637-181

序

眞善美聖の價値を追求して止まざる向上發展の生活は文化の理想である、然しながら吾人の生活は現實と離るゝこと能はざるを以て、身體の生活に於ては健康を求め、經濟の生活に於ては富貴を望み、國家の生活に於ては鞏固を希ひ、以て健富強の現實生活と眞善美聖の理想生活との融合統一を圖るこそ、全人生活の目標では無からうか。

蓋從來の家事教授は、衣食住等に關する家庭生活事項を、衛生と經濟との二原理を以て之を貫通統一すべく努力し來れることは、現實生活の價値達成を求めたる所以として、大に首肯するに足るのであるが、更に加ふるに國家的鞏固の價値を以てして、健富強の現實價値の完成を求めざりしことを深く遺憾とする。

思ふに現代に於ける世界の情勢は、各國々民が互に國家組織の下に生活し、國

家の保護・國民の協力によつて福利の増進を圖り、國際の協調・國交の深厚によつて平和の確保を圖つてゐる。従つて何れの國家にも從屬せざるか或は統制なき國家に從屬せるものは、福利と平和とを享受すること能はざるは多言を要せざる所である。

我等は萬國に比類なき國に生を享け、萬國に誇るべき國民精神を有してゐる。此の國體を尊重し此の精神を發揚して、益々國家を鞏固にし、其の平和を確保し其の福利を増進し、進んでは世界人類のために貢献する所あらねばならない、況や現時の非常時日本としての國民生活に於てをやである。

本書は家事教科書の内容をして、良き日本國民としての家庭生活を營ませんがため、單に衛生・經濟の二原理のみでなく、國民として必要なる『國家の鞏固』なる新生面に就きて研究し、之を以て家事教材の統一原理とし、以て健富強の現實生活を完成し、全人生活の教養に資せんことを努めたものである。

著者は公務の餘暇零碎なる時間を利用して研究と執筆とに努力はしたが、時間の許さざる結果未だ盡さざる所あるべきを憂ふ、讀者幸に實地指導に際し、更に研究補足せらるれば幸である。

昭和八年晚秋

於奈良 著 者 識

良き日本人たることを統一原理としたる **家事教材の研究**

目次

第一章 緒論……………

第一節 教材研究の現状……………一

教材研究の三方面——教材選擇の研究——教材内容の研究

第二節 教材研究の不備……………七

家庭の利益だけを主眼とせる不備——國民生活と家事教育

第三節 教材研究の指導原理と統一原理……………一四

家事教材研究の指導原理——家事教材内容の統一原理

第二章 食物……………

第一節 人口と食糧……………二

目次

我が國の人口密度と人口増加の現状——耕地面積及び米の生産高と消費高——食糧調節の必要

第二節 食糧調節の方法……………三〇
一般の方法——胚芽米の常食——廢米の防止——米の用途の制限——食事の改良——栄養本位の攝食——飲食物の社交亂用廢止

第三節 食物費の節約……………四一

食物費節約の必要——消費組合加入——産業組合法——共同炊事主義の實行——大量生産加工品の購入——食器の規格統一——國産物の使用

第四節 漁業奨励と其の利用……………七七

我が國に於ける漁業の現状——我が國に於ける漁業の將來——魚肉の栄養價值——本邦人の魚肉に對する嗜好

第五節 奢侈浪費の廢止……………九二

生活慾望の二種——奢侈の家事經濟に及ぼす影響——浪費の家事經濟に及ぼす影響——奢侈浪費の國家經濟に及ぼす影響

第六節 嗜好品の節制……………一〇〇

一般の生理的性質——茶・コーヒー及びココア——酒精飲料——嗜好品に對する注意

第七節 未成年者の禁酒及び禁煙……………一〇八

未成年者に及ぼす飲酒及び喫煙の影響——未成年者飲酒禁止法——未成年者喫煙禁止法

第八節 社交上の飲食物の改善……………一一二

來客接待法に關する改善——葬儀に關する改善——社交的宴會に關する改善

第三章 衣 服……………一三〇

第一節 衣服の國民精神表現……………一三〇

衣食住發達の順序——衣服の起源に關する概説——衣服の起源と効用説——衣服の起源と進化的意義——衣服の文化的意義

第二節 衣服の變遷と流行……………一三六

衣服の變遷——流行の意義——流行の内部的要素——流行の外部的要素

第三節 和服洋服の二重生活……………一四二

我が國の服飾の現状——和服洋服の長所・短所——和服洋服の單用と併用——現代の服制統一論の概観

第四節 衣服の經濟……………一五八

衣服費の概観——服種の減少——買溜の廢止——地質染色の堅牢——廣幅長尺物の切買——裁縫の改良——既製品の利用

第五節 洗濯及び仕上……………一九〇

衣服材料配給の現状——國民の自力更生と衣服の壽命延長策——誤り多き洗濯仕上法と其の改良法

第六節 衣服の保存……………二一九

保存と經濟との關係——清潔——乾燥——整形——容器——曝涼——殺蟲劑

第四章 住宅……………二三三

第一節 住宅の目的……………二三三

目的の概観——家族の生命財産の保護——家族の團樂慰安——家庭的修養——國家への奉公

第二節 住宅難と住宅經營……………二三八

人口都市集中と住宅難——住宅難の現状——住宅經營の必要と經營の方針——經營の方法

第三節 住宅の買入・借受……………二四九

住宅の買入——買入に關する法律上の規定——住宅の借受——借受に關する法律上の規定

第四節 住宅の建設……………二六三

位置——廣さ——高さ——境界・牆壁——其の他の注意——建築物に關する規定

第五節 建築材料及び様式……………二七六

建築材料——建築様式——間取様式——設計圖——仕様書——建築施工法

第六節 照 明……………二八七

必要——條件——照明法の經濟

第七節 汚 物 處 理……………二九九

汚物處理の義務——大掃除——糞尿處理

第八節 燃 料……………三〇七

價額騰貴——需要増加——産出狀態——燃料節約

第五章 看 護……………三一九

第一節 看護の必要……………三一九

國家的立場より見たる看護の必要——職業看護婦と家族の看護

第二節 自宅治療と病院治療……………三二六

自宅治療の不備——病院治療の長所——法規による隔離病院治療

第三節 種 痘……………三三四

目 次

痘瘡の傳染及び症狀——痘瘡豫防に関する法規

第四節 法定傳染病……………三三八

法定傳染病の傳染及び症狀——届出及び消毒——禁止事項——傳染病による通學禁止

第五節 結核及びトラホーム……………三五六

結核豫防——消毒法——他の豫防事項——禁止事項——トラホーム豫防

第六節 家庭常備薬及び常備器具……………三六四

家庭常備薬及び常備器具の必要——家庭常備薬——家庭常備器具

第六章 養 老……………三六八

第一節 養老の精神……………三六八

孝は百行の本——忠孝一本の國民的家庭的訓練

第二節 養老の方法……………三七二

精神の慰安——身體の保養

第七章 育 兒……………三七九

第一節 育兒の務……………三七九

母としての務——母としての喜

第二節 育兒の研究……………三八〇

我が國の乳兒の死亡率——體重は乳兒の健康のパロメーター——乳兒の運命を支配する哺育法——育兒上注意すべき三種の體質

第三節 母乳哺育……………三八八

母乳哺育は最高の誇——母乳哺育の長所——母乳哺育の方法

第四節 育兒に関する社會施設……………三九七

乳兒院——保育所——託兒所——小兒保健所——幼稚園——小學校

第八章 家 事 經 濟……………四〇三

第一節 家事經濟の意義……………四〇三

經濟行爲——經濟主義——家事經濟——家事經濟と國家經濟との關係

第二節 家事經濟の原則……………四〇六

家事經濟の發達——家事經濟の原則

第三節 收

入

収入の源——財産所得——財産相續——勤勞所得

四二四

第四節 支

出

消費と支出——消費經濟の原則——生活費の支出配當

四二七

第五節 收支調節

收支調節の意義——収入の増加と安定——財産の異動——支出の節約——賣買に關する法規

四三五

第六節 貯蓄及び保險

貯蓄の必要——貯蓄の方法——貯蓄の種類——保險の必要——保險の方法——保險の種類

四三七

目次終

良き日本人たることを統一原理としたる 家事教材の研究

石澤吉磨著

第一章 緒論

論

第一節 教材研究の現状

(一) 教材研究の三方面 現行はれて居る家事教材の研究は、これを三種の方面に區別することが出来る。その一は教材の選擇に關する研究であり、その二は選擇せる教材の内容に關する研究であり、その三は内容を研究せる教材の排列に關する研究である。而して本書の研究目的が、良き日本人としての家庭生活を完成させることにある限り、その二の教材内容に關する研究を主とし、その一の教材選擇に關する研究にも觸れるが、その三の教材排列に關する研究はこれを除外する。

〔二〕教材選擇の研究 現今家事科教授上に於て、教材の種類に關し選擇上必要視されてゐることは、左に掲ぐる三項である。

- (一) 家庭生活上に必須なる事項なること。
- (二) 生活環境内の事項なること。
- (三) 基本的代表的事項なること。

こゝに生活必須事項と稱するのは、學習者の各家庭に共通して必要にして且缺くべからざる生活事項を指すもので、換言すれば家庭生活上に普遍性を有する事項を意味するのではあるが、而かもこれ等の事項中には『普通』に遭遇する事項と、普通ではないが『重要』なる事項とがある。依て家事教材は第一に普通にして且重要な生活必須事項を選び、第二に重要なことも普通ならざる事項は之を割愛して普通なる生活事項を選ぶことを妥當だとしてゐる。

生活環境内の事項を學習せしむることは、『教育は即生活である』との立場より見たる當然の歸結であつて、教育は學習者の生活を完成せしむることにある以上は、その教材をその範圍内より選擇せねばならぬ譯である。而して生活環境内より選擇されたる事項ならば、それは學習者に近きものであり、近きが故に之に親しみ、親しむが故に理解に適し、理解に適するが故に興

味を起し、興味を起すが故に漸進的學習勇氣を鼓舞することゝなるといふのは、その論旨とする所である。

基本的事項とは、その教材に關與する知識技能を以てするとき、他の多くの家事的事項を構成遂行し得るものを意味し、代表的事項とは、その教材が包有する内容は、代表せんとする他の多數の家事的事項の内容を總括具有することを意味する。蓋し學校教科目としての家事科教授の時間數には一定の制限があつて、無數の家事的事項を學習せしめ、之を指導し盡す事は到底不可能事である。依てこの間に處し家事科教授の効果を出來得るだけ大ならしむる方法としては、ある有限の事項によつて修得したる知識技能を以て、他の無數の家事的事項に應用せしめ得べからしめねばならない、この目的を達するための教材は即ち基本的代表的事項であらねばならぬのである。

〔三〕教材内容の研究 次に家事教材の内容に關し、選擇上必要なりとして現今唱導されつゝあることは、左に掲ぐる三項である。

- (一) 現代化されたる事項なること。
- (二) 社會化されたる事項なること。

(三) 地方化されたる事項なること。

現代化とは、現代學術の進歩によりて研究された學理を基礎とせる最良最善の内容を有せねばならぬとするのである。今これを家事の經濟的方面に關して觀察すれば、生産及び配給に屬する事項は、社會企業として獨立經營されて居ると同時に、現代學術の發達に成る最高の理論を應用して、至大極微の妙を盡して改良發達の極致に達せるかの感あるにもかゝらず、獨り消費に屬する事項は家庭作業として取殘され、而かも常識的經驗的に取扱はれ、殆ど何等の改良發達をなさざるやの感なきを得ない。かくの如きは、現代文化の一大缺陷にして、之を救ふの途は、消費事項に現代學術の應用を加へてこれを改良發達せしむることにあらねばならぬ。この意味に於て家事を科學化すべしと稱し、或は家事教材の内容を現代化すべしと稱するのである。

社會化とは社會經濟化すべしとの意義である、元來如何なる經濟的行爲にもせよ、その規模の大なるほど有利なることは、今更こゝにいふまでもなきことである、かの近世に於ける資本集中による大量生産主義や百貨配給主義の如きは、皆この經濟主義的原則の一表現形式たるに過ぎぬものである。然るに從來の家事經濟は各戸孤立の分離單獨主義であつて、各家庭が個々

別々の孤立經濟を行ひ來たつたため、その規模狭小にして不利なることは決して少からずであつた。かの消費組合や購買組合は、ここに見る所があつて、その初めは無産労働者階級の人々の經濟的救濟の一手段として、互に團結して少額ながらも資金を出して組合を組織し、協同して比較的多量の生活必需品を、小賣商を省略して卸商又は生産工場より直接購入を行ひ、仲買商又は小賣商及び卸商の手に歸すべき手数料を減額し、安價に購入することによつて家事費の支出減少を求めたのであるが、その成績頗る良好なるを以て、現時に於ては一般家庭にてこれを實行することになり、且現に實行されつゝあるのである。

家事の社會化は、この意味を有らゆる家事的事項に適用して、各家庭が協同團結して大規模に家事的行爲を有利に遂行せんとするもので、購買行爲以外に上水道、下水道、消防警備、傳染病豫防消毒清潔法、電燈、ガス、圖書館、公園、公設市場、公衆浴場等の施設を善用するはいふまでもなく、更に進んで社會の専門分業をも家庭生活に善用し、或は新に共同炊事の方法等をも研究實施せんことを望むものである。

世には往々にして醫術の社會化、法律の社會化等を唱ふる人もあるが、この種の社會化は、醫術や法律の一般公衆への理解普及を目的するものの如くであつて、家事の社會化の如く社會

協同を意味するものではない。果して然らば彼は醫術法律の通俗化に努力するのに反して、我は家事的行爲の社會協同に努力する點に於て大にその趣を異にするのである。

地方化とは郷土化と大同小異であつて、家事的事項の内容をその地方その郷土の實際生活に適切ならしむべきことを指すものである。思ふに地方郷土の異なるによつて、氣候風俗産物習慣も亦異なるべきであるから、衣食住等の生活状態も亦異なるべきであり、又異ならねばならぬ必然の要求がある。従て家事的事項の内容は、その地方に即し、その郷土に關するものたるべしとするのは地方化郷土化の意味である。かの北國と南國、都市と村落、山國と海濱等によつて、同種の教材にてもその内容を異にすべきが如きである、従て家事の地方化は郷土化と同意義であると同時に、實際化と同一結果に到着する。

然しながら地方化實際化に關して注意すべきことは、その地方の實際生活の改善指導に適切であれとの要求で、その地方の現實の實際生活その儘であれとの要求ではない、何となれば實際生活その儘なる時は、改善指導に何等の貢献を奏せぬからである。曾て或る地方に於て、家事の實際化を研究して、『家事實習に於て使用する材料は、現に當地方に於て使用し居る材料に限るべし』『家庭實習に於て使用する材料の分量は、現に當地方に於て使用し居る分量に従ふべし』

し』と結論したと聞く、果してかくの如くんば如何にして家事の改善を望み得べきか、家事科教授は那邊に其の使命を發見し得るであらうか、地方化問題の精神をかくの如く誤解すべきではない、宜しく『使用し居る』を『使用し得る』と改むることこそ本旨ではあるまいか。

第二節 教材研究の不備

〔一〕**家庭の利益だけを主眼とせる不備** 家事教材の研究は、その種類に於て生活必須・生活環境及び基本的代表的事項に着眼し、その内容に於て現代化・社會化及び地方化を主眼としたことは、家事教育の發達に甚大なる貢献を及ぼしたとはいへ、其の研究改良の對象は家庭であつて、從來の家事研究が一家庭の生活上の幸福増進を目的とし、これを主眼として有らゆる教材の内容を構成せしめ、國家の幸福増進、國民としての家庭生活の完成といふ點に關心せなかつたこと、或は關心せしことの極めて尠なかつたことは、家事教材研究上の一大缺陷であつたといはねばならない。

何となれば、世界人類の現状は、國家組織の下に協同の生活をなすに非ずんば生活の安定や幸福の増進を求むることが不可能であるから、國民としての共存共榮の下に、一家の幸福増進

を求めねばならない、換言すれば國家のための家庭生活完成を期待しなければならないのである。

今この例證を住居關係事項に需むれば、衛生上より下水の掃除を行ふ場合に於て、毎日下水溝を竹箒にて搔立てながら清水を上流より下流に流しつゝ、洗へと指導はしても、その汚水が自家の敷地以外に一步流れ出でし後の處置には何等言及することなきは從來の教材内容であつた、斯くの如くんば如何にして蚊の發生豫防や傳染病の蔓延豫防などの目的を達し得ようか、宜しく隣家町内組合と協同してこの掃除法を實行し、且時々適當なる石油乳劑又は石灰乳等の殺菌殺蟲消毒劑の撒布を指導することが、社會衛生上極めて必要にして、そはやがて自家生活の幸福を招く所以を知らしめねばならぬであらう。

更に例證を衣服關係事項に需むれば、衣服の選擇に於ける經濟的條件として國產品は安價なるが故にこれを使用すべしと指導したとしても、そは經濟的目的の一小部は達せられるが、他の一大部が達せられぬ缺陷あるを免れ得ないのである、何となれば斯くの如きは一家の小範圍の經濟的利益だけを主眼したる結果、國家の一大經濟的利益より受くる一家經濟的利益を見逃してゐるからである。蓋我が國の從來の織物の規格は着尺物即小幅一反物で、賣買はこの着尺

物一反の丸賣丸買法である。然るにこの法によれば、着用者の體格の如何によつて多少の切落しを生ずるを以て、これを無益に縫込みとするか或は端切布として切捨てざるを得ないのである。然るに我が國の人口は昭和五年度の調査によれば九〇三九萬五〇四一人であるから、平均一人が一年に一着の衣服を新調するものとし、着尺物一反につき假に一尺の切落の端切布を生ずるものとするときは、全人口につき一年に切落總尺九〇三九萬五〇五一尺に達する。これを一反の長さ二八尺とすれば、 $90395041 \div 28 = 3228394$ 即ち三二二萬八三九四反となり、その價を一反平均七圓とすれば、切落損失高は實に $3228394 \times 7 = 22598758$ 即ち二二五九萬八七五八圓となる。

かくの如き損失は國家經濟上より見て由々敷大問題であると同時に、家事經濟上より見ても亦重要な問題である。然るに從來各家庭に於ける衣服の調達は、この問題に無關心であり、この不經濟を救ふの方法として大幅長尺物の製織を國家が奨勵し、既に改良されたセル地・モスリン地・ネル地の於きに於てすらも、この大幅長尺物から體格の大小に應じて必要なる長さだけ切賣し切買ひすることなく、これを着尺幅一反に切斷包装して販賣し、家庭は切買を避け切斷包装物を購入するが如きは、國民の經濟的觀念が極めて貧弱にして、何等國家的見地な

きことを證するものだといふべきである。而かも家事教授はその衣服の學習指導が、衣服は個性表現に適せねばならぬなどのパーソナルな問題はこれを取扱ふも、國家的國民的見地からこれを如何にすべきかの如きナショナルリチャーの問題を等閑視することは極めて遺憾なりとすべきである。

更に又例證を食物問題に需むれば、我が國民の主食物なる米飯に於て、從來の家事教授指導は米の種類・成分、主食品としての米の特質、良否の鑑別、米飯の炊方、消化吸收及び榮養作用、米飯の保存等を取扱ひはするが、これを國家的見地より考察して、人口食糧問題上より見たる米飯に就きては、それは爲政者の業であるとしても考へしものか、何等の關心をも持たざりしことは、國民教育上より見て一大缺陷であると斷せざるを得ない。即ち我が國の米の産出高は消費高に及ばざること約五五〇萬石餘であるから、この調節法として、八分搗胚芽米の常食、無砂搗不陶洗米の利益、殘飯の防止、廢米の豫防、雜穀の利用法、主食品用以外の米の亂費防止等、家事に於て研究實行すべき大問題の多々あることを閑却すべきではない。然るに家事教授は、これ等の國家的立場より見たる家庭の米の消費問題には何等觸るることなくして、單に個人的に見たる衛生上の要求や、孤立的に見た家庭の經濟上の要求からだけ教材の内容を研

究してゐたことは、教材研究上重大なる缺陷である。

以上は、單に住居・衣服及び食物事項中より各その一例證を挙げたに過ぎないが、他の看護・養老・育兒・家事經濟及び家庭管理に屬する部門に於ても、亦同様に閑却されたる幾多の重要事項を發見し得る。否寧ろ家事の有らゆる教材を通じて、吾人は國家的見地、國民的立場より留意しなければならぬ重要事項を發見するのである。

(二) 國民生活と家事教育 吾人の生活に關する文化價値の何なるかに關しては、種々これを論議することを得べく、又現に論議されつゝある事柄である。而して文化は、吾人の收得する體驗的生活事實を、一定の標準によつて支配し統一し、其の究極に於て理想を實現せんとする過程であつて、その價値の典型的なるものは、テイムタイム派の哲學的所説によれば、理想的には眞善美聖にして現實的には健富強であり、而かもこれ等の價値の總てを統一總合してこれを實現する所の生活は、價値的に見たる全人生活であることは、拙著最新家事教授法精義にこれを詳述してゐる。

然るに、この全人生活の創造實現は、單獨なる孤立的的生活にては達成せられ難きもので、横に空間的には社會公衆との協力により、縦に時間的には祖先より子孫に亘つての努力に待たね

ばならないことは、幾多の歴史的事實がこれを證明してゐる。かのテイルタイ氏の精神科學論に立脚せる文化體系に關する所説も亦これを力説せるもので、『精神科學の直接の問題は、價値の創造目的の實現で、こは精神の構造に基づく内面的な根本的要求である、この要求が一步一步に進められて行く所に生活の活動があり實在の生命がある。而してかゝる價値創造や目的實現は、吾人の孤立せる單獨生活によつては満足に達成することは出来ない。何となれば、個人の活動力は弱く、又活動範圍は狭く、且個人の生命は極めて短いものだからである。故に國民同胞は一致協力し、同一の價値目的を追うて活動し、且子々孫々その志を繼承して、これを追求することによつて遂に達成さるゝに至るべきである』との言は、即ち國民同胞の一致協力の必要を高唱せるものである。即ち吾人は一方に於て國民として國家組織の下に生活し、國憲國法の保證保護を受くと同時に、他方に於て家族として家庭生活を營爲し、國家を擁護し國憲國法を遵守するに非らずんば、生活の安定を求め、その價値目的を満足に達成することが出来ない。換言すれば、吾人は愛國心の基礎の上に文化價値創造の努力を拂ふことによつて、その目的實現を爲し得るのである。

世には、愛國心は國際精神や平和精神と互に相容れぬものであると考へる者もあるが、それは主我的偏見にして、吾人の思考する所によれば、愛國心はこれを延長すれば國際精神ともなり平和精神ともなり、これを縮小すれば愛郷心ともなり愛家心ともなる、換言すれば愛國心といひ國際精神といひ平和精神といひ、或は愛郷心といひ愛家心といふも、皆これ同一精神の發露に外ならぬものである。故に愛國心の培養や國民精神の作興は、決して國際精神や平和精神と相容れぬものではない。従つて、國民同胞の一致協力による所の文化價値創造や、目的實現の努力は、何等文化の發展を阻害するものではない。同様に家事教育上、國家的見地より教材内容を研究することは、文化の發達に極めて緊要だといはねばならない。

親に仕ふる心を以て君に仕ふるを忠と稱し、君に仕ふる心を以て親に仕ふるを孝と稱し、忠と孝とは全く同一精神の發露であると同様に、家を受するの心を以て國を思ふは愛國心であり、國を受するの心を以て家を思ふのは愛家心であり、愛國心と愛家心とは全く同一精神の發露であることは明らかである、従つて國と家とは相關一體のもので、忠孝一本の精神は即これである。かのウエルス氏が『愛國心はこれを延長すれば國際精神となり、これを縮小すれば愛家心となる所の人道である』といひ、フイヒテ氏が『獨逸人たることは即人間たることである』といひ、ナトルフ氏が『國民意識による共同文化財に對する國民同胞協同の努力は、吾人が爲す

べき最高の義務である』といったのは、何れも同様に國民的協力の必要を高調せしものと見るべきで、良き日本國民たることは良き世界人たることであると同時に、良き家人たることであらねばならないのである。

第三節 教材研究の指導原理と統一原理

(一) 家事教材研究の指導原理 生活上に於ける典型的文化價値は、既に述べたるが如く理想的には眞善美型にして現實的には健富強であつて、學問の生活に於ては眞を求め、道德の生活に於ては善を求め、藝術の生活に於ては美を求め、信仰の生活に於ては聖を求め、身體の生活に於ては健を求め、經濟の生活に於ては富を求め、國家の生活に於ては強を求めんことを希ふ。即ち吾人はその生活に於て、良心の支配に基づき、眞理の籠つた、而して人道に叶つた、美しく麗はしき、溢る、ばかりの信念の上に打ち建てられた、健全にして富み榮えた強固なる國家の下に、日に新らたにして日々に新らたなる、向上發展の途を開くべく最善の努力を拂ふべきであつて、これが即文化だとしたのである。

斯くの如く文化は理想を追求して止まる所なき向上發展の努力ではあるが、何人たりとも現

實生活と離るゝことは出来ない。換言すれば、吾人は高遠なる理想の基礎に現實生活を築き上げねばならない、依て眞善美型の價値を理想價値と稱し、健富強の價値を現實價値と稱し、この理想價値實現の努力の下に現實價値の生活を求むるのである。即ち理想あつての現實で、理想なき現實は文化生活の敢て追求する所ではない。

然るに、我が國人の實際生活を觀察すれば、道德的には著しく優れてゐて誇るに足るべきものがあり、又國民としての信仰信條に於て甚だしく堅固なる一定不動なものがあつてこれを支配してゐる。更に國民の保健衛生に關しては、その進歩發達の世界に誇るべきもののあることは、遠くは醫學界に貢献せる知名の士が簇出せることや、近くはオリンピックに覇權を握れる事實等はこれを證據立てるものだといふべきである。

斯くの如く考察すれば、吾人の生活上に於ける缺陷の甚だしきものは、眞理に叶つた合理的の生活が不充分であること、經濟生活特に消費經濟の研究實行の進歩が經濟の他の部門なる生産配給に比して甚だしく幼稚であること等である。換言すれば、家事整理の方法は多年の經驗による常識的取扱ひにのみ據るもので、これを近世學術の最高發達による理論及びその應用に準據して、經驗的常識の洗練をせぬことと、消費經濟は一家を社會より孤立せしめ、單に消極

的節約の方法のみに着眼せしこととの缺陷がある。

この見解により、教育は缺ける所を補ひて完成を期せよとの原則に従ひ、家事教育上に於ける教材研究の指導原理として、先づ左記の二項を掲ぐるのは最も適切妥當だとすることができ

(一) 科學的研究 家事教材を物質科學的及び精神科學的研究特に物質科學の方面から研究して、その内容を充實せしむること。

(二) 社會經濟的研究 家事經濟を社會公衆との協同の下に行ふ方法を研究實行して、消費經濟を有利に導くこと。

前者は生活の合理化であり、後者は生活の經濟化である。然るに吾人の生活が、單に合理化され經濟化されただけでは、無味乾燥にして何等の濡ひも無かるべき筈である、從て他の善美聖等の文化價值を求めて、その統一に成る全人生活をなすべきだから、吾人は善美聖等の内より、比較的缺除され居るものと見るべき美の價值を以て第三の指導原理と爲さんことを主張する。

(三) 藝術的研究 家庭生活を藝術的に研究して、これを美化すること。

元來人間生活はこれを藝術だと見ることができ、況んや家庭生活それ自體は大なる藝術である、故に之を藝術的方面より研究して、科學的研究經濟的研究に織込み、以て生活を美化することは、最も望まじきことであり、又文化生活上當然のことでもある。

蓋藝術は美を以て理想とし、この美的理想を一面に於ては客觀的に表現すると同時に、他面に於ては其の客觀的表現物を觀て、そが表はす美的理想を感得するものである。前者は即ち創作にして、後者は即ち鑑賞である、一は精神内部にある理想を作品によつて外部に表はすものにして、他は外部にある作品によつて、そが表はす理想を内部に取入るものである。従つて家事に於て、家庭生活上の美的理想を、科學化社會經濟化の研究と調和綜合して我が家庭の實際生活に作品として表現すると同時に、その表現せる作品としての家族生活を、家族と共に鑑賞翫味して、そこに無限の喜びを感得せんとするのは、著者が科學的社會經濟的研究の外、藝術的研究を以て、家事教材内容研究上の三指導原理とする所以である。

(三) 家事教材内容の統一原理 文化價值の何なるかを論じ、その典型的なるものを考察することは、文化哲學上に於ける研究の一問題である。然しながら、文化哲學は教育學でない、従つて文化哲學の講究する文化價值は、そのまゝに教育學が所期する教化價值たることはできな

い。然らば、文化的に考察せる教育に於ては、その教化價值を如何に見るのであるか。

この問題に關する、スプランガー・ケルシエンスタイネル諸氏の所説によれば、客觀的なる文化價值は、文化哲學の問題で、單に價值の典型そのものが何であるかを對象としてこれを研究すれば足るのであるが、教育學に於てはこれを以て直に對象とすべきではなく、被教育者を價值保有者として、至上至高なる人間愛によつてこれを實現せしむべく陶冶せなければならぬ。換言すれば、教育はこれ等の價值典型をば、被教育者に體驗憧憬せしめ、且これを行爲に變せしめなければならぬ、この文化價值の陶冶化が即ち教化價值である。

この陶冶化に於て、眞善美聖の理想價值及び健富強の現實價值を體驗憧憬させ且行爲に變せしむる場合、それ等の價值の何れか一種若しくは數種のみを高調偏重せしめ、他を輕視若しくは放棄せしむることは、極力これを避けねばならない。即ち學術の生活に没頭して眞を求むるには忠實であるが、經濟の生活を非議して富を意に介せざるが如き、或は藝術的には一世に秀でたる生活をなすも、道德的には世人の指彈を受くる行爲を敢てするが如きは、文化教育の共に採らざる所である。

更にこれ等の價值の陶冶化に於て、價值典型の總てが追求されたとしても、唯雜然として個

々別々に之を分離さすべきではなく、渾然一體としてこれを統一しなければならぬ。同様の見地から、家事教材内容の研究に於ても、從來の研究に於て足らざりしところ及び缺けたりしところの、科學的研究・社會經濟的研究・藝術的研究を爲すだけで、それ等の研究結果を雜然として教材に取入る、だけでなく、これを或る原理の下に統一することが極めて必要である。然らばこの統一原理は何であるか、著者はこれを『良き日本人たること』なる國民精神を以てせんことを主張するものである。

思ふに、文化價值の教育上に於ける陶冶説に於て、國民意識を覺醒し國民精神を作興せしむることの必要は、何人も異議なかるべき筈であり、特に現時の狀勢に於ては痛切にその必要を感得せらるべきであるが、稍もすれば世には一國を無視して一家を説き、一國を考へずして人類愛を唱ふるものもあるが、斯くの如きは現代の世界人類の總ては、何れかの國籍を有し、國家組織の下に生活の安寧を維持し、幸福を享受してゐることの現實を忘れたる謬見であると云はねばならない。何となれば一國あつて一家があり、一國が安寧にして始めて一家の幸福が招かるべきだからである。

これに依て考ふれば、國民精神の基礎の上に立てる共存共榮を目的とせる文化財を教材内容

に織込み、これを以て教材を統一することが極めて重要なことだといはねばならない。換言すれば、家事教材は單に一家生活の利害得失のみ目標とせる内容を持つべきではなく、これを國家的に考慮して『良き日本人としての家庭生活』を営ましむべく、その教材内容を研究整理しなければならぬと思ふ。

これを要するに、家事教材内容の研究は、その指導原理として科學的原理・社會經濟的原理及び藝術的原理の三つを以てし、それ等の統一原理として『良き日本人たること』なる國民精神の原理を以てすべきだと主張するのである。本書が、良き日本人たることを統一原理とせる家事教材内容の研究を主題としたのは、この統一を助成して、家事教授の國家的發達を促がさんとの微意に外ならぬのである。

第二章 食物

第一節 人口と食糧

〔一〕我が國の人口密度と人口増加の現状 食糧問題は何れの國家に於ても留意研究しなければならぬ問題であるが、特に我が國の如く領土狹隘なるに比して人口の夥多なる國にありては、一層その必要の切實なるものがある。

試みに、最近に統計に基づきて、主要なる世界各國の人口密度、即ち每一平方哩に對する平均人口を抄録對比すれば、ベルギーは第一位にして六七九人を示し、日本は第四位にして三七六人を示してゐること、左表の通りである。

國名	密度	國名	密度	國名	密度
白耳義	六七九	伊太利	三二六	亞米利加	三二
和蘭	五四四	獨逸	三一八	澳洲	一八

英吉利	三八九	瑞典	二四三	南阿聯邦	八
日本	三七六	佛蘭西	一八四	加奈太	二

更に、我が國に於ける各時代の人口を列擧すれば左表の數字を示してゐる、表中にはその増加の状況を一見明瞭ならしむるの便を圖つて、一七二六年即ち徳川時代享保一一年度の人口を一〇〇・〇〇として、他の年代に於ける人口の指數をも併記した。

年 代	人 口	指 数
一七二六年 (享保一一年)	二六、五四八、九九八	一〇〇・〇〇
一七五〇年 (寛延三年)	二五、九一七、八三〇	九七・二四
一七八〇年 (安永九年)	二五、〇八六、四六六	九四・四九
一八〇四年 (文化元年)	二五、五一七、七二六	九六・一一
一八四六年 (弘化三年)	二六、九〇七、六二六	一〇一・三五
一八七二年 (明治五年)	三三、一一〇、〇〇〇	一二四・七一
一八八三年 (明治一六年)	三七、〇一七、〇〇〇	一三九・四三
一八九八年 (明治三一年)	四三、七六三、〇〇〇	一六四・八四
一九〇三年 (明治三六年)	四六、七三二、〇〇〇	一七六・〇二

一九一三年 (大正二年)	五三、三六二、〇〇〇	二〇一・〇〇
一九二〇年 (大正九年)	五五、九六三、〇〇〇	二一〇・七九
一九二二年 (大正一一年)	五七、六五六、〇〇〇	二一七・一〇
一九二六年 (大正一五年)	五九、九七五、〇〇〇	二二五・九一
一九二八年 (昭和三年)	六一、六九九、〇〇〇	二三二・三六
一九三〇年 (昭和五年)	九〇、三九五、〇四一	三四四・九二

右表中一九三〇年即ち昭和五年度の人口總數は、同年度に施行せる國勢調査の結果を統計せるもので、内地人口の外に朝鮮臺灣及び樺太の人口を含み、左表の内譯を有してゐる。

地 方	人 口	世 帯	男	女
帝國全土	九〇、三九五、〇四一	一七、五六二、五九三	四五、六七四、七三四	四四、七二〇、三〇七
内地	六四、四四七、七二四	一二、七〇五、八九六	三二、三八八、三六九	三二、〇五九、三五五
朝鮮	二一、〇五七、九六九	三、九八七、七四二	一〇、七六三、二三〇	一〇、二九四、七三九
臺灣	四、五九四、一六一	八〇九、〇七八	二、三五四、六〇七	二、二三九、五五四
樺太	二九五、一八七	五九、八七七	一六八、五二八	一二六、六五九

故に昭和五年度に於ける人口を、内地のみにつきて指數を求め、これを前表に比較すれば二四二・七五となる。従つて一九二〇年(大正九年)以後一九三〇年(昭和五年)に至る一一ヶ年の内地人口平均増加数は、次式の計算により七七萬一三三八人となる。

$$(64,447,724 - 55,963,000) \div 11 = 771,338$$

これによれば、我が國の人口は徳川時代に於ては、約一世紀間を比較しても殆どその増加がなかつたが、明治維新後に至り國運の發展すると同時に人口が増加し、その増加率は次第に増大するの状況を呈してゐる。この人口増加の推移を基礎として、將來の内地人口を推算せる結果は、左表の如くである。

年 度	人 口	指 数	
		享保一一年基準	昭和元年基準
昭 和 元 年	五九、九七五、〇〇〇	二二五、九一	一〇〇、〇〇
昭 和 五 年	六四、四四七、〇〇〇	二四二、七五	一〇七、〇〇
昭 和 一 〇 年	六六、八三三、〇〇〇	二五一、七四	一一一、〇〇
昭 和 二 〇 年	七六、一四四、〇〇〇	二八六、八〇	一二七、〇〇

昭 和 三 〇 年	八六、五六三、〇〇〇	三二六、〇六	一四四、〇〇
昭 和 三 三 年	八九、四三七、〇〇〇	三三七、二六	一五一、〇〇

即ち昭和三三年度の推定人口は、二三三年前即ち約二世紀前享保一一年度の人口の三・三七倍餘に達すべく、又三三年前即ち昭和元年度の人口の一・五一倍餘に達する計算である。

(二) 耕地面積及び米の生産高と消費高 我が國に於ける人口増加は、近年に至りて非常に甚だしくなりつゝ、あるにかゝはらず、食糧の生産はこれに正比例して増加しない。今食糧の主要なる産源である耕地面積の統計によつてこれを觀察すれば、左表に示すが如くその増加は極めて僅少なるものであり、従つて人口一人に對する耕地面積は次第に減少してゐる。

年 度	田 面 積	畑 面 積	面 積 合 計	一人に對する面積
明 治 三 六 年	二、八〇二、〇〇〇町	二、三三二、〇〇〇町	五、一三四、〇〇〇町	一一・〇畝
大 正 元 年	二、八五七、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	五、二五八、〇〇〇	一〇・三
大 正 三 年	二、八六九、〇〇〇	二、三九六、〇〇〇	五、二六六、〇〇〇	一〇・二
大 正 五 年	二、八八〇、〇〇〇	二、三九一、〇〇〇	五、二七一、〇〇〇	九・二
大 正 一 〇 年	三、〇四四、八九〇	三、〇五三、〇三六	六、〇九七、九二六	七・九

昭和元年	三、一一三、四八二	二、九六〇、三一五	六、〇七三、七九七	七・二
昭和四年	三、一九二、一一六	二、七〇五、九七七	五、八九八、〇九三	六・五

即ち人口一人に對する耕地面積は、明治三六年より昭和四年に至る二七年間に110-5514.5畝の減少を示してゐる。而かもこれを田と畑とに分類して前表を觀察すれば、田は總面積に於て僅小の増加を示すが、畑は次第に減少してゐる。これ人口が近年次第に都市集中の傾向を呈せる結果、都市は住宅地の狹隘なるため、郊外の接續地である畑地を地目變更して宅地とし、これに住宅を建設することにより、都市は周圍に膨脹の状態を呈してゐる結果である。今我が國の主要都市の人口推移を見れば、明らかにこの事實を證明する。

都市	種目	大正一四年		昭和四年	
		世帯	人口	人口	人口
東京市		四二九、八五二	一、九九五、五六七	二、二九四、六〇〇	
大阪市		四八三、九九〇	二、一一四、八〇四	二、四〇八、八〇〇	
名古屋市		一六四、一四一	七六八、五五八	九〇四、七〇〇	
京都市		一四八、六七二	六七九、九六三	七五五、二〇〇	

神戸市	一五一、五〇五	六四四、二二二	七五五、二〇〇
横浜市	九五、二七七	四〇五、八八八	五四三、九〇〇

更に内閣統計局の統計年鑑の數字に基づく永井博士の計算によるときは、明治二十一年には人口五萬以上の都市人口は總人口の七・三%に過ぎなかつたのは、僅に三二年後の大正九年には一五・八%に増加し、又人口一—五萬の都市人口は、同期間内に五・五%より一六・五%に増加してゐる。これに反して人口一萬以下の町村人口は、同期間内に八七%より六七%に低落してゐる事實は、村落居住者が村落を去つて都市に移住するによるものである。

次に、農産物中の米の産出高と消費高とにつきて考察せん、蓋米は我が國人の主食品として消費するもので、主食品として必要にして且充分なる左の四條件を略具備してゐる。

- (一) 産出額の豊富なること。
- (二) 栄養素の多量なること。
- (三) 料理法の簡單なること。
- (四) 國民の嗜好に適合すること。

即ち米は、内務省衛生試験所編飲食食物分析表によれば、左表の組成を有し、相當に豊富なる

栄養素を有してゐる、唯米食のみにて他の副食物なき場合には、栄養素が炭水化物中澱粉に偏するの缺點があるだけである。

種目	水	澱粉	纖維素	脂肪	蛋白質	無機鹽
玄米	一四・五〇	七一・六三	〇・九〇	二・四七	八・四〇	一・四六
白米	一三・九一	七六・七九	〇・二五	〇・七七	七・七二	〇・五七

炊飯法は調味を要せずして比較的簡單であり、嗜好は我が國人に適合してゐることはいふまでもない、故に米は主食品としての必要條件中(二)乃至(四)を具備してゐるが、(一)の條件は人口増加と耕地減少の結果、年と共に産額の減少を來して不満足の状態を呈して來たことは、左の昭和四年度の米産出額及び消費額に徴しても明らかである。

種目	數量			
	總石高	一年一人當石高	一月一人當石高	一日一人當石高
生産高	六〇、六九三、八五〇	一・〇三七八	〇・〇八五二〇	〇・〇〇二八四
消費高	六六、二〇六、三五一	一・一三二一	〇・〇九三〇〇	〇・〇〇三一〇
不足高	五、五一二、五〇一	〇・〇九四三	〇・〇〇七八〇	〇・〇〇〇二六

(三) 食糧調節の必要 以上の所説によるときは、人口は年と共に増加し、耕地はこれに正比例して増加するものにはあらず、却つて人口一人當の耕地坪數は年と共に次第に減少し、従つて米の生産高に對する消費高は甚だしく多く、遂に昭和四年度に於て五五一萬二五〇一石の不足を見るに至つた。若し人口増加率と、一人當耕地坪數減少率とが、將來も亦この割合を以て進むならば、早晚我等は食糧供給を如何にすべきかの一大困難に遭遇する。かゝる困難の程度及び時期をして、成るべく小にして且遅からしめんがため、並にその既に來れる或程度の困難を調節せんがため、食糧問題の研究をしなければならぬ。

この研究と實行とは、決して獨り爲政者の問題のみではなく、國民全部の問題である。従つて家事教授上に於ける食物の指導は、深くこれに留意して善處しなければならぬ。かの『菜の葉は如何にすれば青く燦るか』の如きは、過去の時代に於ける家事教育者の主要なる研究問題なりしやも知れずといへども、かくの如きは枝葉末節の研究問題であつて、家事の食物研究問題としては、人口と食糧を如何にして調節すれば、國家に貢献する所以であり、國民の共存共榮の方策であるかの問題こそ、根本にして且重要な研究問題であらねばならぬ。

第二節 食糧調節の方法

(一) 一般の方法 人口食糧問題を調節する方法は、國策としてこれを見る時は多くの方法がある。今その二——三の私案を列挙すれば、移民政策、稻作改良增收法、荒地開拓法、工業製品輸出による貿易調節法等である。ここにいふ移民政策とは、我が帝國の領土以外に移民することによつて人口の過剰を減少させ、以て食糧との關係を調節することにして、例へばブラジルとか滿洲とかに移住するが如きである。稻作改良增收法は、稻作を改良して米を増收せんとするもので、このためには種苗の改良、肥料の改良、耕作法の改良、二毛作の研究等種々の研究すべき事項がある、種苗の改良は繁殖力旺盛で穂の大きくして實りの豊かなるもの、肥料の改良は廉價にして種實量を増さしむるに足るべきもの、空氣中の窒素を自力にて固定し肥料となすアゾトバクターの肥料化利用、荒蕪地山地等の開拓、工業加工製品を盛に輸出して不足米を輸入し以て輸出入金を相殺すること等である。然れども、家事教授上より見る時は、更に又この問題に關して、良き日本人として努力すべき事項が決して少なくない、今次々にこれを列挙する。

(二) 胚芽米の常食 米粒は外面に果皮を有し、次に種皮に包まれ、その内部に蛋白層があり、内部は胚乳によつて滿され、その一端に胚を保つ、胚は子葉幼芽及び幼根の三部を備へ、ビタミンBを多量に含有してゐることは周知の事實で、これを搗きて精白となせば、果皮種皮及び蛋白層の一部又は全部と共に胚を失ふがため、營養素を減少すると共に、ビタミンBの缺乏により、抗脚氣病作用を失ふことも亦普く知られてゐる、特に精白米を充分に陶洗する時に於て甚だしきことは、營養研究上確かめられた事實である。而かも精白米は搗減が最大であるから、收穫による生産米の利用石高を減少することは、さらぬだに生産高は國民の常食としての消費高に達せざること、一ヶ年五五一萬石餘なる點から見ても見逃すべからざる問題である。かくの如く精白米の常食が、營養分減少上と、ビタミンB缺乏症を招くこと、米の利用石高を減少すること等より見て、これを救済せんがため、半搗米・七分搗米・玄米等が試用されたが、而かも胚芽米を用ひるの優れるに如かざること、左の理由によつてこれを知り得られる。

米には粳米と糯米とがあつて、常に米飯として用ひるものは粳米であるが、これに搗方によつて左の二種がある。

(一) 無砂米 白砂を加へずに搗きし米で、搗け方が遅いが砂を混ぜぬため陶洗を省くか、或

は陶洗を簡単にするから、流出によつて栄養分を損失することが少ない。

(二)混砂米 白砂を加へて搗くため、搗け方が早い、陶洗を省き又は簡単にすること能はずに、數回反覆して完全陶洗を行はねばならぬため、流出による栄養分の損失が多く、若し不完全陶洗をなせば、砂の有害作用を受くるものである。

米は、無砂搗によつて搗上ぐるとしても、その精白の程度によつて左の種類があつて、各種が栄養上の得失を異にする。

(一)精白米 搗減が最大にして、胚芽と共に果皮種皮及び蛋白質を失ひ、栄養素量は少なくなる。

(二)半搗米 精白米の搗減の二分一搗減の精米にして、米粒一〇〇中に胚芽を有する粒数が五五に達するものである、これを胚芽保有率五五%とよぶ、ビタミンBの幾分を残すが、消化率及び吸収率が精白米に比して少なく、且味も亦劣るを以て到底國民の常食としては普及性がない。

(三)七分搗米 精白米の搗減の一〇分七に相當する搗減に搗上げたもので、胚芽の保有率は二五%前後であるから、ビタミンBの効果も少なくして精白米に近く、味・消化率及び吸

收率は白米に近く、味も稍嗜好に適するが、栄養上から見れば遺憾なる點がある。

(四)玄米 米が有する栄養素及び胚芽の保有率は完全であるが、味は著しく劣りて嗜好に適せず、消化率及び吸収率も極めて少なく、食慾及び便通をも順調に保つことは困難である。

(五)胚芽米 搗減は精白米の一〇分八を標準とし、胚芽の保有率は八〇%以上に達し、味は精白米飯に近く、消化率も亦精白米に近く、栄養素及びビタミンBを多量に含有してゐるから、栄養上から見て前四種の米中で最良のものにして理想的だといへる。

胚芽米は、栄養上より見て前述の如く極めて有利なるのみでなく、食糧調節上より見ても亦有利なる長所がある。何となれば、胚芽米を常食として用ひるとすれば、その搗減は八分なるを以て、精白米を常用する場合に比して搗減に於て二分の搗減々少を防ぐこととなるからである。即ち精白米の搗減を假に一分とすれば、胚芽米の搗減は八分であるから、全國の米生産高六〇六九萬三八五〇石に對しては、その搗減の減少度二分の石高は左式の如くである。

$$60,693,850 \times (0.10 - 0.08) = 1,213,877$$

即ち一二一萬三八七七石で、この結果は精白米を常用する場合に比して、恰も米の生産高がそれだけ増収したと同様の結果である。これ胚芽米の常用が獨り栄養上に有利なるため、家事

教授がこれを教材としてその實行を生徒に指導を與へるだけでなく、國家の食糧問題調節上、良き日本人として國家に對し國民に對して、共存共榮のため實行すべきものだと指導を與ふべき所以である。

〔三〕廢米の防止 東京鐵道局の調査によれば、省線各驛に於て販賣する汽車辨當の空箱に残留廢棄せらるゝ米飯粒は、一箱につき平均三一五粒である。然るに同局内に於ける一ケ年間の驛辨賣上高は、平均三七五萬三七一四個であるから、空箱によつて残留廢棄せらるゝ米飯粒總數は、左式の計算が示す通り、一ケ年間に一一億八二四一萬九九一〇粒となる。

$$315 \times 3,753,714 = 1,182,419,910$$

而して、一升の米粒數は平均七萬四〇〇〇粒なるを以て、前記の廢棄米飯粒數を石高に改算するときは、一五七石三斗五升五合九勺となることは、左式の通りである。

$$1,182,419,910 \div 74,000 = 157,3559$$

他の鐵道局に於ても、この數字に大差はないと見得るにより、全國の四鐵道局に就きてこれを見積れば、前記の石高の四倍であるから、その廢棄による損失總量は六二九石四斗二升三合六勺となる。

$$157,3559 \times 4 = 629,4236$$

更にこれを各家庭の廢棄損失につきて計算すれば、假に炊事洗ひ濯ぎ等に際して、平均一人につき毎食時に米飯一粒づゝの割合に廢棄損失するものとしても、一人につき一日に三粒となるから、昭和五年度の調査による全國の人口九〇三九萬五〇四一人につきては、二億七一一八萬五一一三粒となり。

$$90,395,041 \times 3 = 271,185,123$$

これを一ケ年三六五日に積算すれば、左式に示すが如く、實に九八九億八二五六萬九八九五粒の大量に達する。

$$271,185,123 \times 365 = 98,982,569,895$$

これを一升の粒數七萬四〇〇〇粒にて除して廢棄石高を見出せば、一萬三三七六石二升二合九勺となる。

$$98,982,569,895 \div 74,000 = 13,376,0229$$

故に胚芽米常用による搗減防止石高一二一萬三八七七石と、驛辨當殘飯防止による石高六二九石四斗二升三合六勺と、家庭に於ける廢棄米防止による石高一萬三三七六石〇二升二合九勺

とを累計すれば、驚くべし實に一二二萬七八八二石四斗四升六合五勺に達する。

$$1,213,877,0000 + 629,4236 + 13,376,0229 = 1,227,882,4465$$

この利得石高は、全國民一ケ年間の米の消費不足高五五一萬二五〇一石の約四・四分之一を補充する計算となる。これによるも、日常生活上の些細なる注意が重大なる影響を國家に及ぼすものなるを知り得ると同時に、家事教授が國家的見地から、この種の充分なる注意指導に努力すべきことが知られる。

$$5,512,501,0000 + 1,227,822,4465 = 4,408$$

〔四〕米の用途の制限 我が國民にあつては、米は主食品であり、而かも食糧として米は自給自足上に不足を告ぐるのであるから、一方に於て米の生産増加を圖ると同時に、他方に於て消費を節約しなければならぬ。廢米損失の防止はこの目的のためであるが、更に米の不足なる限り、主食品としての用途以外に成るべくこれを使用せざることは、國民の自衛・食糧の獨立上極めて重要な事項である。

この見地よりすれば、工業上に於ける澱粉材料としては米澱粉を使用することなく、雜穀及び薯類澱粉を使用する方針を採ることは急務である。かの酒精飲料醸造原料として、最上種の

精白米を使用する日本清酒の如きは、その消費石高實に一ケ年五萬九四〇六石にも達してゐるから、これを主食品に轉用する時は、米の不足高五五一萬二五〇一石の九二・七九分一を補充することを得、胚芽米及び廢米の利用を合算すれば、不足高の四・二八二分一の補充となる。

$$5,512,501 + 59,406 = 92,790$$

$$5,512,501 + (1,227,882,4465 + 59,406,0000) = 4,282$$

故に米を原料とせる日本清酒に對する唯一の嗜好を改め、麥・葡萄・馬鈴薯等を醸造原料とせるビール・葡萄酒・薯酒又は理研酒の類に對する嗜好に轉化すべく、飲酒の嗜好を馴致し養成することが必要の問題である。

その他一般工業上に用ひる澱粉材料、例へば澱粉糊の如きは雜穀澱粉糊を用ひることとし、家事上に於ける衣類洗濯後の仕上糊の如きも、小麥澱粉、馬鈴薯澱粉、玉蜀黍澱粉、布海苔、デキストリン、ゼラチン等の類を用ひることは、食糧調節上重要な事項にして、良き日本人として家庭生活を指導する家事は、その教材内容の研究上特に注目すべき事項である。

〔五〕食事の改良 我が國人の食物攝取の一般習慣を見るに、主食品としての米飯のみを以て腹八分位を満たし、残り二分位を副食品を以て満たしてゐる、殊に村落地方等の筋肉労働者に

於てこの傾向が甚だしく、女學校等に於て學習せしむる猷立の如きはや、もすれば一種の學習上の形式に止められて、一般國民の現實的事實は米飯を以て腹を満たすにあることは争はれない。かの『不景氣で飯が食へない』とか、『収入が不足で飯が食へない』とかの『飯が食へない』なる語は、これを物語つてゐる。故に、米の供給が需要に應じ難き現時の状態を救済して、國家の食糧問題を緩和するために、毎食事に於ける主食品と副食品との攝取量の割合を改良することが必要である。この改良は、獨り食糧問題の緩和に有効なるだけでなく、國民の食糧が澱粉食にのみ偏することによる保健上の缺陷をも救済することとなるの利益がある。これ家事教授上に於て、これに注意することの必要な所以である。

(一)米以外の雜穀利用 食糧自給策より見て食事の改良上必要なことの第一は、米と共に雜穀を利用することである。即ち純粹の米飯のみを食ふ習慣を改めて、麥粟等の雜穀類をも併用する目的を以て、麥飯粟飯を用ひるか或は一日三回の食事中一回位はパン食鹽飽食素麵食等を用ひることが急務である。従て家事教授はこの必要を生徒に感知せしむべく勉むると共に、麥飯粟飯等の炊飯法、鹽飽料理素麵料理等をも指導すること、並にこれ等の食物に慣れしむることが、國民的訓練上極めて必要である。

(二)米飯本位の廢止 既に述べたるが如く、米飯を以て腹八分を満たすの不合理なることは、食糧調節上より見ても亦衛生上より見ても明らかであるから、(一)に述べた雜穀を利用すると同時に、米飯又は雜穀飯の分量を減少して、他の副食物量を増加するの食事習慣を馴致することが必要である、換言すれば飯を減じておかずを増すのである。この目的の實現により、假に一人一日平均米の消費量四合が三合に減少し得たとすれば、全人口九〇三九萬五〇四一人につきは、一日に米の節約高九萬〇三九五石〇四一合となり、一ケ年には三二九九萬四一八九石九六五合に達することは、次式によつて明らかである。

$$90,395,041 \times 365 = 32,994,189,965$$

これによれば、優に我が國に於ける米の不足高を補充して餘りあることとなる、家事教授がここにも亦國家的見地よりの努力點を發見することが出来る。

〔六〕營養本位の攝食 我が國人の食事は、食物を營養本位の分量にて攝食する人は比較的少なくして、胃の容量充實本位の分量を以て攝食する人の比較的多い傾向がある。かくの如きは、獨り食糧を浪費するだけでなく、消化機能を疲勞衰退せしめ、甚だしきは消化器疾患を誘發せしめ、且家事經濟及び國家經濟を不利に導くものである。

蓋食物の吾人に必要な所以は、生活作用のために來たす身體の消耗を補給し、且成長の時期にある人及び妊娠中の婦人等は、更に自身又は胎兒の成長に必要な栄養素を攝取するに於けるのだから、食物は栄養本位の見地から、必要な栄養量を取れば足りることを限度として攝食しなければならぬ。従つて家事教授は、左の二點に注意を拂つてこれを指導啓發すべきである。

(一) 栄養に關する知見を確實ならしめ、且これを普及することに力むること。

(二) 攝食上徒に飽食することなくして節制の習慣を馴致することに力むること。

古來攝生の秘訣は腹八分に食ふにあるといひ來つたのは、飽食を戒めた言辭であり、又長命の老人の養生談として掲げた記事などによるも、いづれも飽食を避け腹八分食にて満足し來つたと告げてゐる事實は、飽食の避くべきを證明するものである。

〔七〕 飲食物の社交亂用廢止 飲食物を社交の具として利用し來つたことは、地の東西時の古今いづれも然りではあるが、而かも我が國ではこれを亂用し來つたことは争ふべからざる事實である。かの來客のある場合には、食事時刻ならずとも食事を強ふるの一種の來客優待上の心得なるが如く思考され、又饗應献立の慣用例によれば一の膳の外に、二の膳三の膳甚だし

きは四の膳五の膳等を添へる場合すらもあるのは、即ちこれを物語る事實である。かの來客が有りし時、例へ時刻が午前一〇時とか午後三時とかであつても、鮎でも取寄せて、これに強ふるのは即ちそれであり、又饗應の際には來客が御馳走を重箱詰或は折詰めにして持歸る習慣があるのは、即ち献立が過多なるにも基因し、持歸るべく過多ならしむるにもよる等皆それである。

依て、今後はこの種の因習を一掃し、食糧自給政策に向つて國民協同の努力と實行とのために、家事教授が適當なる指導を與ふると同時に、家事教師は校外の社會指導として、婦人會處女會等に對しても亦その指導に努力を拂ふべきである。この意味に於て、家事教師は獨り校内に於ける教授指導のみを以て任務とせず、その任務の社會的延長として適當なる社會活動をなすべきもので、それがやがて家事科當面の任務を完成する所以でもあると思ふ。

第三節 食物費の節約

〔一〕 食物費節約の必要 家事費中の食物費はその主要部を占むるもので、最下層階級者にあつては殆ど家事費の全部をこれに充てるの狀態にあるものすらあるのである。日本勞資協調會

が大正一〇年より翌一一年にかけて、全国各地に於ける世帯の生計調査を行ひたる結果によれば、家事費総額の多少及び職業状態による食物費の百分率は、左表に示す通りである。

職業	家事費						
	五〇圓以下	五〇—一〇〇	一〇〇—一五〇	一五〇—二〇〇	二〇〇—二五〇	二五〇—三〇〇	
俸給生活者	二二・九〇	三〇・七五	二六・〇〇	二四・三四	二〇・五六	二〇・九九	
労働生活者	四七・一〇	三五・六一	三一・八三	二六・四八	二四・三三	二四・八〇	

これによれば、食物費の百分率は俸給生活者よりも労働生活者が大であり、更に労働生活者中に於ても家事費総額の大なるものよりも総額の小さなものが大であることが知られる。しかし労働者に於けるこの比較は百分率の大小で、金額の多少は家事費総額の小さな方は総額の大なる方よりも少なくなる。

又家事費総額一〇〇—一五〇圓の世帯に於ける、食物費の百分率を、日本労資協調會の生計調査の結果によつて、地方別にこれを比較するときは、左表の如き數字が得られてゐる。

職業	地方											
	東	北	關	東	東	海	關	西	中	國	九	州
俸給生活者	二二・五三	二六・六一	二五・九二	二六・四一	二六・二八	二六・五六						
労働生活者	五一・七〇	三一・〇八	二九・三二	三一・四一	三〇・五九	四一・八九						

これによれば、家事費総額一〇〇—一五〇圓の世帯に於て、食物費の分配率が最大の價を示すものは、東北地方の労働生活者で五一・七〇%である、故に家事費総額から實數を算出すれば、食物費金額實數は五一圓七〇錢 ($100 \times 51.70\%$) 乃至七七圓五五錢 ($150 \times 51.70\%$) となり、又食物費の分配率が最小の價を示すものは、東北地方の俸給生活者で二三・五三%である、故に家事費総額からその實數を算出すれば、二三圓五三錢 ($100 \times 23.53\%$) 乃至三五圓二八錢 ($150 \times 23.53 = 35.28$) となる。

東北地方の労働生活者が、食物費分配率が最高の價を示すのは、氣候寒くして多量の熱量を要すること、社會生活上の生存競争が他地方よりも甚だしからずして、家事費各分科目中食物費以外の交際費・衣服費・衛生費等が分配率小にして間に合ふこと等の理由によるべく、又同地方の俸給生活者は、比較的物價の安きこと、労働者に比して他の分科目費の多くを要すること

等の理由によつて、かゝる現象を呈してゐるのであらう。

要するに、食物は一般に高率の分配を必要とするもので、家事費中の主要なる支途を占むるものである。而かも食物費はロツシャー氏の所謂絶対的慾望以下にこれを減少する時は、栄養不足を招きて健康を害し生命を危殆に陥らしめるものであるから、住居費や衣服費の如くに極端なる節約を不可能とするの特性がある、依て必要なる限度の支出はこれを拒み得ない。そこに、栄養を害さぬ限度に於て、食物費はこれを節約低減する方法の研究の必要を發見する、而かもそれは獨り一家經濟上に重大なる問題であるのみならず、國家經濟上にも亦重大なる影響を及ぼすのであるから、家事教授の食物指導は、唯に栄養とか美味とかを重要視することに偏せず、一家並に國家的經濟の見地より、これを有利に導くことは、良い日本人としての家庭生活を完成せしむるために必要な研究事項である。

(二)消費組合の加入 食物費を節約するために消費組合に加入するのは、同種同量の食品又は食物を、個人的に購入するよりは團體的に購入することによつて、價額を低減せしめんとすることが目的である。

(一)消費組合の必要 物價の高低は、一方に於て消費者の需要と生産者の供給との釣合關係

によつて定まり、他方に於て貨幣價値の大小によつて定まる。然しながら、實際の物價の變動はかゝる經濟學上の原理による外に、人意的原因によつても亦變動される場合がある。即ち生産者又は販賣者が消費者の財貨に關する經濟的實情に迂遠なるを奇貨とし、高價を貪ることがあるからである。これを要するに、物價の高低は、經濟的原因と非經濟的原因とによつて變動することに注意しなければならない。

物價の變動にはかゝる種々の原因があるから、消費者は安價に之を購入して自己の利益を企圖するためには、互に團結して組合を組織し、不正販賣者又は不正生産者を排除し、或は生産者と消費者との中間に介在する煩鎖なる商業機關を省略して、廉價有効に購入する方法を講究しなければならない、これ消費組合の必要なる所以である。

(二)消費組合の目的 物價を公正ならしむることは、一家に關しては家計の伸展を左右し、一國に關しては國運の隆昌に影響する問題であるから、これを合理的方法によつて公正に調節しなければならない。然るに、この方法中商品の配給組織を改善することがその重要なもの、一つである。而してこの改善中、家事が容易に實行し得る事項は、掛買による月末拂制度の廢止、自宅買による御用聞制度の廢止、消費組合による小賣商店を省略して

卸商店或は生産工場よりの直接購入法の實行である。

蓋消費組合と稱するのは、同様又は類似の生活様式にある多數家庭の消費者が、各一定の資本を出して、組合員の生計上に必要な物品を卸商店又は生産工場より共同購入して、組合員に賣却又は分配することによつて、經濟的利益を得んとするのが目的である。この組織は、社會政策の一種として下層階級救済のために、勞働生活者間に實行されたのであつたが、その成績頗る優良なりしを以て、現今は中流階級の俸給生活者間にも實行さるゝに至つたのである。

(三)消費組合の組織 消費組合の組織には多少部分的に異なる法式があるが、大體左の諸點を以てその特徴とする。

- (1) 資本は各組合員は平等に出す、従て組合の利益に對して平等の権利を持つことになる。
- (2) 現金賣をなすもので、決して掛賣をなさぬ、故に貸しが無い。
- (3) 原價にては賣らずに、市場の小賣相場にて賣るか、或は小賣相場より安く原價より幾分高く賣る、故に組合が相當の利益を得る。
- (4) 組合の得たる利益は、その一部又は全部を組合員に配當し、前の場合には利益の他部

を組合員共同の利益に使用する。

(四)消費組合の利益 消費組合を組織することによる利益の主要なるものは、次の八項である。

- (1) 消費組合は、組合員の生計上に必要な同種の物品を、同時に多量に購入することになるから、生産者又は卸商から直接取引をなすことを得る、故に各家庭が小賣商から直接購入をする場合に比して、小賣商の販賣手数料を省くため仕入價額が安價に成る。而かも各家庭は單獨にては生産者又は卸商から購入し得ないのは、各家庭の消費要求量が少ないからである。
- (2) 消費組合が、組合員に市價より安く賣る場合は、各家庭は支出を減少するの利益があり。市價にて賣る場合は、期末に利益配當を受けて、これを有利に運用し得る。
- (3) 品質の優良なるものを購入し得る、何となれば、生産者と消費者との中間にある商人を省くから、不正手段の介在することなく、正當なる品質の物品を公正なる價額にて購入し得るからである。
- (4) 掛買による期末拂ひに伴ふ弊害を根絶し得る、何となれば、掛買は即金拂ひにあらず

して、期末拂ひなるを以て、商人は期末に至るまでの賣掛代金の利子を見積り、これを普通の即金賣價に加算して賣付けることは、當然過ぎるほど當然であり、従て掛賣値段は即金賣値段よりも高價である。依て消費組合組織によつて購入するときは、かゝる掛賣手段を避けることができる。

(5) 御用聞商人よりの買入に伴ふ損失を根絶し得る。何となれば、御用聞商人より自宅買ひをすれば、商品の價額の高低を他店に比較して安價なる店より買入る、手段を採ること能はず。又商人の持參せるまゝの商品を買入る、のであるから、品質の良否を他店の商品と比較して、その優良なるものを買入る、手段を採ること能はず、往々にして品質の劣れるものを高價に賣付けらるゝことがある。然るに臺所口に来る御用聞商人よりの買入れを廢止して、消費組合組織によつて買入るゝときは、優良なる品質のものを公正なる代價にて買入れ得ることゝなるの利益がある。

(6) 商業上の誇大廣告、事實虚構等を無効ならしめて、商業道德の水平準を高め得る。何となれば、各家庭が各小賣商人より單獨購入をする制度による時は、小賣商人相互間の劇烈なる賣出競争の結果、商品の品質が優良なることを誇大に廣告し、或は安價の競争より

やゝもすれば品質劣等なるものを販賣することがある。而かも家庭の消費者は、購入すべき物品に對する専門的知識を有せざるを普通とするか故に、購入に際しては、品質の良否の判定に暗くして、寧ろ價額の高低を以て買不買の意志決定をなす場合の多いため、商業道德の低下を大ならしめる。然るに消費組合組織によつて購入するときは、かゝる弊害を除外し得るから、商業道德の水平準を次第に高むることとなる。

(7) 不合理なる物價の騰貴を或點まで抑制し得る。何となれば、小賣價額は生産工場の原價に加ふるに、仲買商卸商及び小賣商の利潤としての手數料を加算して決定する。故に利潤を多くせんがためには、品質の優良度に準據せる公正價額以上の評價を以て販賣し、以て不當利得をなすことも可能であり、又商人の聯合同盟によつて、この種の價額騰貴を招致させることも亦可能である。然るに消費組合組織によつて購入する場合は、生産者又は卸商を相手として大量購入をなすを以て、比較的この種の弊害を防ぎ得ることゝなる。

(8) 組合員の和衷協同の精神を涵養し、共存共榮の尊き精神を養ひ得る。何となれば、消費組合の目的そのものは既に共存共榮の共同事業であり、且期末の組合決算に利益がある場合は、利益の一部はこれを組合員に配當し、他の一部はこれを組合員の和衷慰安に向け、

或は相互救助の費に使用することを得るからである。

消費組合の外に購買組合と稱するものもあるが、消費組合が生計上必要なるものを共同購入して組合員に配給するに對し、購買組合は産業上必要なるものを共同購入して、これに加工し或は加工せずして組合員に配給するものと規定されてゐる。しかし現今の購買組合又は共同購買組合と稱する組合中には、生計上に必要なるものをも購入配給するものがあり、これ等は産業組合法によつて制定されたものである。

(三) 産業組合法 明治三三年三月七日法律第三四號により公布されたもので、總則、設立、組合員の権利義務、管理、加入及脱退、監督、解散、清算、産業組合聯合會及産業組合中央會、罰則の一〇章より成つてゐるが、左に同法中の根本となるべき總則・設立・及び組合員の權利義務に關する部分を抄録して、法治國に於ける家事教授上の參考とする。

第一章 總 則

第一條 本法に於て産業組合とは組合員の産業又は其の經濟の發達を企圖する爲め左の目的を以て設立する社團法人を謂ふ。

一 組合員に産業に必要な資金を貸付し及貯金の便宜を得せしむること(信用組合)。

二 組合員の生産したる物に加工し、又は加工せずして之を賣却すること(販賣組合)。

三 産業又は經濟に必要な物を買入れ之に加工し若くは加工せずして又は之を生産して組合員に賣却すること(購買組合)。

四 組合員をして産業又は經濟に必要な設備を利用せしむること(利用組合)。

信用組合は組合員外の者にして組合加入の豫約を爲したるものの出資一口の金額及出資一口に付定款の定むる所に依り加入に關し拂込むべき金額の合計額に達する迄の貯金を取扱ふことを得。

信用組合は定款の定むる所に依り組合員に對し其の經濟の發達に必要な資金を貸付し及組合員と同一の家に在る者公共團體又は營利を目的とせざる法人若は團體の貯金を取扱ふことを得。

市又は主務大臣の指定する市街地が組合の區域に屬する信用組合は定款の定むる所に依り組合員に對し其の産業若は經濟の發達に必要な資金の爲め手形の割引を爲し又は前二項の貯金の外組合の區域内に居住する組合員外の者の貯金を取扱ふことを得。

前項の規定に依る貯金は有限責任組合に在りては出資總額及準備金其の他の積立金額の合

計保證責任組合に在りては之に保證金額を加へたる合計無限責任組合に在りては出資總額の五倍及準備金その他の積立金額の合計を越え之を受入るることを得ず。

第四項の規定に依り手形の割引又は貯金の取扱を爲す信用組合は第一項第二號乃至第四號の事業を兼ねることを得ず。

利用組合の設備は組合員の利用に支障なき場合に限り組合員たることを得ざる者をして命令の定むる所に依り之を利用せしむることを得。

前項の設備は勅令を以て之を指定す。

第二條 産業組合の組織は無限責任有限責任及保證責任の三種とす。

無限責任組合に在りては組合財産を以て其の債務を完済すること能はざる場合に於て組合員の全員が連帶無限の責任を負担し有限責任組合に在りては組合員の全員が其の出資額を限度として責任を負担し保證責任組合に在りては組合財産を以て其債務を完済すること能はざる場合に於て組合員の全員が其の出資額の外一定の金額を限度として責任を負担す。

第三條 産業組合の住所は其の主たる事務所の所在地に在るものとす。

第四條 産業組合の名稱中には其の組織及目的を示すべき文字を用ふべし。

産業組合に非ずして其名稱中に産業組合たることを示すべき文字を用ふることを得ず。

第五條 産業組合には本法に別段の規定あるものを除くの外商法及商法施行法中商人に關する規定を準用す。

第六條 産業組合には所得税營業收益税及營業税を課せず。

第六條の二 命令の定むる所に依る産業組合の住宅の建設購入若くは住宅用地の取得又は組合と組合員との間に於ける住宅若は其の用地の所有權移轉に關しては地方税を課する事を得ず。

第二章 設立

第七條 産業組合は七人以上に非ざれば之を設立することを得ず。

第八條 組合の設立者は定款を作り之を主たる事務所所在地の地方長官に差出し設立の許可を請ふべし。

第九條 定款には本法に規定あるものを除くの外左の事項を記載し設立者之に署名捺印すべし。

一 目的。

二 名稱。

- 三 組織。
 - 三ノ二 區域。
 - 四 事務所。
 - 五 出資一口の金額及其の拂込の方法。
 - 六 第一回拂込の金額。
 - 七 剩餘金處分及損失分擔に關する規定。
 - 八 準備金の額及其の積立の方法。
 - 九 組合員たる資格に關する規定。
 - 二〇 組合員の加入及脱退に關する規定。
 - 二一 組合の目的たる事業の執行に關する規定。
 - 二二 存立時期又は解散の事由を定めたるときは其の時期又は事由。
- 信用組合の區域は特別の事由ある場合を除くの外市町村の區域内に於て之を定むべし。
- 第一〇條 産業組合は其の組合員の數を限定することを得ず。
 - 第一一條 出資一口の金額は均一に之を定むべし。

第一二條 組合が其の設立の許可を受けたるときは遅滞なく各組合員をして第一回の拂込みを爲さしむべし。

第一三條 前條の拂込ありたるときは各事務所の所在地に於て設立の登記を爲すべし。

第一四條 登記すべき事項左の如し。

- 一 第九條第一號乃至第五號及第一二號に掲げたる事項。
- 二 設立の許可の年月日。
- 三 理事及監事の氏名住所。

前項に掲げたる事項中に變更を生じたるときは其の登記をなすべし登記前にありては其の變更を以て第三者に對抗することを得ず。

第十五條 行政區劃又は土地の名稱の變更ありたるときは登記簿の記載は變更せられたるものと看做す但し其の記載を更正することを妨げず。

第一六條 民法第四五條第二項第三項及第四八條の規定は期間を除くの外産業組合に之を準用す。

第一六條の二 第一二條の拂込ありたるときは組合は二週間内に其の旨を地方長官に届出で同

時に組合原簿を提出すべし。

前項の規定による届出及提出ありたるときは地方長官は遅滞なく各事務所所在地の登記所に設立の登記を囑託し且主なる事務所所在地の登記所に原簿を送付すべし。

第十六條の三 第一四條第一項に掲げたる事項中に變更を生じたるときは組合は二週間内に變更の登記を爲すべき事項は地方長官に届出づべし但し登記の事由が他方長官の認可其の他の處分に因りて生じたる時は此の限りに在らず。

前項の規定に依る届出ありたるときは地方長官は遅滞なく各事務所所在地の登記所に登記の囑託を爲すべし前項但書の場合亦同じ。

第十六條の四 組合は主たる事務所の移轉又は組織變更の登記に關する届出を爲すと同時に組合原簿を地方長官に提出すべし但し同一の登記所の管轄区域内に於て事務所を移轉したる場合は此の限りに在らず。

地方長官は主たる事務所所在地の登記所に前項の登記を囑託すると同時に組合原簿を送付すべし。

第十六條の五 組合原簿には左の事項を記載すべし。

- 一 出資の總口數。
 - 二 拂込みたる出資の總數。
 - 三 無限責任組合に在りては各組合員の氏名住所。
 - 四 保證責任組合に在りては各組合員の氏名住所及保證金額。
- 登記所の受理したる組合原簿は之を登記簿の一部と看做し其の記載は之を登記と看做す。
- 第一四條第二項及第一五條の規定は組合原簿に之を準用す。

第一六條の六 第一六條の三の規定は組合原簿に記載したる事項に變更を生じたる場合に之を準用す。

組合員の加入の場合に於ては無限責任組合に在りては加入者の氏名及住所を、保證責任組合に在りては加入者の氏名住所及保證金額を記載したる組合原簿を加入の日より二週間内に地方長官に提出し地方長官は遅滞なく之を主たる事務所所在地の登記所に送付すべし。

組合原簿に記載したる事項の變更の届出又は組合原簿の提出は前二項の規定に拘らず其の事業年度の終より二週間内に之を爲すことを得但し組合員の脱退又は保證金額の減少に付ては總組合員の同意を以て定款に之を定めたる場合に限る。

第三章 組合員の権利義務

第一七條 組合員は出資一口以上を有すべし。

組合員の有すべき出資口数は三〇口を超ゆることを得ず但し特別の事由あるときは定款の定むる所に依り五〇口迄之を増加することを得。

第一八條 組合員は組合に拂込むべき出資額に付相殺を以て組合に對抗することを得ず。

第一九條 組合員は組合の承諾あるに非ざれば其の持分を譲渡することを得ず。

組合員に非ざる者にして持分を譲受けむとするときは加入の例に依るべし。

第二〇條 組合員は持分を共有することを得ず。

第二一條 持分の譲受人は其の持分に付譲渡人の権利義務を承継す。

第二二條 新に組合に加入したる組合員は其の加入前に生じたる組合の債務に付ても亦責任を負担す。

第二三條 組合員は總組合員五分の一以上の同意を得て總會の目的及其の招集の理由を記載したる書面を提出して總會の招集を理事に請求することを得。

第二四條 組合員にして總會の招集手續又は其の決議の方法が法令又は定款に違背すと認むる

ときは決議の日より一箇月内に其の決議の取消を地方長官に請求することを得。

(四) 共同炊事主義の實行 如何なる經濟行爲にもせよ、その規模の大なるほど利益が多いものである。例へば、一家數人の家族が、個々別々に毎日毎食時に炊飯割烹をなすよりは、一家族が一家屋内に共同炊事所を設備して、共同炊事をなすときは、如何に利益が大なるかは世人周知の事實で、この場合燃料の熱効率の増大、時間及び勞力の節約、作業場所の狭小等がこれを有利に導くものの主因をなすもので、これ現今各家庭に於て一家族の共同炊事法が實行されてゐる所以である。

然らば、同様の原理により、或る一家族と或る他の數家族との間、即ち一戸と他の數戸との間にこの方法を適用し、各戸共通に需要する食物はこれを共同炊事法によつて調達配給すべく改むることは、今後の社會經濟的革新法として當然行はねばならぬ經濟的改良事業である。かの米飯や汁の如き、この改良による共同炊事の第一に數ふべき種類のもので、この主義を實行するには左の數方式があり得る。

一、各家庭が互に團結協同して共同炊事を行ふ方式。

二、各家庭が任意に公衆食堂・簡易食堂等の専門食堂を利用する方式。

三、辨當屋・料理出前屋等の食物を利用する方式。

四、パン屋・饅頭屋・蕎麥屋等の専門店を利用する方式。

(一)の利用方式は、今後に於て發達施設さるべきもので、各家庭が孤立炊事の有様にある現在方式が、將來に於ては町内組合又は近隣組合が協同して、各家庭に共通に需要されべき食物、例へば米飯・汁物・焼物等を共に炊事するか、或は更に一步進んでそれ等の組合が同一献立の下に全食物を共同炊事して、各家庭に配給するかするのである。前の場合には共通食物以外のものは、各家庭にて各自に炊事して之を補ふこと、あり、後の場合には、各家庭では茶・コーヒー牛乳等を準備すれば足ること、なる。この場合には、各家庭は實費負擔以外には費用を要せぬのである。

(二)の場合には、食事時刻に食堂に食事に行くこととなる、食堂では専門の職人が専門の監督者の下に、比較的安價にして栄養素量や發熱量の完備せる二——三種の献立による公衆向定食を大量生産的に調理するから、所謂規模大にして安價となるのである、この方式は現に都會の一部に於て行はれてゐる。

(三)の方式は、辨當屋料理出前屋等に適宜注意して、自宅に食事を取せ寄るもので、辨當屋

料理出前屋等は、公衆食堂の如く大量生産にあらざるべきも、各家庭の臺所炊事に比すれば、頗る大量生産的な専門業であるから、暴利を貪る不正業者に非ざる限り、各戸炊事式による經濟よりは安價である。

(四)の方式は、パン屋饅頭屋蕎麥屋等に注文してその配達を受けるもので、現に往々實行されてゐるものである。この方式も、各家庭がパンを焼き饅頭を打ち蕎麥を切りて自製自食するよりは遙に時間勞力及び費用の上に經濟であることは、大量生産なることの結果當然であり、それが又手打饅頭手打蕎麥等の絶滅した所以でもあらう。

之を要するに、社會組織が單純で、社會的職業も少なく、經濟生活も左程窮迫せず、恰も昔日に於けるが如き、農家の秋の收穫後の閑散期にあつて、時間も勞力も有り餘つて居る状態にありし場合には、自家自製自食の『賣らぬ主義買はぬ主義』の生活も或は經濟上得策であつたであらうが、現今の如く社會組織が複雑となり生存競争が劇烈となつて、生活活動に日も亦足らざる状態の下にあつては、各人は各自の専門の業務に専心努力して收入をつくり、食物は同じ意味に於て専門業者の大量生産物に供給を仰ぐことが、經濟生活の當然の要求である。

(五)大量生産加工品の購入 現時の家庭の臺所に於ける食物調達の方法は、多くは農牧漁業

の原産物を原形の儘にて購入し、或は泥土を洗ひ落し、或は不可食分を切捨て、更に一切の料理加工を施して之を食卓に上するのである、而かも原産物の買入れは多くは丸買ひにして、魚肉ならば一尾のまゝであり、野菜ならば一把のまゝである、故に獨り下拵にも料理にも多くの時間と努力とを要するだけでなく、食品に過剰や切落しを生ずるのは當然である、特にこの傾向は大都會ならざる他の一般市町村地方の家庭に於て甚だしい。

斯くの如き食物調達の仕事は、獨り家庭婦人をして時間と努力とを多く費さしむるだけでなく、水、燃料及び費用を多く消費して經濟上の不利は決して僅少ではない。

蓋昔時は、婦人の時間價值及び努力價值が低廉であり、且燃料も亦極めて安價であり、水の如きは無代價であつたから、臺所に於ける一切加工の食物調達生活も亦何等の不利がなかつたかも知れない。然るに現時に於ける社會状態は、婦人の職業進出が激増せると同時に、其の間及び努力價值が高價となり、男子のそれと大差なきに至つたことは、昔時の如く農牧漁業の原産物を臺所に買入れ、一切の加工を施す經濟主義を放棄すべく餘議なくせしことの、第一の原因である。

更に物價の變動に就きて考察すれば、昔時は殆ど無代價にて得られた飲料水及び雑用水の如

きも、都市生活者にとつて有料の商品となつてゐることは、水道料金の仕拂ひによつてこれを證據立て、ある。又燃料の如きは、現今の價額を明治三七年日露戰役當時に比較すれば、薪に於て三倍強、木炭に於て四倍強、石炭に於て一八倍弱の騰貴を示してゐることは、左表の通りである。

種類	年次		明治三七年		昭和二年	
	價額	指數	價額	指數	價額	指數
薪 (樺) 一〇貫	〇・四八	一〇〇	一・六〇	三・三三		
木炭 (樺四・五貫入) 一俵	〇・四九	一〇〇	二・二五	四・五七		
石炭 一〇〇斤	〇・四二	一〇〇	七・五〇	一七・八五		

故に、原産物を臺所に買入れて、一切の加工調理を施すことは、高價の仕拂ひをなすこと、なつて、經濟上不利である。況や原産物の買入れは、多くは丸買なるを以て消費過剰を來たし、浪費を招くことは當然の結果である。若しそれ家庭婦人が一定の職業に従事し得る場合を想定する時は、料理のために費す時間と努力とを職業に轉用せし時に得らるゝ報酬か、優に加工食物費を相殺して餘りあるのが普通である。依て今後は、大量生産による或程度までの加工食品

を購入し、家庭に於てはその儘に食用に供するか、或は僅に仕上料理を加ふるのみで直に食卓に供し得る方法を探ることは、經濟上有利である。

然らば大量生産とは何であるか、又この生産は如何なる經濟的利益があるかを明瞭にしなければならぬ。蓋大量生産とは、製品の品質及び規格を一定して、これに適合せる原料を一時に多量に仕入れ、製品の規格に適合せる機械を一齊に完備せる大工場に於て、事業經營者の科學的經濟統制の下に、優秀なる技師に監督されつゝ、多數の熟練せる職工の活動により、部分的専門分擔の作用によつて、良質の製品を一齊迅速且多量に製産する方法である。而して、かかる大量生産を實行することによつて、生産者・配給者並に消費者が得る所の利益の主なるものは、左の如くである。

(一) 生産者が得る利益

一 生産費を低減し得る、何となれば均一なる規格物を大量に加工製作するから、原料の仕入れにも有利であり、製作速度を増加し、時間勞力を軽減し、工賃を減少し、生産能率を増大するからである。

二 製品の品質を向上し得る、何となれば均一なる規格物を反覆製作するを以て、原料を精

選する外に、製作技術に熟達するからである。

三 商取引が迅速にして且確實となる、何となれば規格及び品質の均一製作品であるから、注文に對する見本及び見積が簡單にして且正確であり、製作所要時間及び原料費並に加工賃の計算も亦簡單にして且正確であるの結果、取引契約及び其の實行が迅速確實となる。

四 不當競争を防止して營業上の安全度を高からしめる、何となれば前項の如く生産費を正確に計算し得るを以て、他の生産者との間に競争があるとしても、利潤を目的とする生産者が、缺損を忍びても猶低廉競争をなすが如き無謀の舉をなし得ざるがためである。

(二) 配給者が得る利益

一 商取引が迅速にして且確實となることは、配給者に於ても亦生産者と同様である。

二 商品の信用度が増加する、何となれば商品が安價にして且商取引が迅速確實であるからである。

三 固定資本額を減少して利潤を増加する、何となれば大量生産品にあらざる場合は、製品の品質及び規格が一定せずして、同種の商品にもその品種多きがため、多種多様の商品を仕入れて、賣行悪しきものをも之を店頭に陣列し置くの必要があり、従つて運轉資金が

固定して回轉數を減少するが、大量生産品なる場合は、かゝる結果を生せぬからである。

蓋商業上の利潤を小賣商に就いて考察するとき、運轉資本の一回轉毎に其の金額の一分即一〇%の利潤を得ることを標準とすれば、一萬圓の資本を運轉する小賣商は、一圓の仕入原價の商品を一圓一〇錢に販賣し、一萬圓に對して一〇〇〇圓の利潤を得るが、若し賣行悪しき商品をも仕入れて店頭陳列するの結果、資本が一箇年に一回轉即ち資本金が一且商品となつて仕入れられ、それが賣れて再び現金となつて回收された場合は、一箇年間の營業利潤が一〇〇〇圓であるが、若し大量生産品で賣行きがよく、半箇年で資本金が一回轉すれば、一箇年に二回轉するから、一箇年間の利潤が二〇〇〇圓となる譯である。これ大量生産品は、運轉資本の固定を減少して、同一期間内の利潤を増加する所以である。

(三)消費者が得る利益

一 價格が低廉になる、何となれば生産費を減少することは、先に生産者の受ける利益につきて述べた通りであり、且配給費は商取引の迅速なること、規格が均一なるため荷造りの容易なること、荷箱の大きさを同一にし得るため荷積みの便利なること、運轉資本の固定せぬため回轉數を増すから、同額の利潤を得るためには賣價を低下し得ること等により、

價額が低廉になる。

二 商品の選擇が容易になる、何となれば規格も品質も均一なるにより、消費者が之を購入するに方り、その選定が極めて簡單且容易であることは、恰も現今の商店に於ける書狀用袋の如く、規格品質及び價格の複雑なるものでは、その選擇に考慮と手數とを要するも、規格品質及び價格の一定せる郵便ハガキ郵便切手の如きは、その選擇購入に殆ど何等の手數を要せざるのと同様である。

かの歐洲大戰亂の當時に於て、世界の列國が何れも經濟政策に腐心したる時に方り、米國にては時の商務卿フーパー氏が、自國の經濟政策を有利ならしむるには「日用品の規格品質を單純化すると同時に、之を大量生産するにありとし、銳意その適當なる規格を調査し、適當なる品質を研究し且これを決定して、直にその法案を作成すると同時に、『希くは全米國民の熱烈なる愛國心によつて、この法案の遺憾なく實行されんことを望む』と告げてこれを実施し、大なる經濟成績を挙げたのであつたが、戦後に至りてこの政策が非常に有利なる結果をもたらせしことを見たる各國の實業家は、争うて大量生産主義を採用し、従つて資本の集中をも必要として、遂に産業の革命を來すに至つたのである。

三 家庭に於ける整理及び保存が便宜になる、何となれば規格が一定するを以て、容器の大きさも亦同一となり、これをストツクに整頓し保存するにも幾何學的に取扱ふことを得るからである。

四 缺損を生せし時に補充に便利である、何となれば規格及び品質が同一なるを以て、持合せ品に不足を來し、又は缺損を來せし場合に、容易に同一品質同一規格のものを買入れて、これを補充することができからである。

食器に就きての例ではあるが、著者が前年山梨縣下の處女會講演旅行をしたことがあるが、其の會場であつた各所の小學校で使用せる茶器を見ると、何れもその當時萬古燒であつた。依て同行者である某視學に、何れも萬古燒茶器であることが故意か偶然かを尋ねたるに、そは故意なる旨を答へ、其の理由として萬古燒は比較的廉價にして堅固であり、且極めて普通品なるを以て、一組中の一個が缺損せる場合にも、容易に補充することが可能であり、時には急須の蓋のみが破損せし場合の如きも、陶器店より蓋のみを補充することすら可能な場合がある、依て各學校の備品としての茶器を萬古燒に一定したのであるとのことであつた。品種が萬古燒を可とすることは別問題としても、極めて普通なる規格品種

のものに一定せしことの見識は、實に經濟的卓見であるとして敬服すべきである。

斯くの如くであるから、食物は大量生産の或る程度までの加工品を購入する時は、原料食品を購入して臺所にての孤立的手工作業によつて、一切の加工料理を施すよりは、頗る時間と勞力とに餘裕を生ずる、この餘裕を以て各自獨特の職業に従事することは、獨り一家の經濟生活上に有利なばかりでなく、國家の生産經濟より見ても、非常に有利なる結果を招くこととなる。

〔六〕食器の規格統一 食器には、來客用の物と日常家族用の物とがある、日常家族用の食器は規格を統一して單純化することが必要である。蓋來客用の物や趣味に屬する物はこれを別にし、日常家族用の物は實用を以て主眼となすべきであるから、前項に述べたる理由により、規格を統一してこれを單純化することによつて、經濟的利益を得らるゝことは頗る甚大である。

日用食器の規格を統一する時は、生産者にも配給者にも且又消費者にも多くの利益があるが、更に臺所の作業能率を増大し得ることも亦決して見逃してはならない。何となれば、現時に於けるが如く日用食器の規格が複雑極まり無き場合に於ては、食事に際して皿を取出すにしても、大さは何れにしようか、形は何れにしようか、模様は何れにしようか、色合は何れにしようかと、幾多の煩瑣なる考慮や手數がかゝるのであつて、盛付けや洗ひ濯ぎに關しても亦頗る餘計

な手数のかゝることは、當面の仕事に當りし人の經驗せることだと思はれる。

日用品の規格を統一するには、單に家庭に於ける主婦の自覺のみによつてこれを實現することは困難である、何となれば、現今に於ける市場の賣品が規格が統一して居らぬから、主婦だけが統一せる規格の物を買入れようとしても、これを探がし求むることが不可能だからである。故に、この目的を實現するには、一方に於て主婦の自覺を必要とすると同時に、他方に於て工業政策としてこれを實行すべき施設を必要とするのである。然るに現今の狀況は、生産者にあつては珍奇な異なれる規格のものを造出して、賣行きのよからんことを欲し、配給者にあつても亦奇抜な風變りのものを仕入れて顧客を求めようとするの傾向があることは、趣味生活の上から見れば或は宜しかるべきかではあるが、實用を主とし經濟に重きを置く日常家庭用食器の如きに對しては、かゝる傾向を避くべきであることは、多言を要せざることである。我が國に於ても、識者ここに見る所あつて、前年日用品規格調査會が起つたのであるが、未だその制定と結果の實行とを見ないのは遺憾である。

(七) 國産物の使用 製産工業が急速に驚くべき進歩發達を遂げたる現時の我が國に於ては、その製産品の品質が優良にして遂に外國製品を凌駕するものを決して僅少にあらざることには、

過般政府が優良國産品の調査を行つて逐次發表せる品目の、極めて多數に上つてゐることによつてもこれを證明し得る。更に價額に就いて調査しても、内地に於ける國産品は、外國よりの輸入品の如く、關稅や海上運送等の賃銀を含みぬために、頗る廉價なることは今更言を待たぬことである。

然るに我國人の多くは、明治の初年に方り、國內の製産工業の發達が甚だしく幼稚なりし時代に、外國製品が殆ど内國製品に優れりし當時の因習に拘はれて、現時に於ても猶同様であると考へて、外國製品を優良品なりとしてこれを賞用するものがあるのは、謬見の甚だしきものである。

叙上の趨勢を證明するために、内閣統計局の統計年鑑に表はれた數字を見るに、朝鮮臺灣及び關東州等を除ける内地のみの輸出入金額を見るに、左表に示す通りである。(單位圓)

種目	輸出入總額	輸出額	輸入額	差額
年次				
明治元年	二六、二四七、〇〇〇	一五、五五三、〇〇〇	一〇、六九三、〇〇〇	四、八六〇、〇〇〇 (+)
同一〇年	五〇、七六九、〇〇〇	二三、三四九、〇〇〇	二七、四二一、〇〇〇	四、〇七二、〇〇〇 (-)

年次	輸出粗製食料品	輸入粗製食料品	輸出製造食料品	輸入製造食料品
同二〇年	九六、七二二、〇〇〇	五二、四〇八、〇〇〇	四四、三〇四、〇〇〇	八、一〇三、〇〇〇
同三〇年	三八二、四三六、〇〇〇	一六三、一三五、〇〇〇	二一九、三〇一、〇〇〇	五六、一六六、〇〇〇
同四〇年	九二六、八八〇、〇〇〇	四三二、四一三、〇〇〇	四九四、四六七、〇〇〇	六二、〇五四、〇〇〇
大正元年	一、一四五、九七四、〇〇〇	五二六、九八二、〇〇〇	六一八、九九二、〇〇〇	九二、〇一〇、〇〇〇
同五年	一、八八三、八九六、〇〇〇	一、一二七、四六八、〇〇〇	七五六、四二八、〇〇〇	一三七、〇四〇、〇〇〇
同一〇年	二、八六六、九九三、〇〇〇	一、二五二、八三八、〇〇〇	一、六一四、一五五、〇〇〇	一三六、三一七、〇〇〇
同一一年	三、五二七、七六〇、〇〇〇	一、六三七、四五二、〇〇〇	一、八九〇、三〇八、〇〇〇	二五二、八五六、〇〇〇
同一二年	三、四二九、九八一、〇〇〇	一、四四七、七五一、〇〇〇	一、九八二、二三一、〇〇〇	一五三、四八〇、〇〇〇
同一三年	四、二六〇、四三七、〇〇〇	一、八〇七、〇三五、〇〇〇	二、四五三、四〇二、〇〇〇	一六四、三六七、〇〇〇
同一四年	四、八七八、二四八、〇〇〇	二、三〇五、五九〇、〇〇〇	二、五七二、六五八、〇〇〇	二六七、〇六八、〇〇〇
昭和元年	四、四二二、二一一、〇〇〇	二、〇四四、七二八、〇〇〇	二、三三七、四八四、〇〇〇	三三二、七五七、〇〇〇
同二年	四、一七一、四七一、〇〇〇	一、九九二、三一七、〇〇〇	二、一七九、一五四、〇〇〇	一八六、八三七、〇〇〇
同三年	四、一六八、二七〇、〇〇〇	一、九七二、九一五、〇〇〇	二、一九六、三一五、〇〇〇	二二四、三六〇、〇〇〇
同四年	四、三六四、八五九、〇〇〇	二、一四八、六一九、〇〇〇	二、二一六、二四〇、〇〇〇	六七、六二一、〇〇〇
同五年	三、〇一五、九〇三、〇〇〇	一、四六九、八五二、〇〇〇	一、五四六、〇五一、〇〇〇	七六、一六九、〇〇〇

これによれば、累年輸入超過のみ多く、其の最も甚だしきは大正十三年度の六億四六三六萬

七〇〇〇圓である。而して昭和四年及び五年以降輸入超過額の激減したのは、驚らくは國産品愛用思想の次第に普及して來たのと、經濟不況の結果購買力が減少したためとであらう。更にこれ等の輸出入金額中、最近一〇年間に亘る食料品に就いての金額を、同統計年鑑によつて表示すれば左の如くである。

年次	輸出粗製食料品	輸入粗製食料品	輸出製造食料品	輸入製造食料品
大正一〇年	三〇、二八八、〇〇〇	一一四、六〇六、〇〇〇	四九、三九四、〇〇〇	九三、七二三、〇〇〇
同 一一年	四三、七二五、〇〇〇	一九五、三五七、〇〇〇	六〇、六七一、〇〇〇	九四、八七九、〇〇〇
同 一二年	三八、九九二、〇〇〇	一六七、一一〇、〇〇〇	五二、〇九九、〇〇〇	八四、四二八、〇〇〇
同 一三年	四六、〇五一、〇〇〇	二五四、〇三八、〇〇〇	六七、二五〇、〇〇〇	九四、〇四三、〇〇〇
同 一四年	五五、二〇五、〇〇〇	二九五、一六五、〇〇〇	九二、一一〇、〇〇〇	九六、八四七、〇〇〇
昭和元年	四九、一七〇、〇〇〇	二四三、二二一、〇〇〇	九八、一二五、〇〇〇	一〇七、〇五九、〇〇〇
同 二年	五四、一六五、〇〇〇	二二二、七二七、〇〇〇	九一、三九七、〇〇〇	一〇〇、八一三、〇〇〇
同 三年	四〇、一二九、〇〇〇	二〇八、八九四、〇〇〇	一一六、一五一、〇〇〇	八九、六四九、〇〇〇
同 四年	四八、一五五、〇〇〇	二一四、三六二、〇〇〇	一一一、九六三、〇〇〇	五六、七九四、〇〇〇
同 五年	四二、〇六〇、〇〇〇	一四七、五七八、〇〇〇	八六、七六〇、〇〇〇	六〇、七一八、〇〇〇

これによれば、食料品の輸入金額が總輸入金額の大部分を占むることを知ると同時に、粗製食料品と製造食料品とを通じて、何れも輸入金額が輸出金額を遙に超過してゐることが知られる。唯僅に昭和三年度以降に於て製造食料品のみが、其の輸出金額が輸入金額を超過してはゐるが、粗製食料品に就いては其の反對の現象を示してゐるから、總額に於ては依然として輸入金額が輸出金額を超過して入超となつてゐる。

斯くの如き状態では、食糧問題のみにも年々驚くべき多額の貿易缺損を來して、經濟的究迫を見るに至らねばならない。この見地より、我等は勉めて國產食料品にて間に合せ、以てこの經濟困難の國運を救済すべく、最善の努力を拂はねばならない。この目的を達するには、家事教授も亦重大なる使命を帯びてゐることを自覺しなければならぬ。今參考のために、主要なる輸入食料品の種類及び金額（單位圓）を左に表示して、家事教授指導上の資料に供する。

種目	年次			
	昭和二年	同三年	同四年	同五年
米及ビ粗	七八、九〇七、〇〇〇	三三、六七三、〇〇〇	二二、七八二、〇〇〇	一九、五八三、〇〇〇
小麥	五三、九二九、〇〇〇	七六、七八七、〇〇〇	七〇、八九六、〇〇〇	四一、五〇九、〇〇〇

粟黍及ビ稗	一、三七三、〇〇〇	二、三〇〇、〇〇〇	一、二三一、〇〇〇	五一三、〇〇〇
高粱	二、七七〇、〇〇〇	三、九五二、〇〇〇	三、二七〇、〇〇〇	二、八五三、〇〇〇
玉蜀黍	二、〇三八、〇〇〇	二、七九一、〇〇〇	三、六七二、〇〇〇	三、七四九、〇〇〇
大豆	四一、一九八、〇〇〇	四九、六八八、〇〇〇	六〇、〇九二、〇〇〇	三六、六六四、〇〇〇
小豆	五、五二五、〇〇〇	九、三七〇、〇〇〇	一〇、一〇二、〇〇〇	七、〇一二、〇〇〇
落花生	二、二七七、〇〇〇	二、四七一、〇〇〇	二、九九七、〇〇〇	二、三七一、〇〇〇
大豆	一、六二七、〇〇〇	二、三一〇、〇〇〇	二、一〇三、〇〇〇	八二一、〇〇〇
胡麻	四、〇一二、〇〇〇	四、一八五、〇〇〇	三、七六一、〇〇〇	三、一二一、〇〇〇
菜子及ビ芥子	六、〇〇九、〇〇〇	四、七三九、〇〇〇	一一、二〇〇、〇〇〇	五、八二三、〇〇〇
亞麻	一、五二〇、〇〇〇	三、〇三八、〇〇〇	二、九五六、〇〇〇	九一八、〇〇〇
蓖麻	一、四九五、〇〇〇	二、一七九、〇〇〇	二、一一一、〇〇〇	一、三七四、〇〇〇
大麻	一、五六四、〇〇〇	一、五二六、〇〇〇	一、九三三、〇〇〇	一、六二九、〇〇〇
棉子	三、四四八、〇〇〇	四、九〇五、〇〇〇	六、三八一、〇〇〇	三、七六九、〇〇〇
砂糖	七五、八〇四、〇〇〇	六四、九五九、〇〇〇	三一、一六〇、〇〇〇	二五、九七三、〇〇〇
牛肉	七、九六二、〇〇〇	六、九七二、〇〇〇	七、一五八、〇〇〇	八、三四〇、〇〇〇
鹹魚	一、四〇二、〇〇〇	三、二四二、〇〇〇	四、九一二、〇〇〇	九、八六〇、〇〇〇
練乳	三、七五一、〇〇〇	三、八二六、〇〇〇	三、九九五、〇〇〇	三、二六九、〇〇〇

鳥卵	酒類	食鹽
九、九八二、〇〇〇	一、八一六、〇〇〇	三、五九四、〇〇〇
六、九六〇、〇〇〇	二、三〇二、〇〇〇	三、七三二、〇〇〇
三、九八三、〇〇〇	二、八一三、〇〇〇	四、四一五、〇〇〇
二、八一七、〇〇〇	一、八五六、〇〇〇	三、九八六、〇〇〇

これによれば、昭和二年度に於ては米及び粳の輸入金額は、食料品中の第一位を占めて、金七八九〇萬七〇〇〇圓に達し、これに次ぐものは砂糖・小麥・大豆の順次であつたが、三年後の昭和五年度に至りては、小麥が第一位の四一五〇萬九〇〇〇圓に達して、これに次ぐものは大豆・砂糖・米及粳の順位となつて、且何れもその輸入金額が減少してゐる。これ國民が食糧自足の自覺を生じて一方に於て耕地整理・苗種改良・耕作法改良等のために、米の産出額が逐年増加せること左表の如くであり、他方に於て米の節約が次第に實行され來つたと同時に、雜穀利用の方法が實行されて來たためと見る事ができる。これ實に喜ぶべき現象であるから、我が家事教授はますますこの傾向を助成發達せしめて、國家に貢獻すべく努力すべきである。

年次	種目		
	總額(箱)	粳米(箱)	陸米(箱)
大正一〇年	九九、五四〇、四二三	八九、〇六八、〇五九	七、八〇五、七九一
			二、六六六、五七三

年次	種目		
	總額(箱)	粳米(箱)	陸米(箱)
昭和元年	一〇〇、二八四、二六八	九〇、一五三、四二四	七、八六三、八六七
同 二年	一一二、〇二七、一九八	一〇〇、五六八、七一二	八、六六四、七〇二
同 三年	一〇八、七八一、一五五	九七、三九一、四四四	八、五八八、〇二九
同 四年	一〇七、四三六、五三一	九七、二〇八、二四八	八、六四四、五〇四
同 五年	一二〇、六三三、〇〇三	一〇八、三〇二、五七三	九、四二三、〇四八
			二、二六六、九七七
			二、七九三、七八四
			二、八〇一、六八二
			一、五八三、七七九
			二、九〇七、三八二

第四節 漁業獎勵と其の利用

(一) 我が國に於ける漁業の現状 我が國は四周海を以て圍まれてゐるから、海に親しむ者極めて多く、従て漁業の發達すること著しく、且地勢南北に長きを以て、南は熱帯に近く暖流を以て沿岸を洗はれ、北は寒帯に近く寒流を以て沿岸を洗はれるから、魚の種類も亦甚だしく豊富にして、其の出盛期も春夏秋冬を通じて絶える所がない。故に、漁業者も比較的多く、漁業産物も亦多く、魚食は動物性食物の主要なる位置を占め、其の料理法も獨特の發達をなし、又魚食に對する嗜好も發達し、費用も蛋白性食物としては他の鳥獸肉よりも廉價にして經濟的であることは、注目すべき諸點であつて、食物の自給自足上大に意を強くするに足ると思ふ。

今本邦に於ける漁業の現状を見るに、漁業者總數は漸次増加を示して、昭和四年度の總數は一四九萬〇七二六人で、農家總戸數五五七萬五五八三人には及ばないが、農業に於て小作人戸數が次第に減少の傾向を示してゐるのに對し、漁業に於ては本業副業共に次第に増加してゐるのは、漁業の有望なることを示すものである。

年次	種目	漁業者總數	漁業本業者數	漁業副業者數	漁船總數
大正一〇年		一、三九一、八七一	六九三、一一四	六九八、七五七	三八二、二〇〇
昭和元年		一、四五一、〇四〇	七四〇、七二二	七一〇、三一八	三五〇、九四三
同 二年		一、四七九、七七六	七六二、二三一	七一七、五四五	三五四、五五四
同 三年		一、四九八、二五八	七七二、六〇八	七二五、六五〇	三六〇、一二六
同 四年		一、四九〇、七二六	七七四、〇九一	七一六、六三五	三五九、五四五

更に漁業産物の金額を見れば、昭和四年度に於ては、内地沿海漁業物は二億〇五九四萬圓、遠洋漁業物は八七九四萬七七五〇圓、水産製造物は一億八七四九萬八〇〇〇圓で、其の總數は實に四億八一三八萬五七五〇圓に達する。而してこれを内譯すれば、魚類は六〇%、貝類は二%、藻類は四%で、魚類は大部分を占め、魚類中産額の大なるものは、鱒の二六二三萬四〇〇

圓、鯛の一二七二萬圓、鯨の一〇六一萬一〇〇〇圓、鱈の一〇〇五萬八〇〇〇圓、烏賊鰯の二二三一萬一〇〇〇圓等である。

年次	種目	漁業總額	沿海	遠洋	水産製造
大正一〇年		四七六、〇六七、〇三〇	二五八、二二六、〇〇〇	四八、二四三、〇三〇	一六九、五九八、〇〇〇
昭和元年		四九三、九六八、二四六	二二五、三五三、〇〇〇	八五、四三五、二四六	一八三、一八〇、〇〇〇
同 二年		四九〇、七二二、三六九	二二九、一三八、〇〇〇	七八、五〇〇、三六九	一八三、〇八四、〇〇〇
同 三年		四七四、〇七九、九六一	二〇九、二六四、〇〇〇	八〇、八七一、九六一	一八三、九四四、〇〇〇
同 四年		四八一、三八五、七五〇	二〇五、九四〇、〇〇〇	八七、九四七、七五〇	一八七、四九八、〇〇〇

年次	種目	畜業總額	牛	馬	豚
大正一〇年		八七、八五五、四八一	五四、八二四、三六六	六、一八九、八三二	二六、八四一、二八三
昭和元年		八六、九二二、〇〇〇	五四、八一七、七八九	六、三五九、八二二	二五、七四四、三八九
同 二年		七八、七八八、三九九	五一、五三五、三二八	五、七八五、七〇八	二一、四六七、三六三
同 三年		八四、四四八、六八九	五四、〇九二、四六〇	五、九四九、一八七	二四、四〇七、〇四二
同 四年		八四、五三七、一八〇	五一、六三二、九一六	五、七六三、六二七	七二、一四〇、六三七

この表に見らるゝが如く、漁業産額總數は畜業産額總數に比し、昭和四年度に於ては、左式の如く五・六九倍に達してゐる。

$$481,385,750 \div 84,537,180 = 5.69$$

よつて如何に漁業が畜業に比して隆盛であるか々知られると同時に、魚肉食が獸肉食に比して極めて一般的であるか々知られる。而かも我が國は領土の面積が比較的狭小なるに反して人口が非常に多きを以て、牧場として使用すべき草野は甚だ少なく、從て畜業の普及増加は望み難きに反し、漁業はその領海面積の極めて大なること、遠洋漁業を奨励すれば實に無限の面積ありとも稱すべきだから、我が國に於ける漁業は將來ますます發達すべき餘地があつて、實に有望なるものであるといはねばならない。

(二) 我が國に於ける漁業の將來 以上考察し來れるが如く、有限の領土に九〇〇〇萬人餘の人口を背負ひ、而かも年々八〇—九〇萬人の増加を見るがため、次第に食糧の不足を招くのは當然の結果である。從て一方に於て荒地開拓・耕地整理・農作物品種改良・栽培法改善・肥料研究等が行はれ、他方に於て移民出稼等が奨励されてゐるとしても、猶且食糧の自給自足を爲すに足らない現状である。この現状に處して、最も有望視すべきものは漁業であるから、農業のみ

を唯一の生業とすることなく、沿海地に於ては海上を以て生業を営むの場合となし、以て盛に海産物を獲得し、一には動物性食品として豊かにこれを國民の食卓に供給し、二には過剰品を加工して水産製造品を造り、これを海外に輸出するの途に出づることが極めて必要であるといふべきである。

思ふに、本年夏、米國ロツサンゼルスに於て開催されたオリンピック大會に於て、我が選手は力戰奮闘してよく水上日本の光輝ある名譽を獲得したのであるが、これ四海圍らすに水を以てする日本人の當然握るべき霸權であつたのと同様に、生産業に於ても亦、人口の稀薄なりし昔時の如き方策を墨守せず、翻然として海上に其の生産業を發見し開拓して、生産業上に於ても亦海上日本の盛名を獲得すべきを覺るべきだと思ふのである。

この見地よりすれば、我が國の漁業獲得物價格は如何なる趨勢を呈してゐるかを知らねばならない。今昭和六年發行の統計年鑑によれば、大正九年以後一〇年間の總額は、左表の如くである。

年次	地域					
	總額	内地	朝鮮	臺灣	樺太	關東州
大正九年	二七〇、二九四、〇〇〇	二五八、三三六、〇〇〇				
同 一〇年	二五八、三三六、〇〇〇	二三三、八八六、〇〇〇				
同 一一年	二四七、二一一、〇〇〇	二二一、一七六、〇〇〇				
同 一二年	二四七、二一一、〇〇〇	二二一、一七六、〇〇〇				
同 一三年	二四七、二一一、〇〇〇	二二一、一七六、〇〇〇				
同 一四年	二四七、二一一、〇〇〇	二二一、一七六、〇〇〇				
昭和元年	二九三、三三九、〇〇〇	二七五、三三三、〇〇〇	五三、七四三、〇〇〇	一〇、三三六、〇〇〇	八三三、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇
同 二年	二九三、三三九、〇〇〇	二七五、三三三、〇〇〇	五三、七四三、〇〇〇	一〇、三三六、〇〇〇	八三三、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇
同 三年	二九三、三三九、〇〇〇	二七五、三三三、〇〇〇	五三、七四三、〇〇〇	一〇、三三六、〇〇〇	八三三、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇
同 四年	二九三、三三九、〇〇〇	二七五、三三三、〇〇〇	五三、七四三、〇〇〇	一〇、三三六、〇〇〇	八三三、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇
同 五年	二九三、三三九、〇〇〇	二七五、三三三、〇〇〇	五三、七四三、〇〇〇	一〇、三三六、〇〇〇	八三三、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇
同 六年	二九三、三三九、〇〇〇	二七五、三三三、〇〇〇	五三、七四三、〇〇〇	一〇、三三六、〇〇〇	八三三、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇
同 七年	二九三、三三九、〇〇〇	二七五、三三三、〇〇〇	五三、七四三、〇〇〇	一〇、三三六、〇〇〇	八三三、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇
同 八年	二九三、三三九、〇〇〇	二七五、三三三、〇〇〇	五三、七四三、〇〇〇	一〇、三三六、〇〇〇	八三三、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇
同 九年	二九三、三三九、〇〇〇	二七五、三三三、〇〇〇	五三、七四三、〇〇〇	一〇、三三六、〇〇〇	八三三、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇
同 十年	二九三、三三九、〇〇〇	二七五、三三三、〇〇〇	五三、七四三、〇〇〇	一〇、三三六、〇〇〇	八三三、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇
同 十一年	二九三、三三九、〇〇〇	二七五、三三三、〇〇〇	五三、七四三、〇〇〇	一〇、三三六、〇〇〇	八三三、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇
同 十二年	二九三、三三九、〇〇〇	二七五、三三三、〇〇〇	五三、七四三、〇〇〇	一〇、三三六、〇〇〇	八三三、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇
同 十三年	二九三、三三九、〇〇〇	二七五、三三三、〇〇〇	五三、七四三、〇〇〇	一〇、三三六、〇〇〇	八三三、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇
同 十四年	二九三、三三九、〇〇〇	二七五、三三三、〇〇〇	五三、七四三、〇〇〇	一〇、三三六、〇〇〇	八三三、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇
同 十五年	二九三、三三九、〇〇〇	二七五、三三三、〇〇〇	五三、七四三、〇〇〇	一〇、三三六、〇〇〇	八三三、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇
同 十六年	二九三、三三九、〇〇〇	二七五、三三三、〇〇〇	五三、七四三、〇〇〇	一〇、三三六、〇〇〇	八三三、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇
同 十七年	二九三、三三九、〇〇〇	二七五、三三三、〇〇〇	五三、七四三、〇〇〇	一〇、三三六、〇〇〇	八三三、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇
同 十八年	二九三、三三九、〇〇〇	二七五、三三三、〇〇〇	五三、七四三、〇〇〇	一〇、三三六、〇〇〇	八三三、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇
同 十九年	二九三、三三九、〇〇〇	二七五、三三三、〇〇〇	五三、七四三、〇〇〇	一〇、三三六、〇〇〇	八三三、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇
同 二十年	二九三、三三九、〇〇〇	二七五、三三三、〇〇〇	五三、七四三、〇〇〇	一〇、三三六、〇〇〇	八三三、〇〇〇	三、二一〇、〇〇〇

この数字が示すが如く、總價額が年々減少してゐるのは、魚價下落によるもので、漁業者數に於ては本業副業共に次第に増加しつゝ、あることは、先に示した通りであることは、漁業發展の傾向を有することを證明する。

漁業の最も盛なる地は北海道で、これに次ぐ地は長崎靜岡で、其の多くは太平洋に面せる地

方であるが、日本海に産する魚類もその肉が締つて味が多少荒い缺點があると云はれてはゐるが、現今も相當の産額があるから、今後大にその奨勵に勉むべきである。

府 縣	價 額	府 縣	價 額	府 縣	價 額
北海道	四五、四五〇、〇〇〇	愛知縣	七、一九〇、〇〇〇	千葉縣	五、九九七、〇〇〇
長崎縣	八、五二六、〇〇〇	高知縣	七、〇七九、〇〇〇	神奈川縣	五、七七二、〇〇〇
靜岡縣	八、四一九、〇〇〇	兵庫縣	六、二八〇、〇〇〇	廣島縣	四、六七四、〇〇〇
山口縣	八、四一九、〇〇〇	愛媛縣	六、一二六、〇〇〇	福岡縣	四、五〇一、〇〇〇
三重縣	八、三七三、〇〇〇	和歌山縣	六、一〇三、〇〇〇	宮崎縣	四、四二五、〇〇〇

更に水産製造物の價額を見れば、漁業物價額には及ばぬが相當の多額に達するもので、この種の物は貯藏も可能であり、輸送も亦可能であること、且又漁業者をして加工副業を得せしむること、漁獲原料物そのまゝを販賣するよりも有利なること等から、極めて有望なものだといはねばならない。

今昭和元年度及び四年度の價を、領土地方別にて示せば左表の通りである。

年次	種目						
	總額	内地	朝鮮	臺灣	樺太	關東州	
昭和元年	二四〇、三六、〇〇〇	一八三、一〇四、〇〇〇	三三、二九、〇〇〇	二、八三、〇〇〇	一九、二九、〇〇〇	七九、〇〇〇	
同 四年	二五六、七六、〇〇〇	一八七、四九、〇〇〇	四四、八六、〇〇〇	二、七五、〇〇〇	二〇、三四、〇〇〇	一、三三、〇〇〇	

これを内譯すれば、節類・素乾類・鹽乾類・煮乾類・鹽製類等の一〇種で、この金額は昭和元年及び同四年度に於て左表の如くである。

年次	種目						
	總額	節類	素乾類	鹽乾類	煮乾類	鹽製類	其の他
昭和元年	一八三、一〇、〇〇〇	三三、六三、〇〇〇	三三、三四、〇〇〇	七、一五、〇〇〇	一九、三三、〇〇〇	七、〇〇、〇〇〇	一〇、七、〇〇〇
同 四年	一八七、四九、〇〇〇	一九、四七、〇〇〇	一九、五四、〇〇〇	九、三六、〇〇〇	一九、五六、〇〇〇	九、七六、〇〇〇	九、八九、〇〇〇

而して、各類に屬する主要なる品名を列擧すれば、左の如きものである。

- 節類。 鯉節、鮪節。
- 素乾類。 錫、鱧鱒、身缺鱧、數之子、田作、鱈。
- 鹽乾類。 眞鱒、鯖、飛魚、鱈、鱈。

- 煮乾類。 眞鱒、海參、貝柱、鮑、蝦。
- 鹽製類。 眞鱒、鯖、鰯、鮭、鱈、鱈、鯨。
- 海苔類。 乾海苔、漉海苔。
- 肥料。 搾粕(鯨・鰯)、乾鱈、其他。
- 魚油。 肝油、鯨油、其他。

これ等の内、最高鯉節の一八、五六五、〇〇〇圓に次ぐものは、搾粕の一四、一三〇、〇〇〇圓、乾海苔の一三、九六七、〇〇〇圓、煮乾眞鱒の一二、二六四、〇〇〇圓であるが、今後更に罐詰類の製造に努力したならば、大なる發展の餘地があると思はれる。

〔三〕魚肉の營養價值 魚肉の營養價值は、(一)含有する各營養素の種類、(二)同分量、(三)同其の消化吸収量等に基づき、人體組織を建設し且エネルギーを供給し得る量によつて決定せらるべきもので、單に發熱作用だけを有する蛋白質脂肪及び炭水化物の發熱量を以てすべきではない。然しながら、食物の營養價值の全部を評價することは極めて困難であるから、通常は爆發熱量計内に於ける燃燒熱量を基礎として算出する。

今我が沿海に産する魚介類にして、市場に於て購入し易く、普通に食料に供せらるゝ種類に

つき、其の發熱量と、奈良地方に於ける時價とを掲げ、時價金一錢に相當する發熱量を珓カロリにて表示すれば、左の如くである。

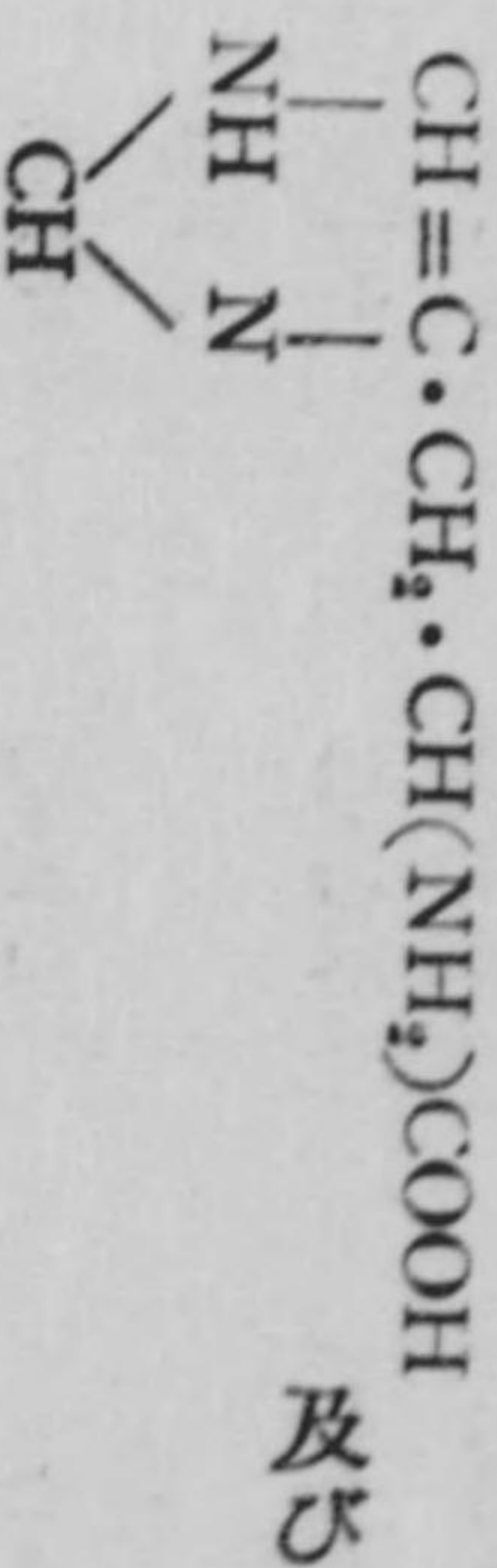
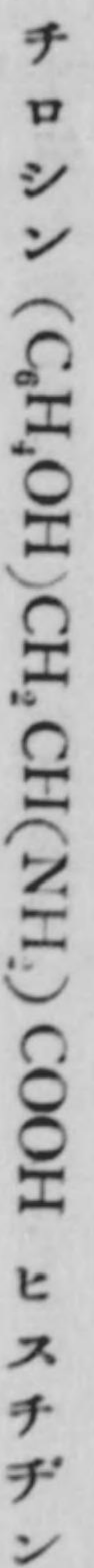
魚名	種目	蛋白質	脂肪	一〇〇(或三七五)の發熱量	同上價額	付金發熱量に
鱈	鱈	二一・〇〇	〇・八〇	三四〇	〇・一二	二八・三
鮎	鮎	一七・七〇	一・九〇	三三〇	〇・四〇	八・二
鮑	鮑	二四・六〇	〇・四〇	五八四		
鯛	鯛	一三・二〇	〇・八〇	二二九	〇・〇八	二八・五
鰯	鰯	二一・四〇	六・七〇	五五〇	〇・〇五	一一〇・〇
烏賊	烏賊	一九・一〇	〇・六〇	三一〇		
鰻	鰻	一八・一〇	一一・五〇	六四五	〇・六〇	一〇・七
鰩	鰩	二五・〇〇	一・二〇	四二一	〇・一〇	四二・一
鰈	鰈	二一・九〇	〇・七〇	三六五	〇・一五	二四・三
牡蠣	牡蠣	八・五〇	〇・九〇	二三六	〇・一〇	二三・六
鯨(赤肉)	鯨(赤肉)	二〇・九〇	七・六〇	五八四	〇・一五	三九・〇
鯉	鯉	一八・〇〇	九・七〇	六〇四	〇・三〇	二〇・一
鰱	鰱	二〇・四〇	四・八〇	四七三		

魚名	種目	蛋白質	脂肪	一〇〇(或三七五)の發熱量	同上價額	付金發熱量に
鯖	鯖	二一・一〇	四・九〇	四八八	〇・〇八	六一・〇
鮭	鮭	一六・八〇	七・九〇	五四七	〇・〇八	六三・五
刀魚	刀魚	二八・七〇	六・六〇	六六三	〇・〇六	一一〇・五
針魚	針魚	一九・二〇	一・七〇	三五一	〇・二〇	一七・五
鱈	鱈	三七・二二	一・四四	六二四		
鰯	鰯	一八・六〇	二・六〇	三七〇		
鰩	鰩	一八・九〇	一・九〇	三五一	〇・五〇	七・〇
鱈	鱈	一八・六〇	〇・二〇	二八八		
鱈(乾)	鱈(乾)	六八・四〇	一三・九〇	一五一七	〇・〇八	一七七・一
比目魚	比目魚	一九・二〇	〇・五〇	三〇七	〇・一五	二〇・四
鮎	鮎	一七・一〇	四・五〇	四一四	〇・二〇	二〇・七

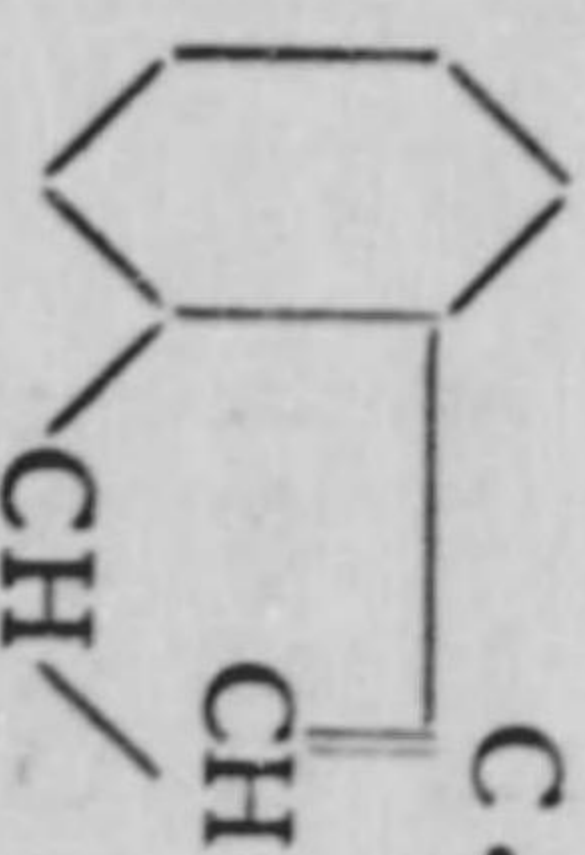
價額は季節により地方により、又天候の如何によつても決して一樣ではないから、前表の計算是精確なものとするにはできない、然しながら大體の經濟的比較には相當の價値あるものと見ることが出来る。この見方よりすれば、鯨や鰯は極めて安價であることが知られる。猶これを獸肉類及び鳥肉類に比較すれば、左表の通りである。

鳥獸名	種目	蛋白質	脂肪	五〇〇瓦の發熱量	同價額	金一錢に付發熱量
牛	肉	一九・八〇	七・七〇	五七四	〇・七〇	八・二
豚	肉	一七・一〇	二二・五〇	一〇四九	〇・五〇	二九・八
鶏	肉	一八・四九	一九・〇〇	九七三	〇・六〇	一六・二

依て魚肉の經濟價値も亦敢て獸肉に優るとも劣らぬことが知られる、殊に人體の營養上缺くべからざる所の、ベンゼン環及び其の誘導體を一成分とする、複雑なる環狀アミノ酸類即ち、



トリプトファン



等のアミノ酸を含むこと、左表に示す

が如くなること等によつて、魚肉の營養價値が獸肉に劣らぬことを證明し得る。

食品	アミノ酸	フェニールアラニン	チロシン	ヒスチジン	トリプトファン
牛	肉	三・一五	二・二〇	一・七六	含
鶏	肉	三・五三	二・一六	二・四七	含
比	目	三・〇四	二・三九	二・五五	含
帆	立	四・九〇	一・九六	二・〇二	含

蓋蛋白質は人體組織を構成する作用を営むもので、蛋白質の成分中グリシン $CH_2(NH_2)COOH$ アラニン $CH_3 \cdot CH(NH_2) \cdot COOH$ 又は $CH_3(NH_2) \cdot CH_2 \cdot COOH$ の如き、比較的簡單なる開鎖化合物のアミノ酸は、必要に應じて人體内に於て合成さるゝものであるが、システイン $CH_2(SH)CH(NH_2)COOH$ オルギニン $CH_2(NH_2)CH_2 \cdot CH_2 \cdot CH(NH_2) \cdot COOH$ 及びリシン $CH_2(NH_2)CH_2 \cdot CH_2 \cdot CH_2 \cdot CH(NH_2)COOH$ の如き複雑なる開鎖化合物のアミノ酸並にフェニールアラニン・ヒスチジン・チロシン及びトリプトファンの如き閉鎖環狀化合物のアミノ酸は、人體内で合成することはできない、故にこれ等合成不能のアミノ酸は、食物として天然蛋白質から攝取しなければならぬものである。特にチロシンとトリプトファンとは缺くべからざ

フェニールアラニン 含有量

るアミノ酸で、前者は甲状腺ホルモンのサイロキシンの素材となり、後者は副腎ホルモンのアドレナリンの素材となるものだから、若し食物としてこれを缺けば死亡する。

〔四〕本邦人の魚肉に對する嗜好 魚肉の栄養價值及びこれに伴ふ經濟價值は前述の如くに有効にして且有利なものであるが、更に本邦人は魚肉に對する食糧趣味に長じてゐることは、魚肉を蛋白性及び脂肪性食品として獎勵する必要上極めて好都合である。

元來本邦は領土狭小なるに加へて山嶽の島國にして、平野は全面積の三分一にも足らず、その多くは都市村落の宅地及び附帯公共施設地となつてゐる以外は、殆ど田畑の耕作地であつて牧場として使用し得べき餘地の少ないことが一原因となつて、牛馬の如きは勞作乗馬用のもののみで、食料となすべきものは甚だ少ない。又古昔より佛教思想の影響を受けて、牛馬の如き家畜はこれを撲殺食用とすることをなさず、僅に野生の畜類を捕獲して食用に供するものがあるに過ぎない。その結果として、食物は植物性食品を利用すること及び動物性食品として魚介類を利用することが、多年の試練研究によつて進歩發達してゐると同時に、國民の食糧趣味も亦この方面に於て著しき發達を遂げてゐることは、争ふべからざる事實である。

今や世界の文化は、互に國境を超えて流布し、學問に産業に商業に通信に相交錯しつゝ、ある

現状であるの結果、食物に關しても亦所謂洋食と稱し支那食と稱し、レストランに食堂に家庭にと浸潤し來たのであるが、これ等の様式の長所としての栄養素の配合、消化の容易等は、和食の缺點であり短所であると見られぬでもないから、これを採つて以て食物の完成を求むることは、各人は敢て異議なき計りでなく、勉めて之を獎勵すべく努力して來たのである、然るにここに吾人の注意すべき問題は、洋食は歐洲に於て其の地に豊富なる食品を材料として發達せるものであり、支那食は支那のそれを材料として發達せるものであるから、本邦に於て同種の材料を以てこれをなすことは、難事であると同時に必ずしも合理的でなく、又經濟的でもない點である。

要は、洋食料理も支那食料理もよいのである、その長所を採つて和食の缺點を補ひ、以て本邦人の健康増進を企圖し、國民的發展の素地を培養すべきであるが、それは唯料理法其の物の長所を採るべきであつて、彼に豊かにして我に乏しき材料をも其の儘に之をまねて策の得たるものとなすのは、謬りの甚だしきものであらう。この見地より、動物性食物としては、材料を本邦に豊富なる、而かも將來益々豊富なることの可能なる魚介類を採り、これに洋食料理・支那料理を應用加味して本邦食物に改善を加へ、以て本邦國民健康増進の一素因となし、一は食料

自給の根本策に貢献すると同時に、國民の世界的發展の資を供せんとするものである。家事教授は、割烹指導に於てこの點に留意し、良き日本人としての家庭生活を営ましめねばならない。

第五節 奢侈浪費の廢止

(一) 生活慾望の二種 生活上必然的に起る衣食住の慾望は、其の數極めて多くしてこれを一々枚舉するに暇がない、依て消費經濟ではこれを分類列舉する方式が行はれてゐる。

慾望の分類には種々の方式があつて、吾人が生命を持續し健康を維持せんとする限り、缺くべからざる衣食住等の最小限度の慾望を自然生活慾望と稱し、公人とし國民として其の子を教育するに要する教育費の如きを社會生活慾望と稱し、又慰安行樂によつて心身を慰め養ふために必要なる慰安費の如きを文化生活慾望と稱することもあるが、經濟學者として其の名を知られたロツシャー氏は、これを絶對的生活慾望と地位的生活慾望とに分けた。

絶對的生活慾望と稱するのは、自然生活慾望の如く、生命健康の維持繼續上に絶對に必要な最小限度の慾望で、かの食物に就ていへば、大人の中年中等勞作の男子では、保健食料が提唱してゐる約二四五〇庇カロリーの發熱量に相當し、且蛋白質脂肪炭水化物の所定量が配合さ

れ、水・無機鹽類及びビタミン等の伴ふべきもので、若し少しでも其の一乃至二以上を缺く時は、生命及び健康の維持及び繼續が不可能になるべき種類のものである。

更に地位的生活慾望と稱するのは、其の人の社會的國家的地位身分等によつて生ずる慾望で、絶對的生活慾望以外に相當の慾望を求めねばならない。かの官途にある者は地位に相當する衣服を纏ひ、醫師や辯護士は玄關を大にするが如きはそれである。

(二) 奢侈の家事經濟に及ぼす影響 何人でも單に自然的生活の慾望満足によつて、衣食住等の最小限度を求めて生命と健康とを維持するのみでは充分でなく、幾分なりとも家事費に餘裕があつて、地位的生活の慾望をも満足し、以て文化人としての生活價値を増大せんことを希ふものである。而かも満足さるゝ地位的生活慾望の種類及び數量の如何によつて、生活價値の増大度即ち生活の向上發展度が決定される。

これにより、吾人は現在の生活上必要なる財貨の購買力を、財産及び勤勞による所得を以て支辨する外に、財産を建設し勤勞に奮勵することによつて所得を増大し、以て財貨の購買力を増大することを企圖してゐるのであるが、しかし現在の所得は何れの家庭でも有限であるから、財貨の購買力も亦有限でなければならぬ。この見地より、慾望其のものは元來不可なる

性質でなくとも、これを満足することによつて、個人又は社會に對し、或は家庭又は社會國家に對して不良の結果を招き、經濟上にも精神上にも悪影響を及ぼすもの、即ち名づけて奢侈と稱するものは、極力これを避けねばならない。例へば、富者が其の富みにまかせて或種の衣食を恣にする時は、物價は需要と供給との相互關係によつて高低するから、富者の奢侈は需要増加を來たして物價の騰貴を招き、以て貧者の生活をして一層困難ならしむるに至り、而かも富者の其の慾望は自然的生活上缺くべからざる自然的な生活慾望にあらざることによつて、所謂奢侈であるとしてこれを排斥しなければならない。

更にこれを社會國家の企業資本の方面より考察する時は、奢侈は如何に生活上經濟に餘裕のある階級に於ても、これを否定しなければならぬ理由がある。それは、富者が奢侈を節制してこれを郵便貯金又は銀行或は信託預金として貯蓄する場合は、獨り其の貯蓄が家庭に於ける財産所得の源となるだけではなく、それ等の貯蓄金が銀行或は信託會社を通じ、大なる企業資本となつて融通される。かくの如くにして、社會國家の大企業の資本の大部分は、株式會社や財團法人若しくは合資會社ならざる限り、この種のものより出づると見ることが出来るから、奢侈の節制は貯蓄となり、貯蓄は社會國家の企業資本を豊富ならしめ、以て國家經濟の發達に大なる

る貢獻をなす事となる。この意味に於て奢侈の横行は、企業經濟を不利ならしむることだと云ひ得るのである。

〔三〕浪費の家事經濟に及ぼす影響 奢侈は消費者に有害なる性質の慾望ではないが、これを満たすことに依つて他に不利を與ふる性質の消費であつたが、浪費はこれに反して、満たさんとする慾望そのものが、消費者その人に有害無益であるもの、ならびに財貨その物の効用を利用せず消費することをいふのである。

かの喫煙者が消費する煙草の如きは、常習喫煙者に對してこそ反射的作用によつて疲勞回復の感を與へるといはる、が、普通の健康體に對してはニコチンの作用によつて有害であることは周知の事實である、故にこの種の慾望満足は浪費の一種である。

又夜間睡眠時に電燈を點じ置くが如きは、何等の電燈の照明を利用することなくして電力を消費するのであるから、浪費の他の一種である。世には電燈引用者にして定額料金契約の場合に於て、點燈時間の多少如何を問はず料金は定額なるの故を以て、『點燈せぬのは損である』點燈すれば得である』などの、誤まれたる經濟觀念から、不用時にも亦點燈する人のあるのは、浪費を敢てするもので、獨り電力を浪費するだけでなく、電球の壽命の終極期を早め、又か、

る習慣が自己及び家族をして、電燈以外の消費事項にも悪影響を及ぼさしめ、且子女の教育上にも悪影響を與ふるに至るべきである。

(四) 奢侈浪費の國家經濟に及ぼす影響 この影響を、第一に國家經濟の不利、第二に貿易の輸出入額調節の攪亂の二つに總括して述べて見る。

(一) 國家經濟と家事經濟との連關 家事經濟と國家經濟とは互に密接に連結されてゐる、何となれば國民が貧しくして國家が豊かなることを得ず、故に國家を豊かならしめるには各家庭の家事經濟を豊かならしめねばならない。かの國家の財政が窮迫して經濟的信用のうすらいだ場合などには、外國爲替相場の下落することがある、その結果貨幣價值が低落して物價が高くなり、國民の購買力を減少して消費者の生活を困難ならしめるが如き、國家經濟と家事經濟との相互連結上極めて見易き一現象である。

更に國家經濟と家事經濟との特性に基づく相互連結の關係を考へれば、國家經濟は所謂公經濟にして家事經濟は私經濟である、而して公經濟は原則として支出の必要に應じて徵稅によつて収入を定むるが、私經濟は収入に制限があつて、望みのまゝに増加し得ざるがため、先づ收入を圖り、その範圍内に於て支出を定むるのである。然しながら、公經濟といへども如何に支

出計畫を膨大にしても、これを徵稅することが可なるものではなく、必ずや國民徵稅負擔能力を考慮して支出を定め、これを徵稅しなければならない、即ち公經濟と私經濟とはこの點に於ても互に密接なる連結を持たねばならないのである。

(二) 奢侈浪費の國家經濟に及ぼす影響 公經濟である國家經濟と私經濟である家事經濟とは、互に密接なる連結を有するものであるから、家事經濟の運用は單に自家の利益だけを眼中に置かずに、國家經濟に及ぼす影響を考慮してこれを運用すべきものである。

著者は頃日、自己の指導し居る奈良女子高等師範學校家事科の生徒を率ゐて京都市に家事の見學旅行に出で、市内某氏邸の家庭電化設備を見學したことがあつたが、其の邸宅の庭園を流るゝ泉水の極めて清麗なるに驚き、普通の河川水に非ざるべしとの想像から、水源の水道水なるか、將又井水なるかを尋ねしに、井戸の上にポンプを据付け電動機にて汲上げ利用してゐることである、その説明によれば動力費や穿井費又は電動機等の費用は稍多額で、家事經濟上不利ではあるが、妄に水道水を流すことは、公衆經濟のためになすまじきことだと信じ、態と井戸にポンプを据付け電動機を運轉して水を汲上げて利用してゐることであつた。かゝる施設は、自家の私經濟からだけ打算せしものではなく、社會公衆への影響のため公經濟を考

慮に入れた尊敬すべき事實であるといふべきである。

(三)奢侈浪費の貿易に及ぼす影響 更に公私經濟上考慮すべき問題は國産品の愛用である、蓋我が國の一般産業の量及び質に於ける發達は著しきもので、世界的産業國と稱すべきである、かの過般優良國産品として政府より指定された製産品の極めて多數であることから見ても、この事實を證明することができる。然るに我が國人は、明治開港の最初に於て、未だ一般産業の歐米先進國に比して劣つてあつた時代に於て、輸入品を使用してあつた因習に捕はれ、現時にあつても亦輸入外國品が國産品に優れるものの如く考へ、輸入品を使用する人も少なからず、且輸入品を使用し居ることを以て誇りとする人すらも無きにあらずである。かくの如きは、消費者として商工業品の資質の良否を判断する能力が不足せしか、或はこれを缺くかの無智の致すところといふべきであるが、これと同時に輸入品の愛用は、輸出入貿易額の權衡を破り、國內流通貨幣額を縮小せしめて、國家の公經濟上に大なる不利を招くに至ることを考慮せざるものだとして、吾人はこれを排斥しなければならない。

これを數字によつて證明せんがため、昭和六年發行の第五〇回帝國統計年鑑により、内地の輸移入品價額表を見ると、酒類・煙草類及び毛織物類等につきて左の數字が示されてゐる。

種目	年次	昭和元年	同二年	同三年	同四年	同五年
酒類		一、七六五、〇〇〇	一、八六六、〇〇〇	二、一〇一、〇〇〇	二、八一六、〇〇〇	一、八五六、〇〇〇
煙草類		二、一〇〇、〇〇〇	二、四四五、〇〇〇	二、一八六、〇〇〇	三、二二一、〇〇〇	九、八二四、〇〇〇
毛織物類		二、七九三、〇〇〇	三、四六一、〇〇〇	三、二二二、〇〇〇	三、九四一、〇〇〇	二、四三三、〇〇〇
コンデンスミルク		三、六四三、〇〇〇	三、五一一、〇〇〇	三、八二六、〇〇〇	三、九九五、〇〇〇	三、二六九、〇〇〇
芳香油		三、〇一〇、〇〇〇	二、四八八、〇〇〇	二、五三七、〇〇〇	二、六九九、〇〇〇	二、三九二、〇〇〇
輸移入總額		二、三三七、四八四、〇〇〇	二、二七九、一五四、〇〇〇	二、一九六、三三五、〇〇〇	二、二二六、二四〇、〇〇〇	一、五四六、〇五一、〇〇〇

酒類はウイスキーとかブランドー其の他の洋酒類、煙草類はゲルベソルテ・リームツマやウエスト・ミンスターの如き金口及び葉巻類、毛織物は洋服地、コンデンス・ミルクはいふまでもなく煉乳であり、芳香油は香料であると見るべきである。これ等の内で國産品の供給不足なる毛織物の如きはあるが、酒類煙草類等は國産品として本邦人の趣好に適したものが、需要に應じ得るだけ製産し或は製産せしめ得る可能性があるのであるから、強ひて外國品を消費して誇りとなし、あまつさへ國家經濟を不況ならしむるの不利に出づる必要が無い筈である。世には富者にして、家事費の豊かなるがため、それ等の外國品に高價を拂ふも、支出上何等の困難

なき家庭が多かるべきではあるが、而かも國家經濟の大局に着眼して、本來の國産品愛用の趣好に立ち歸り、熱烈なる愛國心の下に國家經濟の利益を圖り、以て良き日本人たることを求めねばならない。

第六節 嗜好品の節制

(一) 一般の生理的性質 嗜好品は榮養の効甚だ少なきか或は全くこれを缺くものであるが、これを嗜用することによつて神經を刺戟し、その結果として身體的精神的作用を旺盛にするものである。然しながらこは程度の問題で、上述の効果は用量の適度にして且適時嗜用の場合に限り、若し過度に不定時に亂用する場合は、却て身體的精神的作用を危害するものである。

嗜好品はその種類多く、液體飲料に屬するものには茶・コーヒー・ココア・酒精飲料があり、煙飲料に屬するものには煙草類があり、香辛料に屬するものには山葵・生薑・胡椒及び芥子等がある。而してこれ等の嗜好品を愛用消費する習慣は、それぞれ國土習慣によつて異なるもので、大要左記の如くである。

茶。 日本、支那、印度、英吉利、アメリカ、カナダ、ソビエトロシヤ、オーストリア。

ココア。 歐米各國。

阿片。 支那、印度。

文化が發達し社會組織が複雑となり、生活々動の激烈となるに従ひ、何れの國に於ても嗜好品を用ひる量が増加する。これ恐らくは生存競争のため、心身の疲勞を來たすこと甚だしきを以て、その疲勞の回復と慰安とを求むるの必要より、次第に多くの嗜好品を用ひ、強烈なる嗜好品を求むるに至るものであらう。かの都市生活の人士が、村落生活の人士よりも、嗜好品の種類及び分量に關して、前述の傾向があることを思へば、うなづかる、ことである。

(二) 茶・コーヒー・ココア この三種の飲料は、共にアルカロイドに屬するテイン・カフェイン又はテオプロミンを含有するもので、嗜好飲料としての特性は、これ等のアルカロイドに基因する。

(一) 茶 テインは $C_{15}H(CH_3)_3 \cdot NO_2$ の組成を有するもので、茶葉中には約二—四%を含有する。古在農學博士が、同種の茶葉にて紅綠二種の茶を製して、成分を分析せし結果は次表に示す通りであつた。

種目	成分	ティン	蛋白質	タンニン	エーテル浸出物	水浸出物
茶葉		三・三〇四	三七・三三〇	一二・九一〇	六・四九〇	五〇・九七〇
紅茶		三・三三〇	三八・九〇〇	四・八九〇	五・八二〇	四七・二三〇
緑茶		三・二〇〇	三七・四三〇	一〇・六四〇	五・五二〇	五三・七四〇

而して製せる茶の品位は、主として含有するティン及び水可溶性物質質量によつて定まるもので、上種の茶はこれ含有すること概下種の茶よりも多い。東京帝國大學農科大學に於て、上中下各種の茶を分析せし結果は左の如くで、高價の上茶ほどその量の多きことを示してゐる。

一斤の價	成分	水	ティン	タンニン	水浸出物	無機鹽類
〇、一八		七・九七	〇・八〇	一二・五一	三八・二三	四・一九
〇、三〇		一一・四五	一・七九	一五・六三	三三・四四	五・五二
一、〇〇		四・九七	二・一二	—	四七・四九	五・二二
二、〇〇		六・六二	二・一九	一九・〇〇	三七・八三	五・八五

又茶につきては、煮茶法によつて飲用すべき茶液中の浸出物の成分を知ることが極めて重要

である。今上種の緑茶五〇瓦に五〇度の湯五〇〇蚝を注加し、五分間放置せし後、これを傾注すること前後三回にして、得たる各浸出液の成分を分析表示すれば、左の如くである。

浸出液	成分	水	ティン	タンニン	窒素化合物	無機鹽類
茶葉		六八・一三九	三・四三〇	一五・七五〇	七・五四一	五・一四〇
第一液		九五・八二八	〇・五〇〇	二・五〇〇	〇・二九二	〇・八八〇
第二液		九六・三二三	〇・四一〇	二・二六〇	〇・二六七	〇・七四〇
第三液		九六・八七〇	〇・四三〇	二・二〇〇	〇・二五〇	〇・二五〇

この表によれば、三回の煮茶浸出液は殆ど同一の成分を有するも、主成分たるティンは三回の總量僅に一・三四〇瓦にして、茶葉中の全量三・四三〇の二・五六分一即約三分一強を浸出せしに過ぎざるを以て、更に沸煮法を用ひて残りのティンを煎出して飲用することを得る。

茶は、適時に適量を飲用すれば、精神を爽快にし、疲勞を醫し、眠氣を覺醒し、食慾を増進するもので、昔時より本邦人の愛用し來れるものである。従て茶の栽培及び製茶業も亦頗る盛になり、これを伴ふて茶道の法も亦發達して、藝術的修養的方面にもこれを用ひるに至つた。

かの清酒なる茶室内に端座して、淡泊香味の粹を盡せし茶液を味ひ、精氣を養ふの神境は、本邦人の精神的特性に合致せるものにして、かの濃厚にしてあくどきコーヒーに、牛乳砂糖を混入せしものにあらずんば、飲むに足らずとするが如きは、緑茶の趣味と同日の談ではない。かくて吾人は、國産品として緑茶趣味を高調すると同時に、これを捨ててコーヒー趣味に惑溺することの無からんことを希望する。

(二)コーヒー コーヒーはコーヒーの種實であるコーヒー豆の果皮を去り、これを熬焦して粉状となせるもので、カフェインと稱するテインと同様の主成分を有してゐる。今コーヒー豆及びその熬焦物中に含める主要成分を表示すれば、左の如くである。

種目	成分	カフェイン	蛋白質	タンニン	エーテル浸出物	水浸出物
生豆		一・〇七	一二・六四	九・〇二	一一・九〇	二九・三〇
焦豆		一・一六	一四・一三	四・六三	一三・八五	三九・九九

コーヒーの飲用は、茶の如くに煮汁を以てせず、熬焦粉末を用ひる場合が多いから、前表によつて飲用成分を知ることを得べく、若し熬焦粒を熱湯に浸出して飲用すれば、浸出液の成分は左表の如くである。

種目	成分	カフェイン	水溶性分	脂油質	無窒素物	無機鹽類
コーヒー液		一・七四	二五・〇〇	五・一八	一四・五二	二・四〇

これによつて、コーヒー液が緑茶紅茶等の浸出液に比すれば、如何に濃厚なるかを知るべく、従つて其の生理的作用も亦強烈なることを思はしめる。

(三)ココア ココアの種實を熬焦して粉末となし、或は種實を搾りてココア脂を製取した滓に、砂糖肉桂等を加へたものはチョコレートである。その主成分はテオプロミンで、左表の如き成分を有する。

種目	成分	テオプロミン	蛋白質	脂肪	澱粉	無機鹽類
生果		一・四九	一四・一九	四五・五七	五・八五	四・六一
焦果(丸)		一・五八	一四・一三	四六・一九	六・〇六	四・一六
焦果(肉)		一・五五	一四・一三	五〇・〇九	八・七七	三・五九

その作用は、テオブロミンに依て茶及びコーヒーに類似するが、蛋白質脂肪及び澱粉に依て栄養價を有することとなる。

〔三〕酒精飲料 酒精飲料は何れもエチルアルコール C_2H_5OH を主成分とせるもので、米澱粉を糖化醱酵せしめたる清酒、小麥の發芽によつて澱粉を糖化醱酵せしめたる麥酒、葡萄汁を醱酵せしめたる葡萄酒、白葡萄酒の醱酵中に砂糖を加へて瓶詰後引續き醱酵せしめたるシャンパン酒、清酒を蒸溜せる焼酎、麥酒を蒸溜せるウキスキー、葡萄酒を蒸溜せるブランデー等種々のものがある。

酒精飲料は、適量を適時に飲めば、血壓を高めて循環を促がし、精神を興奮し、消化機能を促進するの効はあるが、過量を飲用すれば却てこれ等の作用を妨げて往々中毒作用を起す、その急性中毒症では、眩暈、耳鳴、頭痛、精神昏睡、麻痺、痙攣、嘔吐、大便失禁、心動始躍終衰兼不整、脈搏代歇、體溫下降等を來たし、症状の甚だしきものは死すことがある。又慢性中毒症では、常習飲酒より來るもので、咽頭カタル、胃カタル、氣管支カタル、酒齶鼻、四肢震顫、視力障害、筋肉弛緩等の神経障害、思考心減退、道德心消失、記憶力減少、痴呆等の變調を來たし、殆ど癡人の状態を陥ることがある。殊にこれ等の症状は、エチルアルコール含量の

多き酒及び下等酒にして高等醱酵によつてフェーゼル油を含有するものに多い、試に酒精飲料中のエチルアルコール含量を表示すれば、左の如くである。

麥酒	葡萄酒	シャンパン	清酒	ウキスキー	焼酎	ブランデー
四・五	八・五	八・五	一四・三	三九・六	四九・〇	五〇・〇

酒類の亂用は獨り前述の中毒症状を起すだけでなく、一家經濟の攪亂、道義の破綻等を來たし、且その害毒は自己の一身に止まらずして、その子に影響を及ぼすものである。故に飲酒亡國にして禁酒興國とも唱へられてゐる。

〔四〕嗜好品に對する注意 嗜好品は其の何たるを問はず、適時に適量を用ひれば、神経を刺戟興奮せしめ、心身の疲勞を醫するの効はあるが、これを連用すれば次第にその効果を減少する、従つて効果を求めんがためにその使用量を増加するに至ること、恰も飲酒の習慣ある人は次第に飲用量の増加するに至ると同様である。

かくの如く嗜好品の用量を増加する時は、その効果は却て有害作用に變じ、而かも既に習慣に耽溺せし後は、その害あるを知つても尙且これを廢止することは到底困難なるものであるこ

と、恰も常用飲酒者が酒の害を知りつゝ、これを禁酒すること能はず、常用喫煙者が煙草の害を知りつゝ、これを禁煙し能はざるが如きである。故に既に常用の習慣に陥れるものは、俄にこれを廢止し得ず、又俄に廢止することを不利とするものもあるから、この種の常用者はその害を避くるか又は輕減する方法として、良質の物を選定し、適時に適量を用ひ、且長期に亘りて次第に用量を減少して行くことを心掛くべきである。

又飲酒喫煙の如き習慣に陥らざる青少年者に對しては、主婦はよくこれを監督指導してその習慣に入らしめざることに努力すべきである。換言すれば、既に常用の習慣に陥れる者は、これを廢止することが困難であるから、寧ろこの習慣に陥らざる努力を拂ふことが、最善の方法である。これ現今我が國に、未成年者飲酒禁止法及び喫煙禁止法が實施されてゐる所以であるから、よく該法案の精神を了解して父母はその子を監督指導し、一面に於て用法に注意すると同時に、他面に於て健康なる心身を有する、良き日本人たることを心掛けなければならない。

第七節 未成年者の禁酒及び禁煙

〔一〕未成年者に及ぼす飲酒及び喫煙の影響 飲酒及び喫煙の常用過量より來たる有害作用

は、既に前節に於てこれを述べたのであるが、この有害作用は心身の發育が未完成である所の未成年者に對しては特に甚だしきものである。殊にその害は獨り生理衛生的危害たるに止まらず、酒や煙草の存在そのことが既にカフェー・バー又はレストーランその他遊興の巷なることに於て、未成年者たる青少年をあやまらすことの甚だしきものがある。これ未成年者特にその學生生徒等にあつては、飲酒喫煙の惡習を有するものは、酒煙草其の物の直接有害作用を受け居るのみでなく、酒煙草其の物が媒介する間接の惡影響のため、殆ど善良にして眞面目なるものなく、成績劣等なる不良者のみ多きことは、其の有害作用の直接及び間接に來たるものの、如何に大なるかを思はしめ、吾人をして戰慄せしむるものがある。これ法律を以て未成年者の禁酒禁煙を取締る所以の重要な理由にして、吾人未成年者の父兄たり母姉たる者が、大に注意しなければならぬことである。依て左に、これ等の兩法律を掲げて、監督指導上の参考とする。

〔二〕未成年者飲酒禁止法 大正十一年三月二十九日法律第二〇號を以て公布されたるもので、

左の四箇條より成る。

第一條 未成年者は酒類を飲用することを得ず。

未成年者に對して親權を行ふ者若くは親權者に代りて之を監督する者未成年者の飲酒を知りたるときは之を制止すべし。

營業者にして其の業務上酒類を販賣又は供與する者は未成年者の飲用に供することを知らず酒類を販賣又は供與することを得ず。

第二條 未成年者が其の飲用に供する目的を以て所有又は所持する酒類及び其の器具は行政の處分を以て之を沒收し又は廢棄其の他の必要なる處置を爲さしむることを得。

第三條 第一條第二項、第三項の規定に違反したる者は科料に處す。

第四條 營業者が未成年者又は禁治産者なるときは本法に依り之を適用すべき罰則は之を法定代理人に適用す但其の營業に關し成年者と同一の能力を有する未成年者に付ては此の限りに在らず。

營業者は其の代理人、戸主、家族、同居者、雇人其の他の從業者にして其の業務に關し本法に違反したるときは自己の指揮に出でざるの故を以て處罰を免るることを得ず。

明治三三年法律第五二號は本法に依る犯罪に之を準用す。

(三) 未成年者喫煙禁止法 明治三三年三月七日法律第三三號を以て公布されたもので、左の

四箇條より成る。

第一條 未成年者は煙草を喫することを得ず。

第二條 前條に違反したる者あるときは行政の處分を以て喫煙の爲に所持する煙草及び器具を沒收す。

第三條 未成年者に對して親權を行ふ者情を知りて其の喫煙を制止せざるときは一圓以下の科料に處す。

親權を者ふ者に代りて未成年者を監督する者亦前項に依りて處斷す。

第四條 未成年者に其の自用に供するものなることを知りて煙草又は器具を販賣したる者は十圓以下の罰金に處す。

第八節 社交上の飲食物の改善

(一) 來客接待法に關する改善 人間生活は孤立すべきでなく、社會的でなければならぬことは、既に第一章に於て述べた通りであるから、社交生活の必要なるはいふまでもない、従つて社會的交際は極めて手軽く容易に行はねばならぬ事が根本の要求である。何となれば、社交

が如何に必要なればとて、極めて煩瑣複雑なる儀禮の伴ふものならば、容易に行はれ難くなり、重要性を没却せざるを得なくなるからである。

知己友人等を訪問する場合、又は集會に出席する場合等に、六ヶ敷服裝上の定めがあるとか、或は定めがなくとも無言の競争があるとかすることは、我が國の從來の弊風であり、特に男子よりは婦人に於てこの種の弊風が甚だしかつたことは争ふべからざる事實である。加ふるに訪問には、何にもせよ手土産を持参しなければ體裁が悪く、空手では訪問しにくいといふのは、從來の因習であつた、而かもこの因習は婦人界に於て甚だしいことは、衣服と同様に争はれぬ事實である。

元來訪問は要談事件の場合もあるが、特別の用談がなくとも、親しき問柄の人が時々互に訪問し合ひて、心置きなく睦み合ひ語り合ふことは、極めて良いことである。然るにこの種の訪問に、手土産を持ち行かねばならぬとなれば、訪問することが臆劫になり、知らず識らずに疎遠になり勝ちである。又訪問せる來客が土産物を持参されたとすれば、これに應じて適當なる響應でも爲さねばならぬ配慮を生じ、且當方より訪問する場合にも亦手土産を持参せねばならぬことともなる。従つて外出の際、知人の門前を通過する場合でも、手土産無きために訪問す

る事は不可能になり、今日行かう明日は訪はうと思ひながらに一ヶ月と過ぎ二ヶ月と過ぎて、遂に半年も一年もの疎遠を招くに至ることは、決して稀なる事實ではない。

又我が國では客の訪問を受けし場合には、必ず茶菓を響應してこれをもてなすことは常例であるばかりでなく、食事時刻ならずとも食事のために招待せし客ならざるに食事を饗してこれを強ふることが多い、殊に婦人の場合に多いのである。著者の友人ヂー・エム氏が、曾て奈良から上京してステーションホテルに着して朝食を済まし、中野區の知人を訪問せしに、折柄知人不在のため其の夫人と雑談して歸宅を待ち居る時、一〇時前後であつたのに鮎を取寄せ食事を強ひられ、既に朝食後であり且自己は食物は衛生上極めて規律正しき習慣を養ひ居れる旨を述べてこれを辭したが、何時かな聞入れずこれを強ひられて閉口したといふことがある。これは客を待遇せんとする精神的態度に對して賞讃すべきではあるが、この種の場合に、食事後の來客に對し且食事時刻にもあらざるにか、はらず、食事を強ふるが如き風習は、客に對しては迷惑であり非衛生的であり、自家に取りては浪費でもあり、又來客待遇の道は決して物質的方法にのみ存するものでない等の諸點から、今後はこれを改善することとし、一には來客への迷惑を避け、二には自家の浪費を省き、三には國家經濟上より見て食料の亂用を省きたいと思

ふのである。否寧ろ、食料不足の我が國に於ては、如何に些細なる事項に對しても、食料の浪費を節して國民同胞のため自足の途を講ずることこそ、緊急なる愛國的行爲であり國民相互の義務なのである。

〔二〕葬儀に關する改善 或る家庭に葬儀のある場合には、町内隣人が申合せによつて弔意を表し萬端の手傳をするのは、何れの地方にも行はれてゐる習慣である。而してこの習慣の基因は、(一)敬弔の意を表すること、(二)弔家の人達が悲嘆のため、故人を思ふの外他意なかるべきにより、町内隣人が世話する好意同情のためなること、(三)經濟上より知人の手傳によつて費用を節約することの三つは、其の主要なる理由であるのは、妥當性を持つものである。

町内隣人の手傳はかゝる理由に基因するとすれば、手傳人は専ら敬弔の意を表し、物靜かに機敏に萬事に周到なる注意を拂ひ、費用の節約を主旨としてこれを遂行すべきだと思はれる。然るに、實際の手傳状況を見れば、恰も祝事か祭禮さはぎでもあるかの如く、唯徒らに多數の男女が弔家に集まつて笑ふ叫ぶの大混亂を醸し、數十人分の食膳を作つて饗宴を張り、飲酒高笑に兩三日を過ごすのである、著者の知れる某市の友人の葬儀に際しては、手傳人が食事をすゐるのは食事時刻に於て當然でもあらうが、町内の各戸に於て各家族の人数だけの食事を弔家か

ら自宅に持ち運びて自己の家族にこれを食はすのであつた。故に臺所の手傳人と稱する町内の女達は、弔家の人の食事を手傳ふよりは、寧ろ手傳人及び自家の食事を調理するの感があるといはざるを得ない。葬儀後に決算の任を託されて仕拂係を勤めたが、葬具料は僅に一一五圓であつたのに、總支出額は七〇〇圓に達したから、殘額五八五圓は殆ど酒と食物の費用であつたと見ねばならない。後に傳聞せし話であるが、その家に葬儀のあることが町内に通達された時、ある人は『又飲めるよ』といつて勇み立つて手傳に出向ひたとのことであつた。

かゝる町内手傳の風習は、弔家を犠牲にして飲食を恣にするもので、所謂同情心の發露より來れるものではなく、敬弔の意を失すること甚だしきのみでなく、不經濟極まる弊風であるといはねばならない。善良にして健全なる日本國民たるためには、この種の弊風は速に一掃して改善策を講究實行すべきものである。

改善策としては、町内隣人が敬弔の意を表し、手傳ひをするのを本旨とすることには異議なきも、手傳人數の如きは弔家の家格、社會的地位、其他弔家の事情によつて異なるべきだから、總て弔家の意志によつて定め、眞に同情の心からこれを手傳ひ、高笑談論を謹み、酒食を辭し、節約簡素を旨とすることを本體となすべきであると思ふ。

第五〇回帝國統計年鑑によれば、昭和元年以後昭和五年に至る五ケ年間の我が國の死亡人數は左表の通りで、最近五ケ年間の平均一ケ年死亡人數は一二〇萬八七七二人に達してゐる。

昭和元年	同 二年	同 三年	同 四年	同 五年	平均
一、二六〇、七四四	一、三三三、三三三	一、三三六、七二二	一、三六一、三三八	一、三二〇、八七七	一、三二〇、七七一

故に前述の例に於て、葬具料を一一五圓とし、食料を八五圓とし、假に合計二〇〇圓にて済むものとするれば、一人の死亡につき葬儀費五〇〇圓を節約することとなる。従つて平均一ケ年の死亡人數一二〇萬八七七二人につきては、次式の計算により、實に六億四三八萬三〇〇〇圓の巨額に達する。

$$500 \times 1,208,772 = 604,383,000$$

この巨額の消費を轉じて、他の有用なる支途に轉ずることは、獨り家事經濟上焦眉の緊急事であるのみでなく、國家經濟上の大問題でもあるから、徒らに古來の弊風に拘はれず、社會の狀勢を觀じ世界の趨勢を鑑みて、奮勵一番速に改善の實を擧げねばならない。

〔三〕**社交的宴會に關する改善** 生活改善同盟會著作の『實生活の建直し』と題す書に、東京

府下調布村淺田一郎氏の結婚祝宴の改善に關する記事がある。それによれば、同地の習慣としては結婚式後短きは五日間、長きは一〇日間、連日連夜遠近の村民を招きて祝宴を張り酒食を饗應することになつてゐる。然るに同氏は自己の婚儀に際してこれを改善せんと努力し、父が「村の笑ひ者になつて家の恥になる」とて從來の習慣によらんとしたものを、同氏及び生活改善同盟會理事から事理を述べて改善方法を協議し、一日間に三回の客を招待して終りを告げることにし、父が結婚費豫算三〇〇〇圓としてあつたのに、約半額にて済み、その節約費中より五〇〇圓を母校である同村の小學校に寄附したとのことである。

由來我が國に最も多く行はれた習慣としては、結婚披露宴に限らず何れの宴會に於ても、食ふ必要だけの分量には頓着なく、單に品數皿數を多く並べて形式體裁を飾ることに重心點を置くの一大缺點がある。従つてその献立の如きは、二汁五菜又は三汁七菜等があり、一の膳二の膳三の膳或は四の膳の外に焼物臺引等が配せられ、その賑はしさは食膳展覽會の如き觀を呈するのである、甚だしきは生のまゝなる生魚を丸附けして配膳する場合すらあつたことを著者は經驗してゐる。かゝる状態であるから、來客はこれ等の馳走品を食ふのではなくて、宴席に於てはこれを觀るのみで、殆ど全部は土産物として自宅に持ち歸る風習が行はれてゐる。

而かも招待響應の宴會でなく、集會になる宴會の場合の如きは、單に一席の宴會のみでは物足らぬ感あつてか、二次會と稱して更に他の料理店に行きて再度の宴席を張る場合が決して少なくない、甚だしきに於ては三次會なども開くことすらあると聞くが、宴會の悪用食物の亂用實に言語に絶すといふべきである。

元來宴會の本旨を考ふれば、開催の場合の如何により、祝賀の意を表はすとか、惜別の情を表はすとか、慰籍の意を表はすとか、或は謝恩のためとか、若しくは親交のためとかである。故に形式に拘はるゝことを主とせず、その精神を充分に表現することを主とすべきものである。それを従來我が國に行はれた宴會は、精神表現主義ではなく物質萬能主義で、暴飲暴食を以て唯一無二の中心問題とし、酔ひつぶれて仕舞はねば厭き足らぬとするものの如くである。従て宴會主催者とか幹事當番乃至發起人といふが如き人は、主賓を充分に待遇することなどは忘れ、自己のための宴會の如く振舞ひ、自己の感興にのみ狂奔する者のあるのは、その本旨を謬れるの甚だしきものといはねばならないのである。

かゝる弊害に顧みる所があつて、近來都市に於ては洋風宴席が暫々開催されるに至つたことは、蓋當然の歸結であらう。何となれば、洋風宴席は開會時刻も嚴守勵行され、食物は食ふだけを標準として献立され、開宴時間も比較的短くして和風宴會の如き無制限でなく、且この種の場合に惱まざる、チップの如きも、仕拂額の一〇%といふが如き世界的常例がある等の、幾多の長所が伴ふからである。

吾人は、宴會を必ずしも洋風にせよと叫ぶものではないが、然しながら其の長所を取入れて和風宴會を改善し、時刻に於ても時間に於ても、規律に於ても費用に於ても、嚴守と節制とを以てし、尊敬すべき大國民としての良習を造上げたいのである。然るに村落地方はいふまでも無く、都市に於ても亦この種の改善和風宴會又は洋風宴會を以て、誠意を缺ける殺風景なるものの如く見做し、無節制なる和風宴會を誠意あるものとしてこれを賞しこれを喜ぶ人士のあるのは、實に嘆すべき限りであつて、唯に前述の長所を捨てんとするばかりでなく、特に食糧の節約利用によつて國民の自給自足を圖るべき秋に當つて、これを浪費せんとするものだと見るべきであるから、かゝる迷夢を一掃して、眞の宴會の本旨に立戻ると同時に、その浪費を避けて良き日本人たるの實を擧げなければならない。

第三章 衣 服

第一節 衣服の國民精神表現

(一) 衣食住發達の順序 原始生活の時代に當り、衣服・食物及び住宅が如何なる順序を以て人類社會に發達したものであらうか。之を考察することが衣服の起源を明らかにする所以であり、起源を明らかにすることはやがて衣服の意義を正當に理解する所以であり、意義を理解することは即ち衣服と精神との關係を知る所以である。

人類學のいふ所によれば、吾人人類の最初に生息せる所は熱帶地方にして、生活持續のために必要缺くべからざるものは、饑餓を醫し疲勞を回復するための食料であつた。この必要は殆ど本能的で、恰も初生兒が母の乳房を口にして之を吸ふが如くで、生活は即ち食ふことであり食ふことは即ち生活でもあつた。而かも氣候は暑くして寝ぬるに家を要せず着るに衣を要せざるのみでなく、寧ろ野外の綠蔭を求めて裸體の生活こそ、最も心地よく且環境に適する自然的のものでもあつた。かくの如くして、彼等原始人は裸體を以ての水草漂泊生活を爲し、椰子の

實熟して香氣芳馥たる場所を求めて、今日は此處に明日は彼處にと楽しき其の日を送つたものであらう。

かくて星霜幾十百年、人口次第に増殖するに従ひ、獨り熱帶地方にのみ居住することは、食物の自然的供給や土地の廣さに於て満足すること能はずして、徐々に溫帶地方に侵入するの止むやきに至ると同時に、氣候や環境の必要上より定住の必要を生じ、妻子と共に集團生活を營み、進んで部落生活をも營爲して生活の安定を求むるに至つたものである。

この溫帶生活や集團部落生活は、一方に於て天然の氣候に對抗する必要より、身體を纏ふことを工夫させ、他方に於て自己の優越を集團部落の他の中間に誇示するには、自然のまゝの自己の身體に對して不滿を感じ、何等かの物を身に着くるに至つたことが、衣類の發達を助成したものでなからうか。

斯くの如くにして、衣食住中最初に發達せるものは食物にして、之に次ぐものは住宅であり、衣服は最後の第三段の階級に於て發達せるものであると見られてゐる。

(二) 衣服の起源に關する概説 衣服の發達は食物・住宅に次ぎたる第三段的のものであるにせよ、其の發達の起源は何であるかの問題に關しては種々の所説がある。體溫の調節に起源を

置くもの、身體の保護に起源を置くもの、威容の整備に起源を置くもの、人格の表現に起源を置くもの、身體の美化に起源を置くもの等それである。

體溫の調節説を主張するものは、保健上衣服を以て身體を被覆することを以て衣服の起源とするものであり。身體の保護説を主張するものは、劇烈なる生活活動のために受くる外傷の保護を以て衣服の起源とするものであり、威容の整備説を主張するものは、南洋部落の酋長に見るが如く、邊幅を誇張して威嚴を整へることを以て衣服の起源とするものであり、人格の表現説を主張するものは、個々の修養による特殊の人格を表現する一形式を以て衣服の起源とするものであり、身體の美化説を主張するものは、生物一般の根本的約束に基づき、男女各々自己の身體を裝飾して、之を美化することを以て衣服の起源とするものである。

これ等の諸説を通覧すれば、威容の整備・人格の表現は等しく整容に屬することであるから、禮容整備なる説を以て一括すれば、體溫調節・身體保護・禮容整備・身體裝飾の四説となる。而かもこれ等は何れも着衣することに依て得らるゝ衣服の効用であるから、これを衣服の効用説とすることが出来る。

〔三〕衣服の起源と効用説 衣服の起源に關する四説中、體溫調節・身體保護の二説は衛生的

効用に屬するものであり、禮容整備・身體裝飾の二説は容儀的効用に屬するものである。従つて衣服の起源に關する効用説は、左の二類四説となるを以て、順次之を批判する。

第一類 衛生的効用説 (1)體溫の調節 (2)身體の保護

第二類 容儀的効用説 (1)禮容の整備 (2)身體の裝飾

(一)體溫調節説 保健上の必然的要求として、外氣溫度の變化に抵抗して平均腋下溫度三六・二―三六・八度を維持せんがため、動物の毛皮・植物の枯葉等を綴つて身體の一部又は全部を被覆せしことから出發して、次第に發達變遷して現今の衣服に到着せるもの、今猶發達の途上に於ける種々の段階にあるものを、世界各地に散在する種々の文化程度の人類に之を見る事實は、之を證明するといふのである。

この説は、緯度甚だしく極地に偏せる地方の住民に對しては當嵌るが、緯度低き熱帶地方の住民に對しては當嵌らぬ缺點がある。然るに、熱帶住民といへども、何等かの物を身邊に纏ふのは現時の状態であるから、衣服の起源説としては熱帶地方の住民に對しても當嵌るべき普遍性を持たねばならぬ。

(二)身體保護説 人類は原始時代より食物獲得のためには相當の活動を敢てせねばならな

つた、況や人口次第に増殖するに於ては猶更のことである、よつてこの活動のためには往々にして身に損傷を受くるの止む無き場合もあつた、之を豫防せんがために着衣をなすに至つたとするのがこの説である。果して然らば、彼等が損傷を受け易しと思はる、身體の部分は、山林原野の跋涉から考察して手の先・足の先であるべきに、彼等は洗手徒足を以て山野を跋涉し、却て腹部などに腰篋を纏ふが如き事實から見れば、身體の保護は現代文化人に於てこそ、停車場驛夫の手袋や、上海戦に於ける鐵兜等に之を見得るとはいへ、原始時代を通じての衣服の起源とすることは出来ぬ。

(三)禮容整備説 人類羞恥の念より出發して、身體中の醜くしとし恥しとする部分を隠さんとして、工夫し創作せるものが着衣の起源であるとするのがこの説である。

然しながら、ウエスターマーク氏が其の著『人類結婚の歴史』に於ても述べてあるやうに、羞恥の念は着衣の風習によつて醸成された結果であつて、着衣の原因では無い。殊に原始人は裸體は自然であり、自然なるが故に眞であり、眞なるが故に善であり、善なるが故に美であるとし、自然のまゝに發達した立派なる肉體こそ美の極致であつて、却て之に人工を加へて、種々の被覆物を以て隠蔽することは自然を偽る不善にして醜惡なるものであるとするの事實は、

幾多の指摘すべき例證がある。

カーライル氏も其の著『衣服哲學』に於て、羞恥の念は原始人には未知のものであつたが、不思議にも衣服の下に養はれたと述べてある通りで、羞恥の念は着衣の原因ではなく結果だと見るべきである。従つてこの羞恥の念に基づく禮容の整備を以て、人類衣服の起源説となすことは妥當性を缺く。

(四)身體裝飾説 人類は如何に未開なる生活をなすものでも、何等かの方法を以て身體を裝飾してゐる。かの南米の南端に住むテ・ラ・デル・フエゴ種族が胸部に尺大の獺皮を吊り、南洋ルズン島のイゴロット種族の女子が腰部に木葉を吊り、同じくパラウ島の土人が腰部に枯草を綴つた腰篋を纏ふが如き、皆これに出でたものである。

蓋身體裝飾の方法には三種がある、其の一は身體に損傷を加へて裝飾となす方法であり、其の二は身體を損傷すると同時に他物を附加して裝飾となす方法であり、其の三は全く他物を附加するのみで裝飾となす方法である。而して其の裝飾を施すべき部位としては、身體活動上の障害とならぬ點から、又裝飾物を安全に保つ點から、更に又裝飾効果を偉大ならしむる點から見れば、身體中腰部を以て最適當だとするのである。これ木葉・腰篋・腰布等が、好んで腰部に

應用される所以であらう。

かく考察する時は、身體の裝飾こそ有らゆる人類を通じての着衣の起源とも見るべきであるが、而かも身體を裝飾するに至つた動機は何であるか。この問題に關しては、性的表現や種族保存の要求より來れりとするもの、誇示の欲望・美的感情の満足にありとするもの等があるが、未だ以て充分なりとすることが出來ぬ。

〔四〕衣服の起原と進化説 衣服の起源に關する進化説は、宇宙の生命が進化して人類となる途上に於て、遺失し來つた身體被覆物を回収せんとする潜在意識的活動であるとするのである。

衣服の起源を攻究せんとして、其の効用に基礎を置くことは不可である、何となれば、ウキリアム・バットン教授が進化説研究に關する所説に於て述べたやうに、『一器官の効用は其の器官の起源たり得ない、何となれば器官の効用がある以前に、器官其の物が何等かの形を以て存在せねばならぬからである』。之と同様に、人類が衣服の効用を認識するには、それ以前に衣服は用ひられてゐねばならぬこと、なる。若又人類が衣服なくして其の効用を豫知し、之を創作着衣せしものであらうと云へぬでも無いが、而かもそれは現今の文化人こそ、自己一切の行動

に對して、理智と先見とを以て進んでは行くが、之を以て原始人も亦同様であるとするのは不合理である。

蓋人類着衣の起源は、カールライル氏も云へるが如く、有りの儘なる肉體に對する不滿の念に出發し、其の不備なる點を補はんとする企てに起因すと考へるのは正當であらう。この考を以て進めば、宇宙の生命が有らゆる生物に進化する途上に於て、人類以外の他の生物は有りの儘なる身體を以て生命の安定を保つべく、進化の終極に達したが、獨り人類のみは進化の途上に於て被覆物の一切を振落して不備の状態に達したと見ねばならない。而かもベルグソン氏の所論を以てすれば、被覆物を振落して來たことが潜在意識として殘存すること、恰も進化論上の物的殘存と同様であるとし、其の潜在意識的殘存が、人類發達の種々なる歴史的時期に於て、衣服の種々なる形式として回収すべく活動したのが着衣の起源であるとするのである。

云ふまでもなく、かく回収された衣服は、他の一般生物に於ける身體被覆物に相當するものであるから、既に回収せる以上は體溫調節・身體保護・禮容整備・身體裝飾等の効用のあるべきは當然である。

〔五〕衣服の文化的意義 衣服の起源及び効用の綱要は、上來既に述べた通りであるが、而か

も文化の發達に伴ひ着衣の意義も亦發展して、叙上の効用以外にも擴充されて來たことは、文化は絶えず向上するといふ特性上當然でなければならぬ。今之を、左に三つに別けて叙述する。

(一)男女の標識 人類文化發達の蹟を尋ねれば、何れの國土に住む人類といへども、文化の度進むに従つて、男女各異なれる方向に容貌服裝を理想化するものである。かの南洋土人の如き文化發達の程度低き人類は、容貌服裝によつては殆ど男女を識別し難きにかゝはらず、我等日本人の如く文化發達の程度高き人類に於ては、一見して其の容貌服裝の相違によつて男女を識別し得るが如き事實は、雄辯に之を證明するものだといふべきである。

この意味からいへば、文化人の着衣は、(1)衛生的には體温の調節・身體の保護を爲し、(2)容儀的には禮容の整備・身體の裝飾を爲す外に、(3)男女の性的標識を爲すものであることを忘れてはならぬ。

之を一般動物界に就て考察すれば、身體被覆物が雄性に於て壯麗其の極に達し、雌性に於て遙に見劣りがするのに拘はらず、獨り人類に於ては女性の服裝に於て艷麗優美の限りを盡し、男性の服裝に於て質素實用にして遙に見劣りがするのは、如何なる文化的意義を有するものであらうか。

服飾史の説く所によれば、何れの國土に住む人類も、中古以前にあつては同形式の禮服・作業服の二種を有し、時に臨み用に應じて其の何れかを着用したものであつた。かの古代歴史の挿圖などに見る所の緩濶なる服裝は即ち禮服にして、四肢を分離被覆した狹隘なる服裝は即ち作業服であつた。然るに、人口の増加と共に社會が複雑となり、生存競争も亦劇烈の度を増すと同時に、分業の制度が次第に行はれるに至り、心身の特徴の上から、男子は常に外に生活必需品の獲得の業に従ひ、女子は内に育児割烹の業を分擔するに至つた結果、男子の常に身に着けるものは作業服であり、女子の常に身に着けるものは禮服であつた。

爾來春風秋雨幾星霜、其の國土・氣候・産物・歴史等の如何によつて、多少異なれる發達を遂げたとはいへ、現代に於ける各國々民の男子服は中古以前の作業服を代表し、婦人服は禮服を代表するものだといふべきである。これ人類に於ける男女服の美しさの相違が、一般動物の被覆物のそれと相反する結果に到着した所以である。

これを以て見れば、衣服の改良や服裝の制定などに當つて、この男女の標識たる意義を無視し、單に衛生上・使用上又は經濟上のみより立論して工夫作成することは、人類文化の發達原理に矛盾し、服飾文化の進歩發展に逆行するものだといはねばならぬ。かの女子にして男子に

類似する服装を作成するが如きは吾人の極力相戒めざるべからざる所にして、特に型式の自由を認めらるゝ婦人の洋服に於て然りである。近時女子の職業の社會的發展と共に、往々にして制定さるゝ職業服が、この種の不用意に陥る場合には、それは單に命令の強制による範圍内に於て着用を餘儀なくせらるゝに止まり、婦人服としては極めて不適當なるものと成り終るを得ないであらう。

(二)個性の表現　カーペンター氏は「吾人の内部には自我なるものがあつて、吾人一切の行動は、自我の統制になる精神の表現によつて成る」といつてゐるやうに、吾人の言ふこと爲すことの總ては自己精神の表現である。然らば吾人は、自己に適するものとして地質・模様・色彩を選定し、自己に適する仕立を施して、自己に適すと認めし着附を爲せる自己の衣服は、自己の精神を表現する一形式であらねばならぬ。

曾て著者が間着服を新調せんとして一洋服師に見本を求め、之を至細に點檢したが思はしき柄合がなかつた爲め、更にカバン内に残れる他の見本の一覽を求めしに、彼洋服師は「先生向の柄合に非ず」との辨明で之を見せなかつた、且語を次いでこちらは柄合が派手で色物であるとのことであつた。之に依て、彼洋服師は衣服論を學ばずといへども、衣服が精神表現である

ことの原理を知つてゐることに感服したことがあつた。

さて衣服は個々の精神を表現するものだとすれば、現代の衣服指導者が衣服の個性表現を高調して、自己適性の衣服を選定着用すべしとするのはよいが、これには二つの攻究すべき要素が含まれてゐる。其の一は身體的要素にして、他の一は精神的要素である。前者は身長・肥瘦・姿勢等の外的要素に適應すべしとするものであり、後者は謹直・輕躁・高雅・卑俗・明朗・陰鬱等一切の内的要素に對する表現の適應を指すものである。

然るに現代に於ける個性表現を説く者は、多くは身體に關する外的要素の適應は指導するも、精神に關する内的要素の適應を指導する者は極めて少ないのである。即ち和服ならば身長が大で瘦せた人は何ういふ柄合がよいか、身長が小で肥つた人は何ういふ柄合がよいか、洋服ならば腰部の大きな人は何んな裁方をすればよいか、腰部の小さい人はこの裁方でよいかは、相當に注意されてゐるが、着る人の精神的傾向の如何によつて、個別的に要する注意に就ては比較的指導されて居らぬのを遺憾とする。それかあらぬか、生地や型式の自由が許されてゐる婦人服に於ては、近時往々卑俗見るに堪へざる柄合のものを着て、而かも得意然としてゐるもの、あるのは、鬢蹙に値するの甚だしきものである。之れ蓋個性表現を身體的要素に

關してのみ重視し、精神的要素に關して輕視した結果ではあるまいか。

更に一步を進めて之を考へれば、個性表現は精神的要素を重視すべしとすれば、主觀的には自己精神を正しく表はすことであるが、客觀的には己に對する他人に好感を與へることである。然らば即ちこの本旨を十分に徹底せんと欲すれば、其の先決の問題として、吾人は平素に於て落付いた上品な精神の修養に最善の努力を拂はねばならぬ、これ無くして輕佻浮薄徒らに媚をつくるが如き者が、如何にして高雅なる衣服の表現を爲し得べけんやである。

(三)國民精神の表現 衣服を精神表現の一形式であると解する時は、之を個人に就ていへば個性の表現即ち個人精神の表現であるが、之を一國の國民に就ていへば國民精神の表現であるといはねばならぬ。蓋國民精神は建國の精神を基礎とし、永き年日に亘る歴史的訓練によつて積上げられたもので、國民に共通してゐる固有の精神である。

吾人は、この立場から世界各國の國民服を觀察すれば、日本服・支那服・印度服・英米服等は頗る有意義のものとして、甚大なる教訓をこれ等の國民服より發見することが出来る。

國民服が其の國の環境や國民精神に立脚して成立してゐる事實は、幾多の例證を世界の各國に見出すことが出来るが、其の一例に近き中華民國の支那服に就いての所説を引かう。文學博

士後藤朝太郎氏は、雜誌『被服』第四卷第三號誌上に『支那服展望』なる論文を載せ、其の中に次の如く述べてゐる。『支那服の特色は、其の格構の寛裕たつぶりにどことなくゆつたりとしてゐるところにある、この特色が支那建築や家具調度の沈重に且厚ぼつたく拵らへられてゐるのと相對比して、如何にも似合はしいやうに眺められる。又その厚ぼつたく出来てゐる支那家屋や住宅の軒並に見る街衢の様子などに相映じて、これ亦調和して眺められる。(中略)又其の背景のあらゆる點から見ても、支那服が歴史的に又社會風俗の上からも融合しあつてゐるものだとして認めなくてはならぬ。』といひ。又同誌第四卷第二號誌上に、『支那服巡禮』と題する論文を載せ、其の文中に支那服と國民性なる一節を掲げ、『支那服を自分で着て見ると、いかにもよく支那の國民性の様子、その心持がわかる。洋服を着たときは、かつきりした心持がして、近代式の感じ従てキチンとした所の身構へが出来る。之に反して支那服を着るときは、いかにも自分自身ゆつたりとした打寛ろいだ気分になれる。又支那服をつけてコセつてゐるのは、服の手前からも似合はしからぬと云つた超近代式の氣持さへする。そこに支那服の持つ一種云ふべからざる特徴がある。

第一あの仕立方を見ても、胴のところから左右兩袖に至る間に縫目一つない、全くのすんべ

ら坊である。何處までが胴で何處から袖になつてゐるのか判らぬと言つたところがある、これは支那服に於てのみ見られることである。(中略)そこに大陸的な衣服の情趣が溢れて来る、その何んでもを十分に包み蔽ふところの包容力の大きなものが聯想せられるのである。

(中略)支那は表面にごたごたがあり、政治上の世相が不統一不統制に見えてゐる爲め、ひどく人情の方もぎごちないところのあるやうに考へらるゝが、しかし行つて見ると必ずしもさうではない、そこに民族性の姿が看破せられるのである。別にここに牽強附會せんとするのではないが、誠にその間に民族性の機微のところは支那服そのもの、上に表現せられて、よく首肯される。』(下略)と述べてゐる。

之を我が國の從來の國民服であつた和服に就て考察して見ても、縞柄・模様・配色が千姿萬態にして絢爛眼を驚かし、形狀が長袖開裾廣幅帯を結び上ぐる一種獨特の優雅なる風姿は、我が國の風土が周らずに海を以てし、山河草木到る所に縁にして、所謂山紫水明の自然の風物に調和し。之を民族の心情に訴へれば、清酒高雅にして繊細優美を尙ぶの精神が、遺憾なく其の衣服に表現されてゐるものと見なければならぬ。かの婦人服中の裾模様と下前模様とか表無地裏裾吹模様とか、何れも表面よりは見えざる部分に藝術的意匠を凝らす如き、或は羽織は

裏地に縞珍の如き精巧なる織物を用ひるが如きは、我が國民が隱徳を重んじて、爲せる善行は唯自己の本分を盡せるもので、敢て他人に廣言し世間に知らるゝを目的とせざる本意が、かく衣服の模様の分布様式として知らず識らず表現されたことは、こゝに無限の意義を發見し得るのである。遮莫忠孝一本にして二つなき義烈の精神が、身に一點の曇りだになくして、夏猶寒き三尺の秋水によつて表徴され、武士の魂として貴び來つたが如きも、國民性の神隨を衣服附屬品を以て表現した一形式に外ならぬのである。

衣服を國民精神の表現だと見る時、一國の國民が思想感情の上に於て統一せる場合は、常に統一せる國民服を有すべき筈である。然るに、交通の發達や其の他の事情によつて、一國の國民が人種の上に於ても、將又思想感情の上に於ても、次第に混合して其の統一性を減するに至れば、其の國民の衣服も亦次第に統一性を減するに至るではなからうか。之を我が國の現状に就て見れば、衣服は和洋混合の状態を呈してゐるが、こは外來文化の侵入が然らしめた現象であらう、依つて之を統一するには先づ外來文化の日本化が必要であつて、こは即ち昭和の大御代に於ける我等國民の一大任務であると思ふ。

第二節 衣服の變遷と流行

〔一〕衣服の變遷 前節に於て、現時の男女服は中古以前の作業服と禮服とが、文化發達の環境的事情に支配され、幾多の變遷を経て男子と女子とに専用されたものであることを述べた。今之を我が國の服飾だけに就て見ても、種々の變遷がある。其の變遷發達を研究すれば幾多の史的考察を下し得るであらうが、京都の風俗研究所長江馬務氏は之を左の六期に分割してゐる。

- 第一期 固有服飾時代 神代より神功皇后御征韓までの時代。
 - 第二期 韓風輸入時代 神功皇后御征韓より推古朝までの時代。
 - 第三期 唐風模倣時代 推古朝より平安朝初期までの時代。
 - 第四期 國風發達時代 平安朝初期より應仁亂までの時代。
 - 第五期 國風全盛時代 應仁亂より徳川幕末までの時代。
 - 第六期 和洋混淆時代 徳川幕末より現代までの時代。
- 而してこれらの服飾によつて、男女・年齢・職業・階級・貧富・境遇・場合（儀式・平常・外出・入

湯・雨天等）・趣味等を表現したものであつたが、之を仔細に攻究すれば、（一）公家・武家・民間・社人・僧侶の五大系統があると述べてゐる。

斯くの如く約三〇〇〇年の歴史の間に於ても格段なる六期の變遷があり、又各期間に於ても亦徐々に幾多の變遷を踏んで次期に入つたものであるから、衣服の變遷は頗る複雑なるものなることが知られる。

衣服の變遷は獨り形狀だけでなく、地質・柄合・配色の上に於ても亦絶えず行はれる。即ち衣服の効用を絶対に満足せんがために、安易・適合・美麗の三要素を充實せんとして、地質・柄合・配色のより良きものを得べく、地質に於ては纖維に關して麻・木綿・絹・毛・人絹等の織物を成織し、組織に關して平織・綾織・縹子織・變化織・搦織・バイル紋織・織・多層織等を工夫し、柄合に於ては縞柄・緋・模様に關し、其の様式・分布に千變萬化の創作を見せ、配色に於て一次色の配合から、二次三次の複雑限り無き高次色の配合を案出して、今に猶停止する所なく、又停止せざるのは服飾文化發展の本質でもあらう。

〔二〕流行の意義 流行はファッションであつて、時流に適合して移り變つて行くのは流行の形式ではあるが、吾人の知らんとするものは形式にあらずして、形式の依て起れる根本的動機

である。

曾て雑誌『眞美』誌上に八木精一氏が、流行の性質と社會生活の傾向とを相對的に考察して、『流行は一時的社會現象であり、流行は皮相的のものであり、流行は社會の凡ての方面に表はれる』とし、更に文化と流行に就て述べ、『私は近來の文化運動が流行を排するものなることを概括的に考へた。そこで此兩者の關係を考へると、社會生活に於て互に反比例的影響を與ふる性質を有することを考へ得る。即ち前者は生活の藝術化であるが故に、其れ自身は既に人格的合致を目的とするものなるに反し、後者は主我の表現を通るに過ぎない没主我的のものであるから、一定範圍の社會生活に於て、かくの如き二元的存在があるとすれば、兩者互に抗擯狀態を呈するものであらう』との意味が叙説してある。

吾人は、文化を生活の藝術化であるとは思はぬ、何となれば文化は向上的・歴史的・個性的・家庭的・社會的・國家的特性を有し、理想的には眞善美聖の價值を求め、現實的には健富強の價值を求めて、之を融合統一して全人生活を満足せんとするものである、然るに藝術は之等の文化價值中の美を追求するに止まるからである。然しながら、人格的合致を目的とするものとの所論に對しては、何等の異議をも挿むものではない。何となれば、價值の統一的満足は、デイ

ルタイ氏の所謂全人生活の創造だからである。蓋デイルタイ氏は全人生活を以て知情意の統一生活と説いたが、著者は之を價値的に見た相違あるに過ぎぬことを述べれば、明らかにして且充分であると思ふ。

更に又流行には、前説の如くに没主我的要素を含むことは明らかであるが、一步進んだ生活の眞義に觸れた文化要素が無いものであらうか。若しこれありとすれば、吾人はこゝに流行と文化との融合性を發見することが出来る。この考察を進めんがため、便宜上よりこの要素を内部的と外部的とに分けることにしたい。

〔三〕流行の内部的要素 吾人は流行の變遷を、單に虚榮心に基づく好奇や模倣の出來心であるとして、精巧なる新意匠の生地・柄合や、繊細優雅なる模様・配色をも、全く無用の長物として之を排斥することには、妄りに賛同することは出来ない。何となれば、流行の意義を内部的に考察すれば、虚榮心の満足といふが如き浮薄なる要素以外に、かの着衣の起源に關する進化論に於ても述べたやうに、人類以外の一般生物が身體被覆の絶體満足のために具備する、安易・適合・美麗の三條件を充實して、眞善美の價值生活を實現せんがため、創作し工夫し誘導されつゝ、變遷し行くのが、流行の要素であることを閑却すべきでない。

不便にして不適合な、而して不美な衣服を着て、絶えず不満の念に驅られながら、自己の身體に適合した、着易く着心地よく、而して美麗にして着崩れせぬ所の、且又時代の變遷と共に絶えず發達する自己精神の表現に適せる衣服を得ようとして、有らゆる困難と戦ひつゝ、吾人の衣服は地質・形状・柄合・配色等を變化して行くものである。

流行の變遷する方向に就ていへば、昔時の生活形式は主として室内的であつた、從て衣服の形状・柄合・配色等は靜的條件に於て充實されようとして、地質も柄合もますます繊細精緻を極むるに至つたのであつたが、近代に至るに従ひ、生活競争の劇甚は、吾人の生活を驅つて室内より室外へと發展せしむるの餘儀なきに至らしめた。特にこの傾向は、婦人の生活に於て男子よりも一層甚だしきを感じしめる。これと同時に、衣服の地質・形状或は柄合・配色は、靜的條件を離れて次第に動的方向に移りつゝあることは、見逃すべからざる事實である。之を形態に就ていへば輕快に、之を模様就ていへば大柄に、之を配色に就ていへば空間識が高くなつた如きは即ちそれである。かの衣服の着附に行はれた這裾が、室内的靜的考案に出でしものであつたが、室外的動的生活の現代に於ては次第にすたれ、着丈の裾となつた代りに帶の位置を高くして、其の上下兩半の長さの比に這裾と同様の調和を求めようとしたが如き、亦衣服の時代に

に伴ふ室外的動的發展を證明するものである。

さて流行の要素を、かくの如く内部的に解するならば、文化の發達に適應して、價值目的的實現達成を目指す活動の一形式であるとすべきだから、流行の創作は人類進化の深奥なる運動に觸れてゐるといふべきである。

〔四〕流行の外部的要素 流行の變遷は、一般民衆の思想感情に依ても亦支配される。而して思想感情の一般民衆に共通なるものは、之を群衆心理とか時代精神とか稱すべきものであるから、衣服の流行は時代精神によつても支配されるといひ得る。

蓋衣服の流行は、前項に於て述べたやうに、時代と共に發達する自己精神の表現であるとするれば、その精神の一般民衆に共通なる點を採つた時、こゝに吾人は時代精神を認め得ると同時に、これに伴ふ時代的流行の存在をも亦是認しなければならぬ。

かの我が國に於て、過年國運を賭して戦つた日露戦争後、色彩強烈なるマルホーフ式の衣服模様が、全國に流布せしが如き、或は前年關東の大震災後、世は舉つて暗色調の色彩よりなる衣服を用ひたるが如きは、いづれも時代精神が流行を支配せる顯著なる例證である。

流行の外部的要素として更に考ふべきことは、商略上から來れる流行の宣傳である。此の場

合に於て、多くは流行の研究によつて模様・色彩を察知し、之を創作販賣宣傳するものであるが、この研究が眞摯にして時代精神を正しく把握する時に、この流行は前者と一致するが、若し單に眼先の變れる物を創作して、消費者の好奇心をそゝると同時に、營業上の利益を目標とせる物であつた時、この流行は其の本義を離れて墮落する。

近年に於ける人類文化の發達に伴ふ自我の發見は、衣服の流行に對して次第に外部的要素を離れ、専ら内部的要素を重要視するに至れる傾向は、實に喜ぶべき現象である。家事教授は益々この機運を助成促進すると同時に、獨り個人精神の表現に成る流行を指導するに止まらず、國民精神の表現に適せる流行の指導に寄與して、其の本義を全うすべきである。

第三節 和服洋服の二重生活

(一) 我が國の服飾の現状 現代に於ける我が國の民間に行はれてゐる服飾は、和服・洋服・朝鮮服・支那服を始めとして頗る雜然たるものであるが、其の代表的服飾は和服と洋服とであつて、之が多くの場合に於て重用されてゐる。こゝに重用と稱したのは、平常着・訪問着・禮裝等に於て和服と洋服との二通りを用ひることで、世に之を衣服の二重生活と稱してゐる。

元來二重生活とは二重人格による生活で、二重人格は之を心理的に見れば、經驗的意識群を唯一無二の自我によつて統一するのではなく、二つの異なる原理によつて二團の相異なる統一を形成せるものといへるのである。従て甲の統一團に成る人格が「黒」と斷言する場合に、乙の統一團に成る人格は「白」と宣言する場合があるべきである。世の所謂二枚舌なるものは、この二重人格によつて醸成された失言だと思ふ。

禮服には和服を可とすと斷定すると同時に、禮服には洋服を可とすと結論し、活動服には洋服は便利であると斷定すると同時に、活動服には和服を便利とすると結論して、各この兩種の服飾を其の日其の時の氣持次第に出鱈目に用ひる人があつたとしたら、そは服飾に關して何等の主義なき無定見なる二重生活であると云はねばならぬ。

現在に於ける我が國の服飾は、公式に於ては法文によつて統一されてゐるから問題で無いが、民間に於けるものは實に二重生活の混亂状態である。さればとて強ひて其の一種を使用せんか、制服の定めなき吏員・教師や、さては社員・行員など、羽織袴での出勤を續けたならば、恐らくはだらしなない輩として免職の憂目に遇ふであらう、さりとて洋服で疊敷の和室に端座することも、不便不利にして窮窟極まる生活であらう。噫この和洋服の二重生活問題こそ、吾人を

して『西は追分東は關所』の嘆を深からしめる。

吾人は、この服飾の過渡期に處して、二重生活を如何に調和し行くべきかの問題を解決するに先立ち、和服と洋服との長所と短所とにつきて研究することが必要だと思ふ。

(二) 和服洋服の長所短所 和服と洋服とにつき長所と短所とを比較せんとするには、同種の服装についてなさねばならない。和服の禮装と洋服の作業服とを對比して、孰れか活動に便なるかを論じて、何等得る所があるべき筈ではないからである。依てこゝでは兩種ともに日常服に就て比較すること、し、著者が曾て衛生・動作・禮容・裝飾・經濟・着附等の各方面より研究した一部を、左に抄録して論旨を進める資料とする。

(一) 衛生上の長所短所

- (1) 和服は寛濶にして夏は涼しくあるが、洋服は之に反する。
- (2) 和服は上下兩半身の保温が均等でなく、重着すること多きため重きに過ぎ、着崩れを防ぐため帯紐の局所的壓迫多く、地質形狀等の關係から保温通氣に過不足があるが、洋服は之に反する。

(二) 動作上の長所短所

- (1) 和服は優美にして靜的趣味に長じ、洋服は輕快にして動的趣味に長ずる。
- (2) 和服は長袖・廣帯・開裾・着附等の關係により動作に不便であるが、洋服は之に反する。よしや和服にして褌掛け作業服を着けるといへども、洋服の上着を脱ぎ作業服を着けたるの敵では無い。

(三) 禮容上の長所短所

- (1) 和服は閑雅艷麗に於て優るが、洋服はこの要素に於て劣る。
- (2) 和服は多少誇張的不自然であるが、洋服は自然的形態を備へてゐる。

(四) 裝飾上の長所短所

- (1) 和服は清楚の美・纖細の美・幽玄の美に於て遙に洋服に傑出してゐる。
- (2) 和服は地質・柄合及び配色の變化急激にして、之を追へば奔命に疲るゝが、洋服は比較的この缺點は少ない。これと和服は地質・柄合及び配色を生命とし、洋服は寧ろ形狀を生命としてゐるからで、和服から短所なりとしてこの變化を去れば其の生命を失ふこと、恰も洋服から型の變化を奪ひ去ると同様である。

(五) 經濟上の長所短所

(1) 和服は裁方に於て布片に多く剪刀を入れずして、比較的布片の形が上下左右均等であるため、仕立換裏返或は服種變更の可能性が大であり、且腰上肩を施して身長の変化に適應せしめ易い。然し洋服にはこの可能性が殆ど無い。

(2) 和服は地質・染色が不堅牢で、部分切れ褪色脱色等をなし易いが、洋服にはこの缺點が少ない。

(3) 和服の地質は着尺物一反買であるため、體格によつて多少の切落しを生ずるが、洋服は廣幅長尺物の切買であるためこの缺點が無い。

(六) 着附上の長所短所

(1) 和服は着る人の體格の如何に拘はらず、都合よく着付けさせ、且體格上の缺點を巧に調節隱蔽し得るが、洋服はこの長所を缺く。

(2) 和服は着附に多くの手數と勞力・時間を要するが、洋服の着附は和服よりは簡單である。

(3) 和服は着衣の結果は壓迫が多くして窮屈であり、且動作によつて着崩れを招き易いが、洋服にはこの缺點が無い。

(三) 和服洋服の單用と併用

和服と洋服との長所と短所とを通覽すれば、和服は靜的長所を

有して休養服に適し、洋服は動的長所を有して活動服に適するものとする事が出来る。

衣服は其の其長所のみを觀て用法を決定するのは、必要なる條件の一部を吟味せるのみで、未だ必要なる條件の全部を盡したものとひ得ない。何となれば、衣服は他面に於て住宅との密接なる關係があるからである。依て必要にして且充分なる條件を盡すために、住宅との關係を講究せねばならぬ。

さて、和服は座式生活の家屋でなければ使用上不適當であり、洋服は椅子式生活の家屋でなければ使用上不適當である、換言すれば座式和風生活には和服が適當であり、椅子式洋風生活には洋服が適當である。何となれば、和服は開放式で特に下半身の被覆が兩脚同時の圓筒形に成つてゐるため、氣流によつて過度に體温が脱取される。従つて夏は涼しいが冬は起立又は椅子式の姿勢に於ては、冷寒殆ど耐へ難く、特に下半身に於て然りであるが、座式の姿勢に於ては折疊むことによつて完全に之を被覆するから、叙上の缺點がない。之を以て見れば、和服は座式衣服として靜的生活に適すべく考案され、且發達し進化し來れるが如く思はれる。かの明治以前に於ける我が國民は、私的生活は勿論、公的生活に於ても亦總て座式であつたことは、この考察を證明するものといふべきである。

世には椅子式生活を禮讚して、和風木造紙障子疊敷の家屋にテーブル椅子を持込んで、而かも和服生活を爲し居る人がある。この種の生活は、夏は兎も角も冬は氣温が低く且湿度は甚だしく低いから、寒さ骨を刺すが如き我が國では到底凌ぐべくも無いであらう。而かも暖房装置を設けても、天井や建具に隙間が多く、紙障子を通しての擴散が多くして、室内全體を所要の温度に暖むることが出來ず、而かも燃料は甚だしく不經濟となる。故に椅子式洋服生活は、洋風建築の家屋に於て其の價値を十分に表はすことが出來、座式和服生活は、和風建築の家庭に於て其の價値を十分に表はすことが出來る。従つて椅子式生活に和服を用ひることも、座式生活に洋服を用ひることも、共に衣服様式と住宅様式との矛盾だといはねばならぬ。

然るに、現今の公的職業生活の建築物を見るに、官衙學校會社銀行工場等悉く洋風建築の椅子式であり、私的家庭生活の建築物を見れば、其の殆ど總ては從來の木造和風建築の座式である。之を以て、公的生活の活動服として洋服を用ひ、私的生活の休養服として和服を用ひることは、獨り和服洋服の長所に適合するだけでなく、住宅様式にも適合する所の合理的使用法であるといふべきである。依て吾人は、和服洋服の用法に關し、現今の過渡期に際して次の二斷案に達する。

(一)和服は休養服としてののみ用ひる。和服は寛濶優雅にして靜的休養に適することは、全世界に認められてゐる所の公知の事實である。

(二)洋服は活動服としてののみ用ひる。洋服は輕快にして動的活動に適することは、今更いふまでもなき事實にして、既に現今の我が國に於ては、殆ど公的活動服として使用されてゐる。

前に既に述べたやうに、二重生活は二重人格の生活である、活動するにも休養するにも和服でもよい洋服でもよいといふことになるのであるが、こゝに吾人の到着せる結論は、生活を活動と休養の二つの部面に區別して觀察し、前者に洋服を後者に和服を使用するといふのであつて、活動にも和服洋服の二種を用ひ、休養にも亦同様に二種を用ひるといふのではない。即ち一日中の生活の部面に應じて和服洋服を、適所適在の原理による使ひ分けをすること、恰も和服に普通服と勞働服とかあるのを、休養時に普通服を用ひ活動時に勞働服を用ひると同様である。故に吾人の見解は、和服と洋服の併用ではあるが重用ではない、従つて世の所謂二重生活にあらざることを釋明して、この過渡期に於ける衣服の煩瑣を緩和せんとするものである。

曾て淺野中子氏が雑誌『被服』誌上に、衣裳夜話と題して載せられた一文中に、和服洋服の問題に關して次の如き意味が述べた一項がある。『私は二重生活どころか、この上に支那服もよ

ろしい、(中略)他國の服の面白い所は思ふ存分吸収して二重三重の服装生活を奨励したいのである。(中略)経済的の過渡期にあつて、國民生活に必要な品物の生産力を作り出すために計畫經濟を建て上げて、(中略)國民の消費する織物の種類を統一し、誰も彼も同じ様な生地を着物を着る國なら別ですが、經濟事情も異なり社會生活の目的も内容も異なる我が國では、決して服装を灰色一色に塗り潰す必要はありません。文化の内容は豊富を以て一つの重要な要件としなければならぬのです、この事は社會經濟の原理上からも認められねばならぬ事であると思ひます。同じ五〇圓の金で着物を作るとしても、二種類の洋服を作るよりも、和服一種類と洋服一種類との二通りにする方が、買ふ者の心理的な幸福は大きい。(中略)消費經濟の原則は、支出する一圓一圓が一番大きな満足を持ち來す様に、消費の方向を選択する所にあるのです。消費對象物の種類が豊富になればなる程、消費經濟の合理化は高度に實現され得る事になるのであります。(中略)

國民の經濟活動・生産活動の目的は言ふまでも無く消費にあります、消費の目的は消費者の満足を得るにあります。消費者の満足を低下さす様な消費の選擇が、どうして消費の合理化なのか、私には合點が行きませぬ。和服の傳統、その傳統から初めて私達に許されて居る和服の風趣と感觸、これを楽しみながら他方に新鮮な活動的な服装の明るさを味ひ得る事は、(中略)服装による國民の消費満足は満點であります。

東洋と西洋との總てのものを自由な選擇の列に加へ得る我が國民は、何と選ばれてあるではありませんか。同じ一圓の食事をするのに、和食に限れとか洋食許りにせよとか言ふ人があるでせうか。和食のときもあれば洋食のときもある、支那食のときもあるからして、一圓の金に時に應じて使ひ分ける所に消費者の満足が大きくなるのです。それはやがて國民全體の經濟的効果が高まり、經濟文化の内容の豊富を意味し、國民の使つた生産原價が、最後の消費に來て最も有効に用ひられた事になるのです。服装や住宅に就て許り、二重生活の排斥されるのは、通らぬ理窟と言はねばなりません。(下略)』

右の所説中の二重生活の意義は、著者の所謂二重人格の生活であるか否か、従つて又和服洋服の重用なるか將又併用なるかは判明せざるも、消費經濟の原理上から消費の進歩を圖るためには、互に融通されべき消費財貨の種類が多きに從ひ、慾望満足の効果總量の増大することは、消費經濟學上是認されてある學説である。

蓋消費の進歩とは、吾人が生活の慾望を満足せんとする所以のものは、消費によつて獨り生

命と健康を維持するのみでなく、更に進んで身體上及び精神上の向上發展を遂げんが爲めである。従つて吾人は財貨を最も良く利用して、この目的を達するに足るべき、正常なる慾望の最大満足を得ることをいふのである。然して、これを達成するには、次の三項に注意しなければならぬ。

- (一) 慾望の合理化 不正當なる慾望を節制することである。
- (二) 適當なる財貨の選擇 このために必要なる條件は、次の五つである。
 - (1) 共同的消費 消費行爲を各家庭が成るべく共同して行ふ。
 - (2) 調和的消費 衣食住慰安等の各種の慾望を、偏僻せず満足させる。
 - (3) 融通的消費 消費財貨に變化あらしめ、融通力ある財貨を、廣き範圍に於て選擇する。
 - (4) 價格低廉の消費 財貨の實質効力に比し、市價の低廉なる物を消費する。
 - (5) 規格の統一 財貨は其の規格を最も便利にして普通なるものに一定する。
- (三) 財貨の適當なる使用 財貨使用に關する理論的知識と實際的技術とを以て、財貨消費上の節約と利用とをなす。

右の内融通的消費に關して再言すれば、財貨の消費は限界價值漸減の法則に支配されるから、

財貨の消費種類が多きに従つて慾望満足の價值總量は益大となるべきである。蓋限界價值漸減の法則とは、同種の財貨は連續消費量の増すに従ひ次第に限界價值を減することを指すもので、渴して飲む水は一杯目は二杯目よりも、二杯目は三杯目よりも、渴を醫する價值が大である、この連續消費の最後の一單位が表はす財貨價值を限界價值といふ。然る時は、連續消費量が増すに従ひ限界價值が減する譯である。

限界價值の漸減を防ぐには、日常の財貨消費に方り融通力を養ひ置き、其の消費財貨に變化あらしめ、且成るべく融通力ある財貨を、廣き生産範圍に於て選擇するのである。

この見地から衣服を眺むれば、活動服にも和服洋服の二種を用ひ、休養暇にも亦和服洋服の二種を用ひれば、何れか一種のみを用ひる場合に比し、限界價值を大にすることが出来るが如く思はれる。然しながら吾人の衣服生活は、衣服その物の長所を善用すると同時に、經濟事情をも顧慮すべきは全人生活の當然とする所であるから、これ等を考慮に入れたる最後の結論として、過渡期に於ける衣服は、公的活動服として洋服を用ひ、私的休養服として和服を用ひることとし、以て衣服の長所、住宅との相關問題、限界價值増大法等の立場に於て、本問題を解決し得ると思ふ。

〔四〕現代の服制統一論の概観 以上述べ来たつた和服洋服併用論は、國民全體についての日常用服装に關するもので、公的生活の活動服としては洋服を適當とし、私的生活の休養服としては和服を適當とするが、其の洋服なり和服なりの型は何れを以て適當とするかの問題に就ては、兩者共に普通型のものたるべしとの一言にて盡きる。例へば、男子服ならば洋服にては背廣服を用ひ、和服ならば長袖の長裾製であるが如きである。世の生活改善論者中には、和服改善案を立て、袖を筒袖形にし、襟下を釦止めかホック止めにして閉ぢよとか、廣帯を廢してバンド形にせよとか、種々の改良服を立案する人もあるが。一國々民の國民服は、其の國の歴史によつて造り上げられたもので、我が國民服ならば建國三〇〇〇年の歴史を含蓄してゐる、この歴史を度外視しては何等の意味をも有するものでなく、従つて今後の改善も物質的環境と精神的文化との發達による國民生活の歴史の手によつて行はるべきで、一改良論者の机上のデザエンによつて變化されべきものでない。これ、洋服和服の採用すべき型を以て、普通型となせる所以である。

別に軍隊・學生・青年團といふが如き團體生活群のためには、それぞれに制服なるものがある。軍服に關しては國法によつて定まれる制服があるから本書に於て研究するの必要はないが、學生服・青年團服に關しては研究の餘地がある。特に中學生制服に關しては、先きに府縣内に於て統一の必要があるとして、甲中學から乙中學に家庭の事情等によつて轉學せし場合に、現今の如く各中學毎に制服を異にするに於ては、通學服全部を新調しなければならぬ經濟的不利がある。依て之を統一し、各校相互の區別は帽子の徽章又は襟章を以てすべしといふのであつた。更に一步を進め、府縣相互間に於て全國的統一を圖るべきだとの論者もある。山田善三氏の『服制統一の教育的價值觀』の如きは即ち其の一である。今其の論旨の大要を左に抄録する。

(一)服制の發達と制服 男子中等學校に於ける正服の制定は何時に始まつたかは明らかでないが、洋服の採用されたのは可なり古い事で、現今全國に於て恐らくは洋服を用ひぬ男子中等學校が無いであらう。而して一校内の色も型も同一の制服制帽を以て、校風を象徴し歴史を誇つてゐる學校も尠くない。即ち學校を一單位とする服制は、男子の中等學校に於て極めて徹底してゐるのみでなく、女學校に於ても僅々十數年間に、殆ど全國的に洋服制服化が行渡つてゐる。私は、時代の推移、郷土觀察の擴充、服装の普汎性、大量生産的規格統一、國家經濟の建前等から、全國的學生服の統一、尠くとも一府縣を一單位とする服制統一を提唱して、其の教

育的價値を宣揚せんとする。

(二)服制と規律 多人數の集團に對しては規律的訓練の必要性は多分に増加した、この場合服装の如く普汎性を有するものを、出来るだけ單一化し、規律統制を保つことが、全體を統制するに便利であり能率的効果的である。然るに近時學校生徒の集團的行動の多くなつたことは昔日の比でなく、一府縣の聯合演習、關東・東北・關西・中國・九州等の大部隊の集合等に向つて進みつつある場合に於て、一層必要性を痛感する。

更に形の統制は意の統制であり、國民精神を象徴するものは國民服であり、學生魂を表現するものは學生服である。而して教育の大本は教育勅語の御聖旨であり、この御聖旨の徳目は縦に三千年の歴史を貫き横に九千萬の國民の魂を結合してゐる、この唯一の精神によつて教養された學生が、一つの色と型との服装をすることは當然の歸結ともいへる。

(三)個性伸展・趣味養成と服装統一 服装は個性の表はれであるから、學校が服装を統一することは、個性を没却し學校教育を無味乾燥ならしめるといふ非難がある。しかし、結極は制服は學校の意示で、それに生徒の意志を結合して學校精神の表現となるのである。而して一府縣を統一するのも、全國を統一するのも五十歩百歩で、各校各府縣の小異を捨て、大なる統一

をなすことによつて、より大なる教育的價値を生じ得るならば、須らく小なる特異性を捨て大なる國民教育精神の表現に着くべきである。

(四)服装統一は國防の經濟である 現今國際關係は非常に複雑を極めてゐるが、將來益々錯綜を招き、一國對一國の戰爭も直に全世界人の關與となり、經濟封鎖等の壓迫も豫想せねばならぬ。この場合、何を置いても物質的には兵器・食糧・被服の三つは第一線上に無ければならぬ。然るに兵器は國家の統制下に遺憾なき完成が圖られて居り、食糧は糧秣廠と糧友會との結合によつて國家の援助も企圖されてゐるが、被服問題は重要事項として大なる考慮を要する。蓋平時に於て何百萬人の被服を準備し保存することは不可能事であるから、戰時の必要に應じ、國內の資源と生産機關とを利用し得る準備ありとすれば、獨り軍需に有利なるのみでなく産業の勃興を促し自給自足を圖ることも可能である。

このためには、國民全部の理解の上に立ち、軍需被服に代用し得る被服を用ひる觀念を醸成することが第一歩である。就中中學生の如く、専ら實用を主とした服装に於ては、この企圖の實現が比較的容易であるから、先んじてこの根幹を作つて貰ひたいことを切言する。

(五)國防は國民の國防である 立憲議會政治下に於て外交が國民外交の實を擧ぐるに至つた

今日、國防も亦國民皆兵の實を擧げて國民國防であらねばならぬ。獨り戦争のみならず、國防自立上必要なる工業に向つても敢然として全力を拂ひ、以て國民國防の完成に進まねばならぬ。

(六)國防服統一は國民精神陶冶の徹底的體驗である。統一服を用ひることは國防に貢献することであり、國防に貢献することは軍備の經濟化であり、軍備の經濟化は國民負擔の軽減であつて、國民生活を強固にし富國の實を擧ぐる源ともなり、この國家的意義を自覺せしむることが國民精神の涵養ともなる。即ち國防服の着用を通じて、念々切々國家觀念を喚起し國民精神を高調し、奉公犠牲の尊さを痛切に味はしめ、正義と勇氣とによる實行體驗によつて、義勇奉公の念慮を心膽に銘せしむることは、教育的効果の偉大なるものであると信するのである。

第四節 衣服の經濟

(一)衣服費の概観 家庭生活を經濟上より見れば、安定と向上との二條件の満足が必要である。安定とは毎日の生活が安らかに且水平に持續され、何等經濟上の危険無きことを意味する。詳言すれば、生活上必要なる衣食住等の慾望を満足して、生命と健康とを保持するに缺くべからざる財貨の種類と分量とが求め得られるならば、生命が安定して水平線上を進んで行く譯である。

ある。

經濟學者ロッシヤ氏は、慾望満足に必要な生活費を、第一に絶対生活費、第二に社會生活費、第三に文化生活費に分けてゐる。絶対生活費と稱したのは、人間としての生命を保ち健康を續け行く上に必要なる最小限度の費用で、之を食物に就ていへば、一日二四五〇疋カロリーに相當する食量を取らねばならぬが如きである。社會生活費と稱したのは、社會の公人として生活する以上、必要にして缺くべからざる教育費・課稅費・交際費の如きを意味したものである。又文化生活費と稱したのは、文化人として望ましき所の費用にして、一家の慰安行樂に要する費用、博愛慈善に要する費用等を意味したものである。

然るに家庭生活が、僅に絶対生活費だけを支出し得るに止まるならば、其の生活は安定ではあるが向上が無いことになる。換言すれば、生活を水平線上には支へ得るが、上昇線上を進むことが出来ない。然るに吾人の生活は、昨日よりは今日、今年よりは來年と、次第に良き生活を創造して向上發展の途を辿ることを希望してゐる。そのためには、絶対生活費以外の社會生活費・文化生活費をば、幾分なりとも支出し得るやう、家事經濟を運用しなければならぬのである。

この目的を達するには、一方に於て家庭の収入増加を圖ると同時に、他方に於て支出の進歩を圖らねばならない。今假に前會計期は収入一〇〇圓にして支出も亦一〇〇圓であつたとし、本會計期も亦同様であるとすれば、生活の安定は圖り得ても向上を求むることは出来ぬ。従つて何等かの方法によつて収入の増加を圖るべきである、このためには財産収入に關しては有利なる運用法を研究實行し、勤勞收入に關しては勤勞尊重の精神を發揮し、家事整理の餘力を以て収入活動に努力することである。

支出の進歩とは、社會生活費・文化生活費のために支出を増し、以て生活の内容充實を圖るが如きである。この爲には支出費は増加するが、其の増加の割合を収入増加の割合よりも幾分か少なくし、収入剩餘を以て財産を建設し、以て財産収入増加の源となすのである。例へば前述の例に於て、収入が三〇%増加して一三〇圓になつたとした時、支出を二〇%増加して一二〇圓として社會生活費・文化生活費を支出して生活の向上を圖り、残り一〇%即ち一〇圓を貯蓄に向けて財産を建設するが如きである。

さて、収入増加率よりも支出増加率を少なくして、而かも生活の向上發展を圖るには、支出額の少ない割合に消費効果を大ならしめることが必要である、然るに家事費各科目中、食物費

に次で支出額の大きなものは衣服費であることは周知の事實である。最近藤懸實枝子氏が衣服新調費を、相當の社會的地位にある人につき調査された結果の『被服』誌上の發表によると、左の通りである。

男子 (主人用)				同 上			
種服	名 稱	量數	年使用	種服	名 稱	量數	年使用
禮 服	燕尾服	一	一五	禮 服	冬着物	一	二〇
	フロックコート	一	一〇		同羽織	二	一〇
	タキシード	一	一〇		夏着物	一	一〇
小 計		三		小 計		六	
			費用				費用
			一四〇,〇〇				七三,〇〇
			九三,〇〇				三,四五
			一年當				一年當
			三三,〇〇				八,〇〇
			一月當				二,〇六
			〇,七〇				〇,二六
外 出	冬背廣	一	二	外 出	冬着物	二	五
	夏背廣	一	二		羽織	三	五
			費用				費用
			一一五,〇〇				一七五,〇〇
			五五,〇〇				三五,〇〇
			一年當				一年當
			三三,〇〇				三三,〇〇
			一月當				一月當
			四,七五				二,九一
			四,五八				〇,九一

種服	名	稱	量數	年使用	費用	一年當	一月當	品																	
								傘	スカラー	カフ	春手袋	冬手袋	禮服用手袋	靴下	ズボン	ゴムシュー	出外常用靴	外禮服用靴	外禮服用靴	バンド	平常用襟巻				
女子	洋服	主婦用	一〇六	七〇	一六六、四〇	九七九、五四	八、四七	一、六六	五、〇〇	九四、〇〇	六、〇〇	九、〇〇	七、〇〇	二、〇〇	二四、〇〇	一八、二〇	一、〇〇	一、〇〇	五、〇〇	二、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	六、〇〇	二、〇〇
女子	和服	同上	九四	三七	一一〇、八〇	二〇八、六六	一七、三九	一、五〇	一、五〇	一〇、〇〇	八、〇〇	二、〇〇	〇、七五	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
女子	洋服	同上	九四	三七	一一〇、八〇	二〇八、六六	一七、三九	一、五〇	一、五〇	一〇、〇〇	八、〇〇	二、〇〇	〇、七五	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
女子	和服	同上	九四	三七	一一〇、八〇	二〇八、六六	一七、三九	一、五〇	一、五〇	一〇、〇〇	八、〇〇	二、〇〇	〇、七五	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇

種服	名	稱	量數	年使用	費用	一年當	一月當	品																	
								冬吉事禮服	同凶事禮服	夏吉事禮服	同凶事禮服	冬訪問服	夏訪問服	羽織	同	冬吉事禮服	同凶事禮服	夏吉事禮服	同凶事禮服	冬吉事禮服	同凶事禮服	夏吉事禮服	同凶事禮服	冬吉事禮服	同凶事禮服
女子	洋服	主婦用	一〇六	七〇	一六六、四〇	九七九、五四	八、四七	一、六六	五、〇〇	九四、〇〇	六、〇〇	九、〇〇	七、〇〇	二、〇〇	二四、〇〇	一八、二〇	一、〇〇	一、〇〇	五、〇〇	二、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	六、〇〇	二、〇〇
女子	和服	同上	九四	三七	一一〇、八〇	二〇八、六六	一七、三九	一、五〇	一、五〇	一〇、〇〇	八、〇〇	二、〇〇	〇、七五	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
女子	洋服	同上	九四	三七	一一〇、八〇	二〇八、六六	一七、三九	一、五〇	一、五〇	一〇、〇〇	八、〇〇	二、〇〇	〇、七五	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
女子	和服	同上	九四	三七	一一〇、八〇	二〇八、六六	一七、三九	一、五〇	一、五〇	一〇、〇〇	八、〇〇	二、〇〇	〇、七五	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇

小計	被外				小計	服常平				小計	夏羽織	
	雨外套	平常用	春外出用	冬外出用		禮服用	寝衣	同	バスロープ			スエター
八	一	三	二	一		三	二	一	一	五		
	三	三	三	三		一	三	一〇	三	三		
一五三、〇〇	二五、〇〇	一一七、〇〇	二〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	二五七、〇〇	一五、〇〇	四、〇〇	一八、〇〇	一三、〇〇	一八七、〇〇		二三九、〇〇
五一四、三三	八、三三	五九、〇〇	三六、六六	四三、三三	八四、七九	一五、〇〇	一、三三	一、〇〇	四、三三	六、三三		一一九、六六
一九、八九	〇、六九	四、九一	三、〇五	三、六〇	七、〇六	一、二五	〇、一一	〇、三三	〇、三六	五、一九		九、九五
小計	被外				小計	服常平				小計	夏羽織	
	雨コート	同	半コート	長コート		寝衣	羽織	同	同			夏着物
四	一	一	一	一		三	二	一	一〇	二	三	
	一〇	七	一〇	一〇		三	三	五	三	七	三	
一四〇、〇〇	二五、〇〇	二五、〇〇	四〇、〇〇	五〇、〇〇	一三九、〇〇	古物を轉用す	二六、〇〇	一五、〇〇	三〇、〇〇	二〇、〇〇	四八、〇〇	五二七、〇〇
五五、五八	二、五〇	三、五七	四、〇〇	五、〇〇	四〇、五一	八、六六	三、〇〇	一〇、〇〇	二、八五	一六、〇〇	六三、六〇	五三、〇〇
四、六二	〇、二〇	〇、二九	〇、三三	〇、四一	三、五九	〇、七二	〇、二五	〇、八三	〇、三三	一、三三	六、二七	〇、四二

小計	着				下				小計	冬禮服用		
	ズロープ	コイデユル	ベテコー	同夏	同冬	禮服用下着	平常用	外出用			禮服用	
二四	二	三	一	三	三	二	三	五	二			
	二	一	三	一	一	二	三	二	三			
一八七、〇〇	一〇、〇〇	四五、〇〇	五、六六	二二、九〇	一五、九〇	二〇、〇〇	一〇、五〇	四〇、〇〇	二八、〇〇			
一四〇、七九	五、〇〇	四五、〇〇	一、六六	二二、九〇	一五、九〇	一〇、〇〇	二、〇〇	一〇、〇〇	九、三三			
一一、六九	〇、四一	三、七五	〇、三三	一、〇七	一、三三	〇、八三	一、七五	一、六六	〇、七七			
同冬禮服用	着				下				小計	冬禮服用		
	裾除	同毛	腰卷	シャツ	肌襦袢	胴着	同平常用	同外出用			夏禮服用	同平常用
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	一
一〇	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	一〇
一五、〇〇	九、〇〇	七、〇〇	一、七五	六、〇〇	二、四五	六、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	三六、〇〇	四〇、〇〇	一〇、〇〇	二四、〇〇
一一、五〇	四、五〇	二、三三	〇、八七	二、〇〇	一、三三	一、二〇	一、二五	一、六六	七、二〇	四、〇〇	二、〇〇	二、四〇
〇、九五	〇、五七	〇、一九	〇、〇七	〇、一六	〇、一〇	〇、一〇	〇、一三	〇、一三	〇、六〇	〇、三三	〇、一六	〇、二〇

附		小計	帯					
平常用靴下	禮服用靴下		雨天用靴	平常用靴	外出用靴	禮服用靴	平常用帽子	外出用帽子
八	四	一	一	四	二	三	三	
一月	一	一	八月	一	二	一	一	
10,000	16,000	2,900	19,000	106,000	58,000	29,000	63,000	
124,800	16,000	2,900	28,500	106,000	29,000	29,000	63,000	
10,333	1,333	0,244	2,333	8,833	2,441	2,441	5,255	

附		小計	帯					
同	外出用帶揚		禮服用帶揚	同	平常用帶止	外出用帶止	同	禮服帶止
一	一	一	一	二	五	二	一	
五月	一〇	一〇	五月	三	100,000	五	一〇	
3,500	6,500	3,000	2,000	4,000	190,000	3,000	1,500	
0,700	0,650	0,300	0,400	1,333	9,500	0,600	0,150	
0,050	0,050	0,011	0,030	0,111	0,790	0,050	0,101	

品		屬	
日傘	雨傘	首飾	同
一	一	二	一
二	五	100,000	六月
4,000	10,000	170,000	三月
2,000	2,000	8,500	三月
0,166	0,166	0,700	三月

品		屬	
雨傘	日傘	直履	平常用履物
一	一	二	三
五	五	六月	六月
10,000	20,000	1,400	10,000
2,000	4,000	2,800	3,333
0,166	0,333	0,233	0,270

品		屬	
平常用帶揚	禮服用半襟	同	同
一〇	三	一	一
25,500	5,400	20,000	10,000
8,500	5,400	4,000	4,000
0,700	0,400	1,000	2,000
0,050	0,050	0,090	0,166

品		屬	
平常用帶揚	禮服用履物	同	同
一〇	一	一	一
25,500	4,000	20,000	10,000
8,500	4,000	4,500	4,000
0,700	0,800	1,250	0,500
0,050	0,066	0,110	0,066

小計	1010,80	499,60	41,45	小計	65	418,30	58,43	4,76
總計	276,10	115,81	10,07	總計		356,50	38,58	3,12
男女累計	432,50	212,35	18,54	男女累計		356,30	547,24	49,50

原表には服種の下に地質が掲げてあつたが之を省略し、又表を短縮する必要から同種同使用年限の衣服は之を合算した、又表中の一個年當費用及び一個月當費用は著者が算出附加表示せるものである。

本表によれば、累計に示すが如く洋服は和服に比して多額の費用を要することが知られ、内譯をすれば禮服に於ては洋服は和服よりも高く、外出服に於ては和服は洋服よりも高い。この意味に於て、民間では禮服を和服とし、外出着を洋服とすれば安價となる。

衣服費を家事費總額に比すれば、月當三〇〇圓以下の生活費を支出する家庭に於ては約一五—一六%に相當してや、多額であることは、次に掲ぐる勞資協調會が調査した數字によつて明らかである。

家事費	1000—1500	1500—2000	2000—2500	2500—3000
種別				
俸給生活者	16,51	16,36	14,83	15,38
勞働生活者	14,42	15,21	16,50	13,46
平均	15,46	15,74	15,66	14,42

これによれば、家事費二〇〇圓までの衣服費は増加するが、それ以上は減少する。これ恐らくは二〇〇圓以下の生計では、食物費の支出のために止むを得ず衣服費を極端に減少せるものが、収入が少しづつ増加するに伴ひ衣服費を増加することが可能になるためであり、二〇〇圓以上では家事費總額が多くなるから衣服費の割合が小にても、金額の絶對値が相當に多くなるためによるものであらう。

さて、この割合を以て進めば、三〇〇圓以上の家事費を支出する家庭では、衣服費の割合が更に減少すべきであるから、假に之を一四%とすれば、前に掲げた衣服費明細表の累計に於て、一個月當洋服費一八五圓五四錢を支出するための家事費總額は、左の計算によつて約一三二五圓となる。

$$185.54 \times \frac{100}{14} = 1325.28$$

同様に一個月當和服費四九圓五〇錢を支出するための家事費總額は、約三五三圓五七錢となる。

$$49.50 \times \frac{100}{14} = 353.57$$

この結果によれば、一會計期を一個月として月收一三二五圓の生活は到底大衆的のものではなくして、一部富豪階級たらざるを得ないから、相當なる程度の洋服生活をなすことは極めて困難であるが、月收三五三圓は大衆的だとは云ひ難いが稍之を望み得ることであるといへる。況や禮服を民間的に和服として外出着のみを洋服にすれば、一層衣服費を節約し得ること、なる點は、先に公的活動服を洋服にすべしとする意見と一致する。

〔三〕服種の減少 我が國人が現今用ひてゐる衣服の種類及び同種の衣服の枚数が非常に多いことは、獨り衣服の限界價値を減少させるだけでなく、經濟上も亦頗る不利である、故に之を減少しなければならぬ。

思ふに我が國は土地南北に長く、北は殆ど寒帯に接し南は熱帯に連つて居り、東には渺茫た

る太平洋を控へ西にはシベリヤ大陸を背負ひ、熱風と寒風とは相交又し、海岸は洗ふに黒潮と寒潮とを以てするがため、氣候の變化は極めて複雑にして且急激である。かの夏に於て氣溫の著しく高きに加へて湿度の極めて大なるし反し、冬に於ては氣溫の著しく低きに加へて湿度の極めて小なるが如きも、我が國特有の氣候なるが如き其の一例である。

斯くの如く、氣候複雑にして急激なる變化に順應せんがため、種々の形態の衣服を案出作成し、春夏秋冬の朝夕に於ける氣溫に對して、任意に且容易に着脱し以て體溫調節の用を便じたのである。かの單衣物・袴・綿入・羽織・袴・袖無・丹前・長襦袢・半襦袢・ネンネコの如き種々の衣服を着て、日中次第に暖かになれば、丹前を脱ぎ袖無を脱ぎ羽織を脱ぐなど、重着と脱衣とを自由ならしめたことは、服種を多からしめた所以である。

蓋往時は、紡績工業は極めて幼稚であつたから、保温上優良なる性質を有する織物が無かつたのである。故に止むを得ずして粗悪なる織物を用ひて多くの種類の衣服を作成し、自由に任意に之を重着し或は脱衣して、體溫の調節を行つたのであるが、現時は紡績工業の偉大なる發達により、原糸も組織も極めて優良にして、一枚の下着にして良く冬季の保温を全うし得るものも決して稀ならざる状態であるから、昔時の如く多くの服種の衣服を作成して、朝夕寒暑の

気温の變化に伴ふて之を着脱するの必要がない。

著者が中學生であつた當時の洋服の下着の如きは、木綿メリヤス・木綿ネルの時代であつたから、嚴寒の時期にはメリヤス二枚重ねの服裝を餘儀されたのであつたが、現時市場に隘る、駱駝メリヤスならば、老人ですらも猶冬期一枚を以て優に保温の目的を達成し得るではなからうか。

斯くの如くであるから、成るべく服種を減少し、着物に於ては裕・單衣の二種位に止め、洋服ならば冬着夏着の二種に止め、同種の着物に於ては其の枚數を成るべく減少する方針を採ることが、衣服經濟上重要な問題である。況や衣服の原料たる綿花や羊毛は、印度・米國・濠洲等からの輸入品なるに於ては、國家經濟上より見ても亦極めて重要な問題だといはねばならない。

(三) 買溜の廢止 我が國人は衣服を多く所持することを誇りとし、所謂買溜鑑賞主義に陥つてゐる傾向が甚だ多いのである。公生活上の衣服はいふに及ばず、私生活上の衣服に於ても、各種の服種に屬する衣服をば多くの枚數づつ買求めることを目的とするのであつて、この傾向は男子よりも婦人に於て特に甚たしいことは、十目の視る所動かざる事實である。

かの婦人の會合などでは、出席者は毎會異なる衣服を着用するのは殆ど常態で、何時も同一の衣服を纏ふて出席することを恥辱なりと心得、知己友人の訪問や家事用達のための外出着すらも、毎回別々の衣服を着ねばならぬが如き風習は、言語に絶する惡習である。更に甚たしきに至つては、之を着用せずとも、單に之を購入所持すれば、それにて満足し得るのであつて、暑きにつけ寒きにつけ、箆笥の引出を引き抜いて滿載保存されし衣服を見渡せば、それにて満足するが如きに至つて、衣服を單に保存慾の満足と鑑賞の具とに亂用せるものといはねばならない。

斯くの如き傾向は嫁入仕度に於て極端に表れて、禮服何着・訪問服何着・外出服何着・平常服何着・十着・青年服幾通・中年服幾通・老年服幾通・箆笥幾棹長持幾棹の荷物を調べて大名の如き行列で練り出すのである。而かも衣裳陳列會を開催して百科店の如き賑はしさに内に、親戚知人を招待して之を觀覽させ、其の賞讃と美望とを贏ち得て誇りとするが如き風習の、何れの地方にも行はれ居るが如き、徳川幕府三百年の太平が産み出した餘弊とはいへ、あまりに甚だしき惡習だといはねばならぬ。

蓋衣服は、先に既に解説した通り、之を主觀的にいへば時代と共に發達する自己精神の表現

である。然るに昔時は、文化發達の速さは遅かつたから、之を表はす衣服の發達變遷も亦遅かつたのである。従つて五年乃至一〇年前の衣服も今日用ひて何等差支なく、今日の衣服を五年一〇年後の自己表現に之を用ひ得たのであつた。さうであつたから、嫁入當時に何十種何十枚の衣服を準備して、殆ど生涯の用に供し得べからしめ、更に其の子女にまで之を譲つて着せしめたなども、決して稀な事實ではなかつた。これ買溜鑑賞主義や嫁入仕度の荷物競争に見得を張つた所以の一つであらう。

然るに、現代に於ける文化發達の速さは頗る急速にして、昨是今非の日進月歩である。従つて之を表現する衣服も亦、その生地・柄合・色合に於て殆ど變遷發達極まりがなく、昨春の衣服今春に不適にして、昨秋の柄合今秋に不適なることは珍らしからずで、特に婦人服に於て甚だしい。況んや五年一〇年後に用ひることの、不適當なるに於ておやである。

斯く考へて來ると、衣服調達の方針に根本的改善を加へ、現在の生活上に必要な種類の衣服だけを、現在の自己精神表現に適せる生地・柄合・色合に就いて選定調製すべきであつて、將來のための買溜鑑賞主義は之を廢止しなければならぬ。従つて又嫁入仕度の如きも、現在の生活上必要な程度に止め、それ以外は、子を思ふ親心から婚嫁後の利益のためならば、衣類に

代ふるに寧ろ預金貯金信託證書又は有價證券の形によつて與へるならば、獨り必要な時期に至つて精神表現に適合せる衣服を買ひ得るのみでなく、其の期間に利殖の利益をも得るのであつて、時代適合の方法であると思ふ。

〔四〕地質染色の堅牢 衣服は服種を減少し、買溜主義を廢して、現在生活上必要なもののみを買入るゝとしても、更に其の選定上に地質染色の堅牢なるものを探ることが必要である。

昔時は、我が國民の經濟生活の水平準が低く、且物質文明の發達も低かつたから、染織工業も亦幼稚であつた。故に高價なる織物は大衆的には需要がなく、又精緻なる地質・堅牢なる染色の織物を造り出すことも不可能であつたことは、止むを得ぬ次第であつた。

それ故に、一般民衆は地質染色が不堅牢であつても、寧ろ安價なる織物を買入れて衣服を裁縫し、その衣服の着用期間即ち壽命を延長せんがために、絶えず裏返し仕立換を行つたのである。幸にして、當時の社會生活が現時に比して頗る單純であつたため、殆ど女子の社會的職業が無く、従つて女子の勞力賃銀が甚だしく安價であつたから、この安價なる勞力・時間を以て、頻繁に衣服の洗濯仕立換を行はしめ、以て僅に衣服の經濟を保つたのである。

然るに、現時の社會は人口も非常に増加し、組織も甚だしく複雑となると同時に、國內及び

國際活動も亦頗る煩瑣を極めるに至つたため、之に伴ふ女子の社會活動も亦増加し、其の勞力及び時間價值が高價となつて昔日の比ではない。然るにそれにも拘はらずして衣服の地質染色の不堅牢なるものを、安價なりとしてこれを求め、其の壽命延長策として洗濯仕立換のため、昔ながらの女子の時間勞力を多數に消費することは、經濟策としては時代錯誤の甚だしきものといはねばならぬ。

それ故に、今後に於ける衣服の經濟は、先づ地質染色の堅牢なるものを選定し、價格が多少高價なりとも、洗濯仕立換のために不廉なる女子の勞力時間の多數を之に消費することなからしめ、この餘力を以て他の有利なる生産活動に之を轉用せしむることは、獨り家庭經濟上の利益なるのみでなく、國家經濟上重要な問題だといふべきである。

今昭和五年度の國勢調査の統計によれば、人口總數九〇三九萬五〇四一人中の女子は四四七二萬〇三〇七人であるから、假にこれ等の女子が家庭生活の餘力を以て生産事業に従事し、一人一日につき金一圓に相當する活動を爲せりとすれば、一日につき生産増加は四四七二萬〇三〇七圓となり、一個年には一六三億二二九一萬二〇五五圓となる。

$$1 \times 44,720,307 \times 365 = 16,322,912,055$$

依て如何に甚大なる影響を國家經濟に及ぼすか知られる。

〔五〕**廣幅長尺物の切實** 我が國の衣服地は、昔時よりの習慣によつて一反物の丸賣丸買である。こゝに着尺物といふのは、普通の體格を有する我が國人の衣服を裁縫するに必要なべき幅さと長さとを有する布を以て一反とせる織物にして、織物の種類及び産地・製造人の異なるによつて多少の相違はあるが、鯨尺にて約幅九寸五分・長さ二丈八尺を以て一反としてゐる。然るに體格は人によつて各異なるから、一反の織物を以て衣服を裁縫する場合にそれぞれ多少の切落しを生ずるのである。今假に一人一個年に一着づつの衣服を造るとすれば、人口は九〇三九萬五〇四一人であるから一個年間の切落高は九〇三九萬五〇四一尺となり、一反は二丈八尺であるから、この切落高は左の計算によつて三二二萬八三九四反餘となる。

$$90,395,041 \div 28 = 3,228,394$$

織物の賣價は、木綿・麻・絹及び毛の纖維の種類、同纖維の織物でも平織・綾織・縞子織等の組織の種類によつて高下はあるが、之を一反につき金一〇圓と見れば、切落による損失金額は實に三二二八萬三九四〇圓の巨額に達すること左式に示す通りであつて、國家經濟上の由々敷大問題である。